弥生⑰シリーズ

弥生会計 プロフェッショナル 2ユーザー／ネットワーク／AE
弥生販売 プロフェッショナル 2ユーザー／プロフェッショナル 5ユーザー／ネットワーク

データを保存するデータベースをインストールしよう 2

データベースインストールマニュアル

こんなときに便利です!

データベース、
一括バックアップツールの
インストール方法を知りたい。

セットアップ中に
エラーが表示されたときの
対処方法を知りたい。

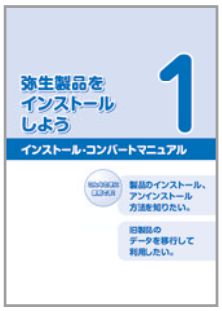
弥生

本書の活用方法

製品のセットアップには 2 冊のマニュアルが必要です

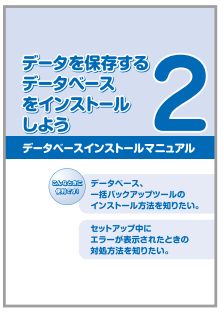
製品のセットアップには、『インストール・コンバートマニュアル』と『データベースインストールマニュアル』(本書)の 2 冊のマニュアルを使用します。

基本は



インストール・コンバート
マニュアル

必要に応じて、
参照します。



データベースインストール
マニュアル

製品のセットアップは、『インストール・コンバートマニュアル』の「セットアップの流れ」に沿って行います。

『インストール・コンバートマニュアル』の解説に従って、『データベースインストールマニュアル』を参照してください。

こんなときに本書を活用してください

● **製品をセットアップする前の注意事項を確認するとき**

- ネットワーク環境に関する注意事項
- データベースに関する注意事項

● **次の製品をインストールまたはアンインストールしたいとき**

- データベース(SQL Server)
- 一括バックアップツール

● **製品のセットアップ中にエラーが表示されたとき**

製品のセットアップ中に表示される主なエラーメッセージの対象方法などを解説しています。
エラーメッセージが表示された場合には、「困ったときは」(P93)を参照してください。

本書は次の製品で使用する共通のマニュアルです

お使いの製品によっては、画像および表記などが異なることがあります。

- 弥生会計ネットワーク
- 弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザー
- 弥生会計 AE
- 弥生販売ネットワーク
- 弥生販売プロフェッショナル 2 ユーザー/5 ユーザー

● OS に影響する操作を行う場合

インストールやコントロールパネルの操作など、OS に影響する操作を行うには管理者権限が必要です。これらの操作を行う際に、「ユーザーアカウント制御」に関するメッセージが表示された場合は、メッセージ内容を確認し、[続行]（[はい]）または[実行]ボタンをクリックします。管理者アカウントのパスワードを要求された場合は、コンピューターの管理者にご確認ください。

● 弥生販売プロフェッショナル 5 ユーザーをお使いの場合

弥生販売プロフェッショナル5ユーザーをお使いの場合は、「弥生販売プロフェッショナル2ユーザー」を「弥生販売プロフェッショナル5ユーザー」に読み替えてください。セットアップ方法については、「弥生販売プロフェッショナル 2 ユーザー」と同様です。

【お断り】
本書および弥生製品のヘルプは、Microsoft Windows Server 2008（または 2012）、Windows 7、SQL Server 2014（または2016、2008 R2）の環境で作成しています。お使いの環境によっては、画面および表記などが異なることがあります。
本書は、2016 年 8 月現在の製品仕様により作成しています。
そのため、本書の記載事項や画面などと、製品仕様が異なる場合も生じますことを、あらかじめご了承ください。
また、ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、弊社にご連絡ください。
弥生製品のサポートは、サポート加入状況によって、サポート・サービスの対象となる機能や環境が異なります。
詳細は『あんしん保守サポートガイド』でご確認ください。

『弥生』は、弥生株式会社の登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、SQL Server、Internet Explorer、Outlook、Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Adobe、Acrobat、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する各社の登録商標または商標です。
本文中、® マークは明記しておりません。

目　次

第１章　セットアップ前の確認　5

１　データベースに関する注意 6
1-1　弥生製品で使用するデータベースについて 6
1-2　データベースと YAYOI インスタンス 7
1-3　SQL Server 2014、SQL Server 2012 の
インストール前の確認事項 7
1-4　既に SQL Server がインストールされている場合 8
２　ネットワーク環境に関する注意 10
2-1　ネットワーク（LAN）環境について 10
2-2　データベースをインストールしたコンピューターの設定 ..11
2-3　ネットワーク上のコンピューターの設定について 13
2-4　データベースについて 14

第２章　データベースのセットアップ　15

１　データベースのセットアップの流れ 16
1-1　弥生製品プロフェッショナル２ユーザー、弥生会計 AE の場合 ..16
1-2　弥生製品ネットワーク with SQL / for SQL の場合 18
２　弥生製品プロフェッショナル２ユーザー/ 弥生会計 AE の場合 .. 20
2-1　インストール前の確認事項 20
2-2　データベースのインストール 21
３　弥生製品ネットワーク with SQL の場合 27
3-1　インストール前の確認事項 27
3-2　SQL Server 2014 Standard のインストール 28
3-3　sa パスワードの変更 34
3-4　SQL Server Management Studio のインストール 36
４　弥生製品ネットワーク for SQL の場合 39
4-1　YAYOI インスタンスの作成（SQL Server 2016） 40
4-2　YAYOI インスタンスの作成（SQL Server 2014） 48
4-3　YAYOI インスタンスの作成（SQL Server 2012） 56
4-4　YAYOI インスタンスの作成（SQL Server 2008 R2） ..65
５　YAYOI インスタンスの確認と実行方法 75
６　一括バックアップツールのインストール 76

目次

第３章　プログラムの修復と削除　79

1　データベースの削除 80
1-1　データベース(YAYOI インスタンス)の削除 80
1-2　SQL Server 2014(2016)の場合 80
1-3　SQL Server 2012 の場合 84
1-4　SQL Server 2008 R2(2008)の場合 87
1-5　SQL Server 2005 の場合 91
2　一括バックアップツールの修復と削除 92

第４章　困ったときは　93

1　設定の詳細 94
1-1　環境の設定の詳細 94
1-2　インストール中の設定の詳細 107
2　エラーが表示された場合の対処方法 108
2-1　インストール 108
2-2　データの新規作成／コンバート／製品の起動／
バックアップなど 110

第５章　付録　113

1　既に弥生製品をお使いの場合 114
2　SQL Server 2005 からの移行 115
3　データを保存するコンピューターの変更 116

1

セットアップ前の確認

セットアップを行う弥生製品の種類と弥生製品を運用するシステム構成のほか、ネットワーク（LAN）環境の確認が必要です。

この章では、セットアップの前に必要な確認事項などについて説明します。

1 データベースに関する注意 …… 6
2 ネットワーク環境に関する注意 …… 10

1　データベースに関する注意

弥生製品のデータは「YAYOI インスタンス」という弥生製品用のデータベースに保存されます。そのため、弥生製品を使用するにはデータベースが必要です。
ここでは、データベース環境について確認します。また、既にお使いのデータベース環境に弥生製品をインストールした場合についても確認します。

1-1　弥生製品で使用するデータベースについて

弥生製品プロフェッショナル 2 ユーザー/ 弥生会計 AE

弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザー、弥生販売プロフェッショナル 2 ユーザー、弥生会計 AE では、Microsoft SQL Server 2012 Express（以降 SQL Server 2012 Express と表記）を使用します。
SQL Server 2012 Express は、本製品の DVD-ROM からインストールできます。

- データ領域は、1 事業所データにつき最大 10GB です。

弥生製品ネットワーク with SQL /for SQL

弥生会計ネットワーク、弥生販売ネットワークでは、
Microsoft SQL Server 2016、Microsoft SQL Server 2014、Microsoft SQL Server 2012、Microsoft SQL Server 2008 R2/2008 が必要です。
以降は、Microsoft SQL Server を「SQL Server」と表記します。

● **弥生製品ネットワーク with SQL**

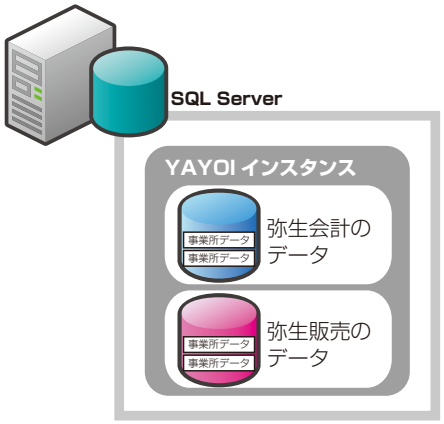
SQL Server 2014 Standard SP1 が同梱されています。
同梱されている SQL Server 2014 Standard SP1 は「サーバー/CAL ライセンス」です。弥生以外のアプリケーションでの使用、テーブルの追加などはできません。16 コアを超えるサーバーでのご使用はできません。

● **弥生製品ネットワーク for SQL**

別途、SQL Server 2016、SQL Server 2014、SQL Server 2012、SQL Server 2008 R2/2008 のいずれかが必要です。

1-2　データベースと YAYOI インスタンス

弥生製品のデータは「YAYOI インスタンス」という弥生製品用のデータベースに保存されます。



- **弥生製品プロフェッショナル 2 ユーザー、弥生会計 AE**
  SQL Server 2012 Express をインストールすると、弥生製品用の YAYOI インスタンスが作成されます。
- **弥生製品ネットワーク with SQL**
  同梱されている SQL Server 2014 Standard SP1 をインストールすると、弥生製品用の YAYOI インスタンスが作成されます。
- **弥生製品ネットワーク for SQL**
  弥生製品用の YAYOI インスタンスを作成する必要があります。

1-3　SQL Server 2014、SQL Server 2012 のインストール前の確認事項

- TCP/IP などのネットワーク設定が正しく行われている必要があります。
  ネットワーク環境については P10 を参照してください。
- SQL Server 2012 をインストールするには、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 および、Microsoft .NET Framework 4.0 以上が必要です。
- SQL Server 2014 をインストールするには、PowerShell 2.0、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 および Microsoft .NET Framework 4.0 以上が必要です。
- ＜既に SQL Server がインストールされている場合のみ＞
  既に SQL Server を使用している場合はデータベースのインストール前に、名前付きインスタンス数が 50 個未満であることを確認してください。
  インスタンスは、最大 50 個まで作成できます。
  なお、事業所データは「YAYOI インスタンス」に作成されます。作成できる事業所データの数に制限はありません。

1-4　既に SQL Server がインストールされている場合

既に SQL Server がインストールされているコンピューターに、弥生製品の DVD-ROM からデータベースをインストールすると、次のようになります。他のバージョンの SQL Server との混在については、次の表を確認してください。
旧バージョンの SQL Server と混在させる場合は、必ず旧バージョンの製品からインストールします。インストール済みの SQL Server よりも古いバージョンを後からインストールすると、正常に動作しなくなることがあります。

<table>
<tr><th>現在の環境</th><th>YAYOI インスタンスが
存在する</th><th>YAYOI インスタンスが
存在しない</th></tr>
<tr><td>SQL Server 2014</td><td rowspan="4">既に存在する YAYOI インスタンスをそのまま使用
（データベースはインストールされません）</td><td>YAYOI インスタンスを作成</td></tr>
<tr><td>SQL Server 2012</td><td>弥生製品ネットワーク with SQL：SQL Server 2014 Standard をインストールしてYAYOIインスタンスを作成
弥生製品プロフェッショナル 2 ユーザー、弥生会計 AE：YAYOI インスタンスを作成</td></tr>
<tr><td>SQL Server 2008 R2</td><td>弥生製品ネットワーク with SQL：SQL Server 2014 Standard をインストールして YAYOI インスタンスを作成
弥生製品プロフェッショナル 2 ユーザー、弥生会計 AE：SQL Server 2012 Express をインストールして YAYOI インスタンスを作成</td></tr>
<tr><td>SQL Server 2008</td><td>弥生製品ネットワーク with SQL：SQL Server 2014 Standard をインストールしてYAYOIインスタンスを作成
弥生製品プロフェッショナル 2 ユーザー、弥生会計 AE：SQL Server 2012 Express をインストールして YAYOI インスタンスを作成</td></tr>
<tr><td>SQL Server 2005</td><td rowspan="2">弥生 17 シリーズでは、動作対応外です。既に存在する YAYOI インスタンスは使用できません（データベースはインストールされません。SQL Server 2014 または SQL Server 2012 へ移行してください）</td><td>弥生製品ネットワーク with SQL：インストールできません
弥生製品プロフェッショナル 2 ユーザー、弥生会計 AE：SQL Server 2012 Express をインストールして YAYOI インスタンスを作成</td></tr>
<tr><td>SQL Server 2000
（MSDE 2000）</td><td>弥生製品ネットワーク with SQL：SQL Server 2014 Standard をインストールしてYAYOIインスタンスを作成
弥生製品プロフェッショナル 2 ユーザー、弥生会計 AE：SQL Server 2012 Express をインストールして YAYOI インスタンスを作成</td></tr>
<tr><td>SQL Server 7.0
（MSDE 1.0）</td><td colspan="2" rowspan="2">インストールできません</td></tr>
<tr><td>SQL Server 6.5</td></tr>
</table>

新しいコンピューターへの移行について

弥生製品(プログラム)や事業所データを、別のコンピューターに移行する方法については、弊社ホームページの「新しいコンピューターへの移行」を参照してください。
弥生製品の DVD-ROM をお持ちでない方のために、プログラムを入手する方法も説明しています。
弥生会計をご使用の場合:
www.yayoi-kk.co.jp/ist/account/help/ikou.html
弥生販売をご使用の場合:
www.yayoi-kk.co.jp/ist/dealing/help/ikou.html

SQL Server 2000(MSDE 2000)がインストールされている場合

SQL Server 2000(MSDE 2000)は、動作対応外です。SQL Server 2000(MSDE 2000) をご使用の場合は、SQL Server 2014 または SQL Server 2012 へ移行してください。
弥生会計ネットワーク for SQL または弥生販売ネットワーク for SQL をご使用の場合は、お持ちのSQL Server 2014、SQL Server 2012、SQL Server 2008 R2/2008 のいずれかへ移行を行ってください。

他の弥生製品をご使用の場合

SQL Server 2014 または SQL Server 2012 への移行を行う前に、YAYOI インスタンスを使用する他の弥生製品が移行する SQL Server に対応していること、移行に際してライセンスなどに問題がないことをご確認ください。
対応していない製品がある場合や問題がある場合は、対応製品へのバージョンアップや、データを保存するコンピューターの変更を検討してください。

→データを保存するコンピューターの変更(P116)

SQL Server 2005 がインストールされている場合

SQL Server 2005 は、動作対応外です。SQL Server 2005 をご使用の場合は、SQL Server 2014 または SQL Server 2012 へ移行してください。
なお、SQL Server 2005 がインストールされている状態では、SQL Server 2014 はインストールできません。データベース(YAYOI インスタンス)のデータをバックアップしてから、SQL Server 2005 を削除し、SQL Server 2014 へ移行してください。
弥生会計ネットワーク for SQL または弥生販売ネットワーク for SQL をご使用の場合は、お持ちのSQL Server 2014、SQL Server 2012、SQL Server 2008 R2/2008 のいずれかへ移行を行ってください。

SQL Server 7.0 または 6.5 がインストールされている場合

SQL Server 7.0、または SQL Server 6.5 がインストールされている状態では、弥生製品のデータベースはインストールできません。他のコンピューターにインストールしてください。

2　ネットワーク環境に関する注意

弥生製品を運用するネットワーク環境についての注意事項を記載します。お使いのネットワーク環境を確認してください。
ネットワーク環境の変更や設定は、システムへ大きな影響を与える場合があります。設定方法などが不明な場合は、必ずシステム管理者に確認してください。
「サーバー」とは、弥生製品のデータを保存するコンピューターを指します。「クライアント」とは、弥生製品を操作するコンピューターを指します。システム構成については、別冊『インストール・コンバートマニュアル』を参照してください。
環境や設定を確認するために、次の項目をチェックリストとしてご利用ください。問題がなければボックス ☐ に、チェック ☑ を入れます。

2-1　ネットワーク(LAN)環境について

弥生製品では常に事業所データと接続し、入力した取引などを保存するため、安定したネットワーク環境で運用してください。

☐ 通信速度について

10Base-T 以上のネットワーク環境で運用してください。

☐ 無線 LAN について

無線 LAN の環境はネットワークの接続が不安定でデータ破損の原因となります。有線 LAN の環境で運用してください。

☐ DNS について

弥生製品を運用するコンピューターは、すべて同一の DNS に接続されている必要があります。また、DNS サーバーに関しても PING コマンドが正しく実行できる必要があります。DNS が有効になっていない場合は正しく運用できないことがあります。DNS が存在しない場合、各クライアントの hosts ファイルを適切に設定する必要があります。

☐ コンピューターのセグメント

サーバーとクライアントコンピューターのセグメントが異なる場合は、弥生製品からサーバーを参照することはできません。サーバーとクライアントコンピューターは同じセグメントで運用してください。

☐ その他のネットワークに関する注意

ネットワークハブが過度にカスケード接続されている場合は正しく運用できない場合があります。そのため、このようなネットワーク構成では使用しないでください。

IP アドレスの割り当て

ルーターの DHCP 機能を使い、IP アドレスを自動割り当てしている場合は基本的に問題ありませんが、IP アドレスを手動で割り当てている場合は、複数のコンピューターに同一の IP アドレスが重複して割り当てられていないことを確認してください。適切に IP アドレスが割り当てられていない場合は正しく運用できません。

ネットワーク経路の確認

弥生製品を運用するコンピューター間で PING コマンドを実行した際に正しく動作するネットワーク環境であることを確認してください。

PING コマンド: コマンドプロンプトから実行できるコマンドで、指定した IP アドレスを持ったコンピューターに対してネットワークの疎通を確認するコマンド

ルーターでの接続

ネットワーク上に複数のルーターが存在している場合、異なるルーターに接続されたコンピューター間では、弥生製品を正しく運用できないことがあります。同一のルーターに接続されているコンピューター間で使用してください。
また、ルーターの設定によって、データへのアクセスが遮断されることがあります。サーバーの IP アドレスを固定するなど、アクセスが遮断されないための対応をしてください。

2-2　データベースをインストールしたコンピューターの設定

SQL Server ネットワークユーティリティの設定

SQL Server 2016、SQL Server 2014、SQL Server 2012、SQL Server 2008 R2/2008 の SQL Server Configuration Manager（SQL Server 構成マネージャー）で確認できる「有効になっているプロトコル」に TCP/IP が入っていない場合は正しく動作しないことがあります（通常は初期設定されています）。

省電力の設定

弥生製品の起動中に、サーバーが「スリープ」や「スタンバイ」などの状態になると「事業所データとの接続が失われました」などのエラーメッセージが表示されます。サーバーの省電力の設定で「スリープ」や「スタンバイ」などの設定をしている場合は、弥生製品を正しく運用できない場合があります。

→「事業所データとの接続が失われました。」と表示された場合（P111）

ファイアウォールの設定

ファイアウォール機能の制御により通信が遮断されていると、「サーバーにアクセスできませんでした。」などのエラーメッセージが表示されてデータを開けません。この場合は、サーバー側のコンピューターのファイアウォール機能で、「SQL Server」の通信を許可する必要があります。
ファイアウォールの設定方法については、次の参照先をご覧ください。

→ファイアウォールの設定(P94)
→別途ファイアウォールソフトをインストールしている場合(P105)

コンピューター名の変更

コンピューター名を変更すると、SQL Server のすべてのインスタンスは使用できなくなります。
コンピューター名の変更は、システムに大きな影響を与えるだけではなく、SQL Server を使用している他のソフトウェアが使用できなくなるなどの場合があります。コンピューター名を変更する前にシステム管理者に確認してください。
コンピューター名を変更する場合は、次の手順で YAYOI インスタンスのデータを移行してください。

データベース(YAYOI インスタンス)の削除
YAYOI インスタンスを削除すると、YAYOI インスタンスに保存されているすべてのデータが削除され、元に戻すことはできません。

1. YAYOI インスタンスのすべてのデータをバックアップ
   一括バックアップツールを使うと YAYOI インスタンスのデータを一括してバックアップできます。
2. YAYOI インスタンスの停止
3. YAYOI インスタンスを削除
4. コンピューター名の変更
5. データベース(YAYOI インスタンス)を再インストール
6. 手順 1 で作成したバックアップファイルを復元

ユーザーアカウントの設定

ワークグループを使用しているなど、ドメイン管理がされていない場合は、サーバーにアクセスする Windows のユーザーアカウントを、サーバーで設定する必要があります。

サーバーへのアクセス権限の確認

クライアントコンピューター(他のコンピューター)から新規データを保存したり、作成したデータにアクセスしたりするには、サーバーの「書き込み」「読み取り」「変更」のアクセス権限が必要です。

※ サーバーへのアクセス権限の設定方法は、ネットワークの構成により異なります。ネットワーク管理者にご確認ください。

共有フォルダーのアクセス権限の確認

バックアップファイルの作成と復元では、サーバー(データベースをインストールしたコンピューター)の次のバックアップ用の共有フォルダー(「Backup」フォルダー)を一時的に使用しています。
この共有フォルダーの設定が行われていないとバックアップファイルの作成と復元ができません。
サーバーにアクセスしてバックアップファイルの作成や復元を行うには、クライアントコンピューター(他のコンピューター)のログインユーザーに、サーバーへのアクセス権限が必要です。アクセス権限の設定方法は、ネットワーク管理者にご確認ください。

● **初期設定のバックアップ用の共有フォルダー**
システムドライブが C ドライブの場合
「C:￥ProgramData￥Yayoi￥Backup」

＜弥生製品ネットワーク for SQL の場合＞

弥生製品ネットワーク for SQL の場合、バックアップ用の共有フォルダーは自動で作成されません。任意のフォルダーをバックアップ用の共有フォルダーとして設定してください。
バックアップ用共有フォルダーは、必ず作成してください。

→バックアップ用共有フォルダーの設定(P106)

2-3　ネットワーク上のコンピューターの設定について

ドメインの使用

ドメインを使用する場合、すべてのコンピューターが同一のドメインに属している必要があります。異なるドメインに属するコンピューターから、別のコンピューターに保存されている事業所データをバックアップしようとした場合は、ユーザーのログインに関するエラーが発生する場合があります。そのような場合には、バックアップを実行しようとしたコンピューターからデータベースがインストールされているコンピューターを Windows のエクスプローラーで参照し、ユーザーとパスワード認証によるログインをする必要があります。この作業は、どちらかのコンピューターを再起動するたびに行う必要があります。

互いのコンピューターが検索で見つけられる

事業所データの「バックアップ」や「バックアップの復元」は、データベースの機能だけでなく、Windows のファイル共有も使用して行います。そのため、互いのコンピューターが、Windows の検索機能で検索できるコンピューターでない場合は正しく動作しません。

SQL クライアント設定ユーティリティ

cliconfg.exe で確認できる「プロトコルが有効になる順序」の最上位が TCP/IP になっている必要があります。
cliconfg.exe で「プロトコルの暗号化を設定する」にチェックが入っている場合はインストールができません。設定の変更についてはシステム管理者にご相談ください。

2-4　データベースについて

データベース(YAYOI インスタンス)の削除

YAYOI インスタンスを削除すると、YAYOI インスタンスに保存されているすべてのデータが削除され、元に戻すことはできません。

復元先の SQL Server のバージョン

- **旧バージョンの SQL Server には復元できません**

  バックアップファイルは、バックアップ元の SQL Server のバージョンよりも古いバージョンの SQL Server には復元できません。バックアップ元の SQL Server よりも新しいバージョンの SQL Server に復元することはできます。

  例えば、SQL Server 2012 で作成したバックアップファイルは、SQL Server 2008 R2/2008 には復元できません。SQL Server 2008 R2/2008 のバックアップファイルは、SQL Server 2012 に復元できます。

2

データベースのセットアップ

データを保存するコンピューター(サーバー)にデータベースをインストールします。製品の種類によってセットアップの流れが異なります。

1 データベースのセットアップの流れ …… 16
2 弥生製品プロフェッショナル 2 ユーザー/ 弥生会計 AE の場合 … 20
3 弥生製品ネットワーク with SQL の場合 …… 27
4 弥生製品ネットワーク for SQL の場合 …… 39
5 YAYOI インスタンスの確認と実行方法 …… 75
6 一括バックアップツールのインストール …… 76

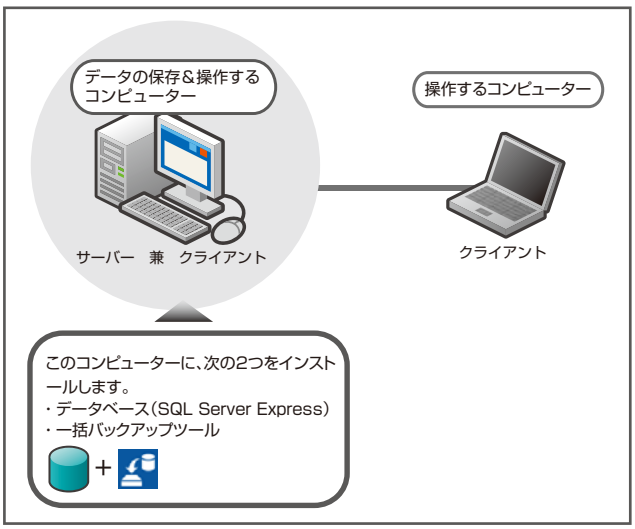
1　データベースのセットアップの流れ

データを保存するコンピューター(サーバー)にデータベースのセットアップを行います。製品によってデータベースのセットアップの流れが異なります。購入された製品のセットアップ方法を参照してください。

製品名	参照先
• 弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザー • 弥生販売プロフェッショナル 2 ユーザー • 弥生会計 AE	P16
• 弥生会計ネットワーク with SQL • 弥生販売ネットワーク with SQL	P18
• 弥生会計ネットワーク for SQL • 弥生販売ネットワーク for SQL	P18

1-1　弥生製品プロフェッショナル２ユーザー、弥生会計 AE の場合

「データの保存＆操作するコンピューター(サーバー兼クライアント)」に「データベース(SQL Server Express)」と「一括バックアップツール」をインストールします。



メモ

弥生会計 AE の場合

弥生会計を 1 台で使用する場合は、その使用するコンピューターが「データの保存＆操作するコンピューター」に該当します。

☞ セットアップ手順

データベース（SQL Server Express）のインストール → P20

弥生製品のデータを保存するコンピューターにデータベース（SQL Server Express）をインストールします。
データベース（SQL Server Express）をインストールすると、YAYOI インスタンスが作成されます。

YAYOI インスタンスの起動を確認 → P75

YAYOI インスタンスが起動していることを確認します。

一括バックアップツールのインストール → P76

一括バックアップツールをインストールします。一括バックアップツールとは、データベース（SQL Server）に保存された複数の事業所データを、一括してバックアップすることができるツールです。また、曜日や時刻を指定して自動的にバックアップすることもできます。操作方法については、ヘルプを参照してください。

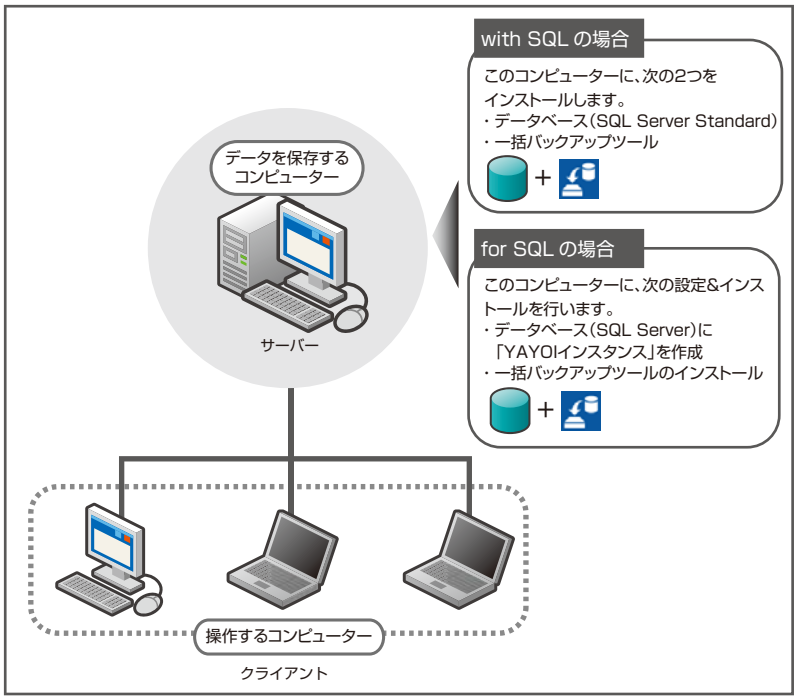
1-2　弥生製品ネットワーク with SQL / for SQL の場合

● **弥生製品ネットワーク with SQL**

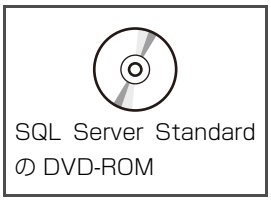
「データを保存するコンピューター(サーバー)」に「データベース(SQL Server Standard)」と「一括バックアップツール」をインストールします。

● **弥生製品ネットワーク for SQL**

「データを保存するコンピューター(サーバー)」の「データベース(SQL Server)」に「YAYOI インスタンス」を作成して、「一括バックアップツール」をインストールします。



☞ セットアップ手順

with SQL の場合	for SQL の場合
データベース（SQL Server Standard）のインストール → P27 弥生製品のデータを保存するコンピューターにデータベース(SQL Server Standard)をインストールします。 データベース(SQL Server Standard)をインストールすると、YAYOI インスタンスが作成されます。  SQL Server Standard の DVD-ROM	YAYOI インスタンスの作成 → P39 データを保存するコンピューターに、YAYOI インスタンスを作成します。

YAYOI インスタンスの起動を確認 → P75
YAYOI インスタンスが起動していることを確認します。

一括バックアップツールのインストール → P76
一括バックアップツールをインストールします。一括バックアップツールとは、データベース(SQL Server)に保存された複数の事業所データを、一括してバックアップすることができるツールです。また、曜日や時刻を指定して自動的にバックアップすることもできます。操作方法については、ヘルプを参照してください。

2　弥生製品プロフェッショナル 2 ユーザー/弥生会計 AE の場合

＜ SQL Server Express のインストール＞

データを保存するコンピューター(サーバー)に、データベースをインストールします。

2-1　インストール前の確認事項

データベースをインストールする前に、次のことを確認してください。

- **ハードディスクの空き容量**
  インストール先のドライブに 1GB 以上の空き容量が必要です。なお、データ領域は別途必要です。空き容量が足りない場合は、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してからインストールしてください。
- **ネットワーク環境**
  「ネットワーク環境に関する注意」(P10)の注意事項を参考に、インストールするコンピューターのネットワーク環境が適切であることを確認してください。
- **インストールするユーザーの権限**
  インストールするコンピューターの管理者権限を持っている方がインストールを行ってください。
- **ログインユーザー名で使用されている文字**
  半角英数字のログインユーザー名でログインしてインストールしてください。ログインユーザー名に全角文字や半角カタカナ、スペースが含まれる場合、データベースのインストールはエラーになります。
- **データベースのインストール先**
  インストール先となるドライブまたはフォルダーが、読み取り専用や暗号化、圧縮されている場合はインストールできません。システム管理者にご確認ください。
- **旧バージョンの SQL Server との共存について**
  「既に SQL Server がインストールされている場合」(P8)を参照してください。

2-2　データベースのインストール

弥生製品の DVD-ROM からデータベースをインストールします。インストールを行うと YAYOI インスタンスが作成されます。
インストールを始める前に、すべてのプログラムを終了してください。
特に、常駐プログラムが動作している場合、正しくインストールできないことがあります。
[データベースのインストール]では、弥生製品をご利用いただくために必要な次のプログラムをインストールします。お使いのコンピューターの環境に合わせて必要なプログラムがこの中から選択され、インストールが行われます。

- .NET Framework 3.5 SP1
- .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack
- .NET Framework 4.5.2
- .NET Framework 4.5.2 日本語 Language Pack
- SQL Server 2012 Express SP2

インストールの途中で再起動を促す画面が表示された場合、DVD-ROM はそのまま取り出さずに指示に従って再起動してください。再起動後は、[弥生シリーズセットアップ]画面が自動的に表示されるので、[インストール開始]ボタンをクリックして、インストールの続きを再開します。

Windows 10/8.1 をご使用の場合はインストール時にインターネットへの接続が必要です
Windows 10/8.1をご使用の場合、.NET Framework 3.5 SP1 は Windows Update を通じて提供されるため、インストール時にインターネットに接続している必要があります。

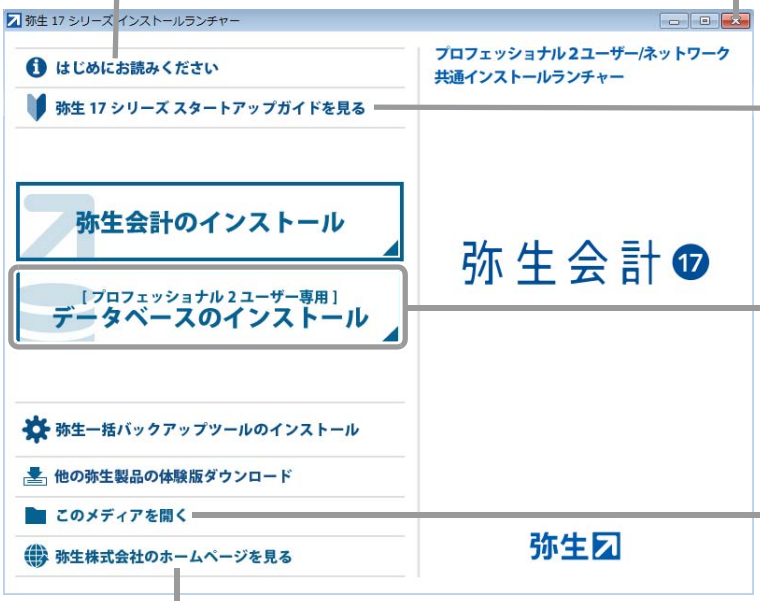
☞ データベースをインストールする

1. **起動しているすべてのプログラムを終了します。**
   インストールを始める前に、すべてのプログラムを終了してください。特に、常駐プログラムが動作していると、正しくインストールできない場合があります。

2. **DVD-ROM ドライブに弥生製品の DVD-ROM をセットします。**
   弥生製品のインストールランチャーが表示されます。

3. [データベースのインストール]をクリックします。

＜弥生会計の場合＞



※ ご使用の製品によっては、表示される項目が異なります。

メモ

インストールランチャーが表示されない場合

次の手順で弥生製品のインストールランチャーを表示してください。

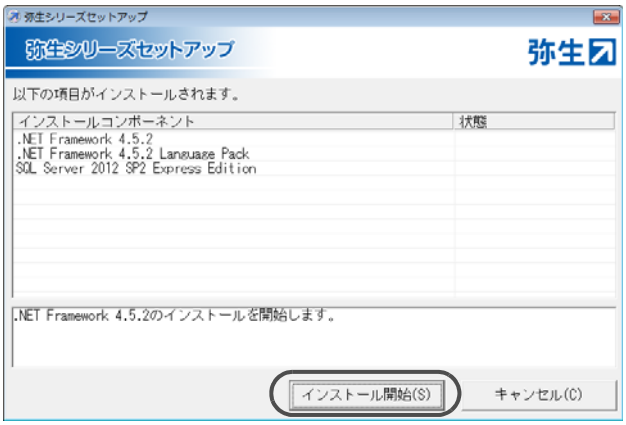
1. エクスプローラーを表示します。
   Windows 10/8.1/7 の場合：デスクトップを表示して、タスクバーの[エクスプローラー]ボタンをクリックします。
   Windows Vista の場合：[スタート]ボタンをクリックして、[コンピューター](または[マイコンピュータ])をクリックします。
2. 弥生製品の DVD-ROM をセットしたドライブのアイコンを右クリックして、表示されるメニューから[開く]をクリックします。
3. [yayoi17]ファイルをダブルクリックします。

---

4. コンピューターをチェックして、インストールが必要な項目と、そのインストール状況が表示されます。

表示される項目は、コンピューターの OS や環境により異なります。

5. [インストール開始]ボタンをクリックすると、インストールされていない項目のインストールが始まります。

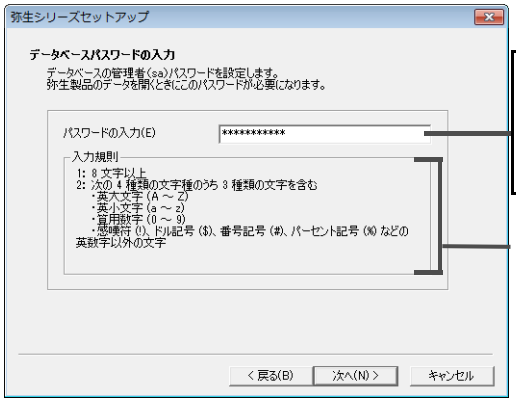


6. SQL Server 2012 Express の使用許諾契約画面が表示されます。
使用許諾契約内容を読み、内容に同意いただける場合は、[使用許諾契約の条項に同意します]にチェックを付けて、[次へ]ボタンをクリックします。

7. 「データベースの使用について」を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

8. 「データベースパスワードについて」を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

9. データベースの管理者パスワード(sa パスワード)を指定します。



データベースの sa パスワードは、忘れないよう、別冊『インストール・コンバートマニュアル』の「覚え書き(メモ)」に記入するなどして、大切に管理してください。

指定するパスワードは、この条件を満たす必要があります。
→パスワードの指定について (P24)

ここで指定したパスワードが「sa パスワード」になります。パスワードは、弥生製品に付属の SQL Server 2012 Express では、後から変更や確認をすることはできません。また、弥生製品の各種設定で必要になります。大切に保管してください。
パスワードの指定については、次の注意を参照してください。

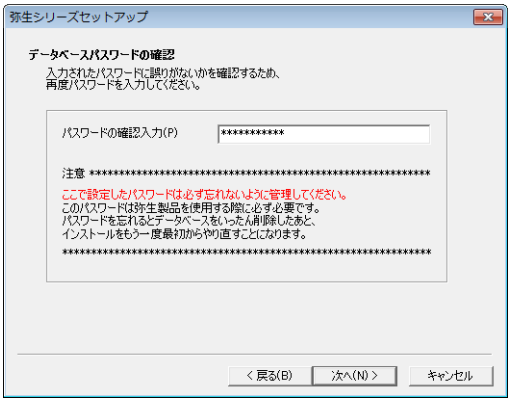
注意

パスワードの指定について

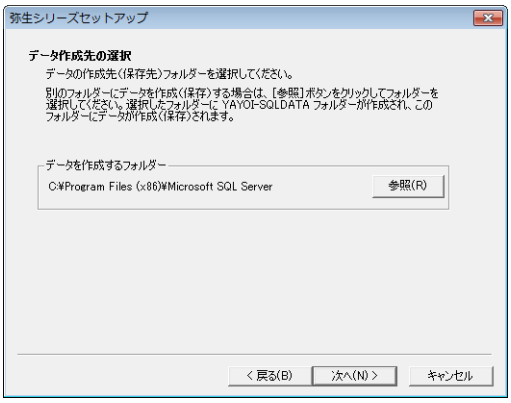
- 指定するパスワードについて
  sa パスワードには、以下の「入力規則」を満たす 8 文字以上の文字列を指定する必要があります。
  <入力規則>
  次の 4 種類の文字種のうち 3 種類の文字を含むこと
  - 英大文字(A ～ Z)
  - 英小文字(a ～ z)
  - 算用数字(0 ～ 9)
  - 感嘆符(!)、ドル記号($)、番号記号(#)、パーセント記号(%)などの英数字以外の文字

  ここで指定するパスワードは弥生製品でも設定が必要になります。設定したパスワードを忘れないようにしてください。忘れた場合は、SQL Server 2012 Express の再インストールが必要な場合があります。
  →『インストール・コンバートマニュアル』−「データベースへの接続設定」
  また、弥生製品に付属の SQL Server 2012 Express では、後からパスワードの変更や確認をすることはできません。
- パスワードの指定要件が異なる場合
  Windows の環境によっては、パスワードの指定要件が異なる場合があります。
  →sa パスワードの指定要件が異なる場合(P107)
- パスワード指定後に必要な設定
  パスワードの指定後に弥生製品での設定が必要になります。
  →sa パスワードの指定後に必要な設定(P107)

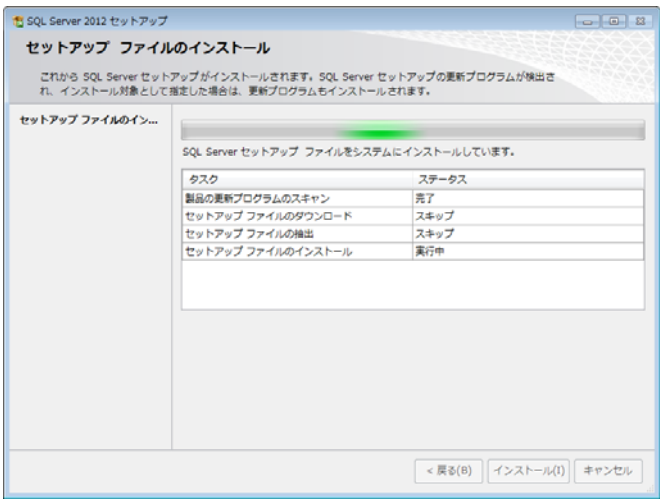
10.パスワードの確認入力画面が表示されたら、再度、同じ sa パスワードを入力して[次へ]ボタンをクリックします。



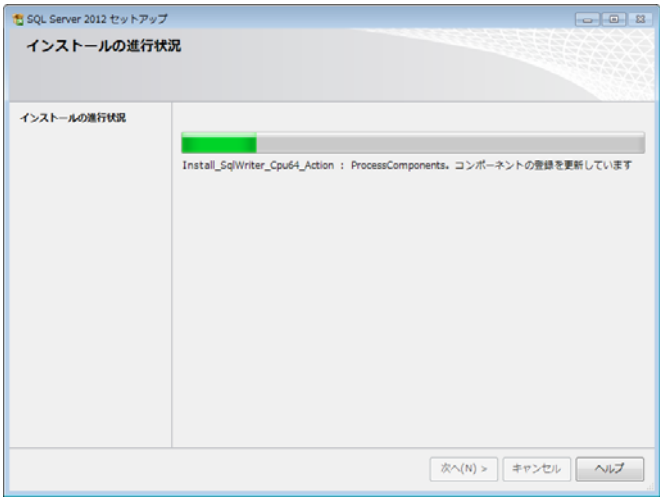
11.データの作成先を確認して[次へ]ボタンをクリックします。
作成先を変更する場合は[参照]ボタンをクリックします。



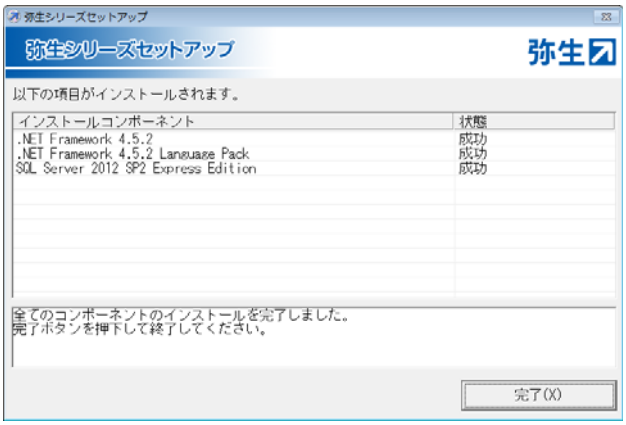
12.プログラムをインストールする準備ができましたメッセージが表示されるので、[インストール]ボタンをクリックします。
インストールが完了するまで 30 分から 90 分程度かかる場合があります。



インストール中は次の画面が表示されます。表示される項目は、異なることがあります。



13.すべてのインストールが終わったら[完了](または[再起動])ボタンをクリックします。



メモ

再起動の確認メッセージが表示された場合

メッセージの指示に従ってコンピューターを再起動します。

YAYOI インスタンスの起動の確認

データベースのインストールが終わったら、YAYOI インスタンスが起動していることを確認します。

→YAYOI インスタンスの確認と実行方法(P75)

3　弥生製品ネットワーク with SQL の場合

＜ SQL Server Standard のインストール＞

サーバーに SQL Server 2014 Standard をインストールします。

3-1　インストール前の確認事項

データベースのインストールの前に、次のことを確認してください。

- **ハードディスクの空き容量**
  インストール先ドライブに 6GB 以上の空き容量が必要です。なお、データ領域は別途必要です。十分な空き容量があることを確認してからインストールしてください。
- **ネットワーク環境**
  「ネットワーク環境に関する注意」(P10)の注意事項を参考に、インストールを行うコンピューターのネットワーク環境が適切であることを確認してください。
- **インストールするユーザーの権限**
  インストールするコンピューターの管理者権限を持っている方がインストールを行ってください。
- **ログインユーザー名で使用されている文字**
  半角英数字のログインユーザー名でログインしてインストールしてください。ログインユーザー名に全角文字や半角カタカナ、スペースが含まれる場合、データベースのインストールはエラーになります。
- **旧バージョンの SQL Server との共存について**
  「既に SQL Server がインストールされている場合」(P8)を参照してください。
- **データベースのインストール先**
  インストール先となるドライブまたはフォルダーが、読み取り専用や暗号化、圧縮されている場合はインストールできません。システム管理者にご確認ください。
- **PowerShell 2.0**
  SQL Server 2014 をインストールするには、PowerShell 2.0が必要です。
- **Windows Server 2008 R2 Standard にインストールする場合**
  Windows Server 2008 R2 環境では、「.NET Framework 3.5.1 機能」が有効でなければ SQL Server 2014 Standard をインストールすることはできません。インストール前に必ず有効にしてください。
  有効にする手順は、「はじめにお読みください」を参照してください。「はじめにお読みください」は、弥生会計または弥生販売の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブに入れて表示されるインストールランチャーで、[はじめにお読みください]をクリックすると表示できます。

メモ

Windows Server 2012 R2/2012 をご使用の場合はインストール時にインターネットへの接続が必要です

Windows Server 2012 R2/2012 をご使用の場合、.NET Framework 3.5 SP1 は Windows Update を通じて提供されるため、インストール時にインターネットに接続している必要があります。

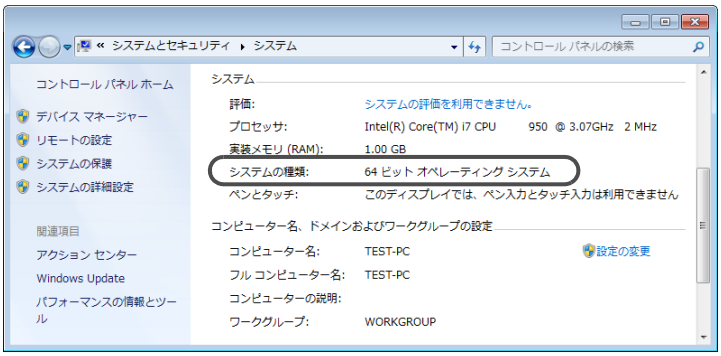
3-2　SQL Server 2014 Standard のインストール

同梱されている SQL Server 2014 Standard をインストールします。SQL Server 2014 Standard のインストールを行うと YAYOI インスタンスが作成されます。

使用する DVD-ROM を確認する

SQL Server 2014 Standard の DVD-ROM は 2 枚同梱されていますが、使用するのは 1 枚だけです。はじめに、ご使用のコンピューターの種類を確認して、使用する DVD-ROM を選択します。

1. **コントロールパネルを表示します。**
   - Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合：[スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Windows システムツール]－[コントロールパネル]をクリックします。
   - Windows 7/Windows Server 2008 R2/2008 の場合：[スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。
2. **[システムとセキュリティ](または[システムとメンテナンス])をクリックして、[システム]をクリックします。**
3. **システムの種類を確認します。**



- 32 ビットと表示されている場合：32 ビットと表記された DVD-ROM を使用します。
- 64 ビットと表示されている場合：64 ビットと表記された DVD-ROM を使用します。

☞ データベースをインストールする

インストールを始める前に、すべてのプログラムを終了してください。特に、常駐プログラムが動作している場合、正しくインストールできないことがあります。
インストールでは、SQL Server 2014 Standard のほかに、必要なプログラムをインストールします。

→エラーが表示された場合の対処方法(P108)

● **セットアップ画面が表示された場合**

インストールするプログラムによっては、セットアップ画面が表示されます。その場合は画面の指示に従ってください。

● **再起動を促す画面が表示された場合**

インストールの途中で再起動を促す画面が表示された場合は、DVD-ROM は取り出さずにそのままで指示に従って再起動してください。再起動後は、[弥生シリーズセットアップ]画面が自動的に表示されるので、[インストール開始]ボタンをクリックして、インストールの続きを再開します。

1. **DVD ドライブに SQL Server 2014 Standard の DVD-ROM をセットします。**
   弥生シリーズセットアップが起動します。

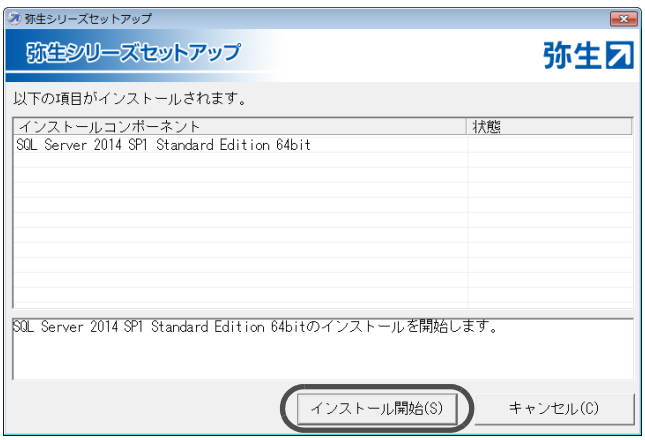
   ＜弥生シリーズセットアップが起動しない場合＞

   - Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
     [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール]－[ファイル名を指定して実行]をクリックします。[名前]に以下の「DVD ドライブが D の場合」のように入力します。
   - Windows 7/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
     [スタート]ボタンをクリックし、[プログラムとファイルの検索]をクリックして、以下の「DVD ドライブが D の場合」のように入力します。

   DVD ドライブが D の場合 D:￥batchinstaller.exe /SQL

2. **コンピューターをチェックして、インストールが必要な項目と、そのインストール状況が表示されます。**
   表示される項目は、コンピューターの OS や環境により異なります。

3. **[インストール開始]ボタンをクリックすると、インストールされていない項目のインストールが始まります。**



<SQL Server 2014 Standard のインストール>

1. SQL Server のインストールまで進むと、下図が表示されます。
   SQL Server 2014 Standard Edition の使用許諾契約内容を確認し、[使用許諾契約の条項に同意します。]にチェックを付けて、[次へ]ボタンをクリックします。

2. 「データベースの使用について」を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

3. 「データベースパスワードについて」を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

4. データベースの管理者パスワード(sa パスワード)を指定します。

データベースの sa パスワードは、忘れないよう、別冊『インストール・コンバートマニュアル』の「覚え書き(メモ)」に記入するなどして、大切に管理してください。

指定するパスワードは、この条件を満たす必要があります。
→下記の注意を参照

ここで指定したパスワードが「sa パスワード」になります。sa パスワードは、弥生製品の各種設定で必要になります。大切に管理してください。

パスワードの指定については、次の注意を参照してください。

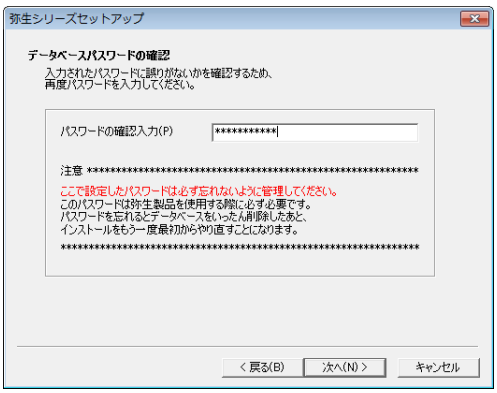
注意

パスワードの指定について

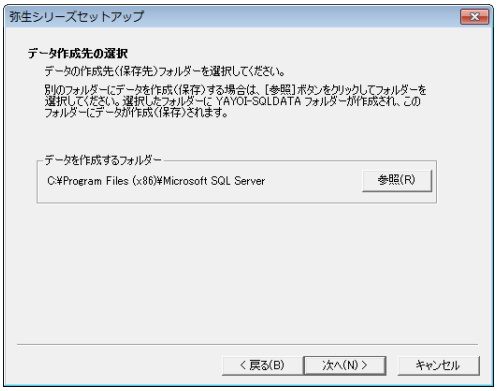
- 指定するパスワードについて
  sa パスワードには、以下の「入力規則」を満たす 8 文字以上の文字列を指定する必要があります。
  ＜入力規則＞
  次の 4 種類の文字種のうち 3 種類の文字を含むこと
  - 英大文字(A ～ Z)
  - 英小文字(a ～ z)
  - 算用数字(0 ～ 9)
  - 感嘆符(!)、ドル記号($)、番号記号(#)、パーセント記号(%)などの英数字以外の文字

  ここで指定するパスワードは弥生製品でも設定が必要になります。設定したパスワードを忘れないようにしてください。忘れた場合は、SQL Server 2014 の再インストールが必要な場合があります。
  →『インストール・コンバートマニュアル』−「データベースへの接続設定」
- パスワードの指定要件が異なる場合
  Windows の環境によっては、パスワードの指定要件が異なる場合があります。
  →sa パスワードの指定要件が異なる場合(P107)
- パスワード指定後に必要な設定
  パスワードの指定後に弥生製品での設定が必要になります。
  →sa パスワードの指定後に必要な設定(P107)

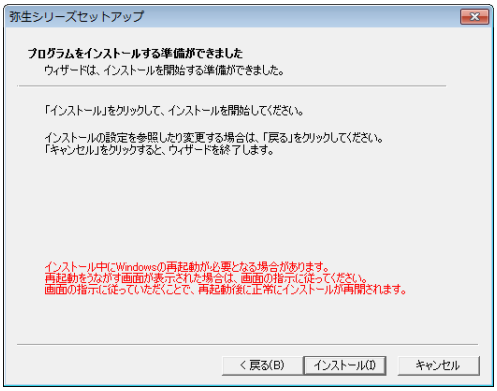
5. パスワードの確認入力画面が表示されたら、再度、同じ sa パスワードを入力して[次へ]ボタンをクリックします。



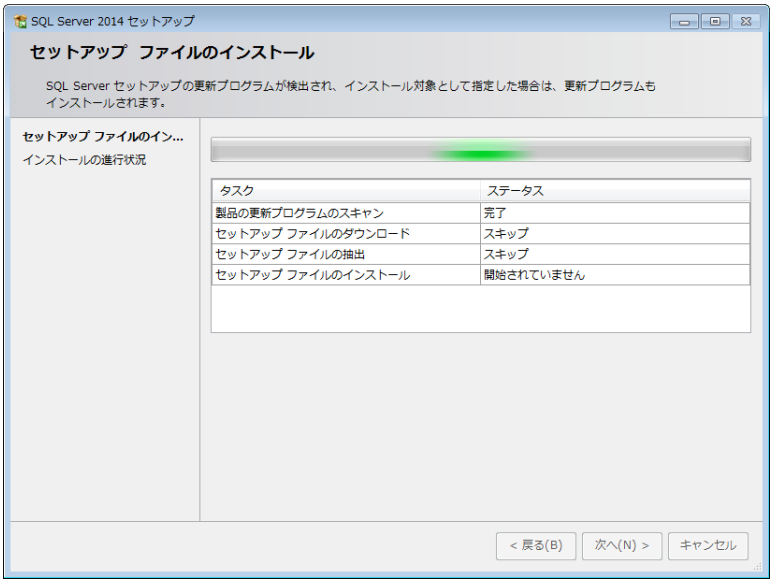
6. データの作成先を確認して[次へ]ボタンをクリックします。
作成先を変更する場合は[参照]ボタンをクリックします。



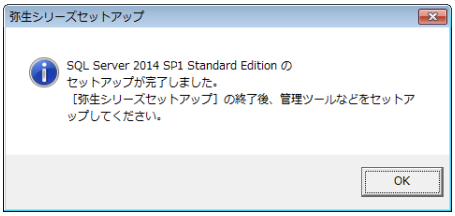
7. 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されるので、[インストール]ボタンをクリックします。
インストールが完了するまで 30 分から 90 分程度かかる場合があります。



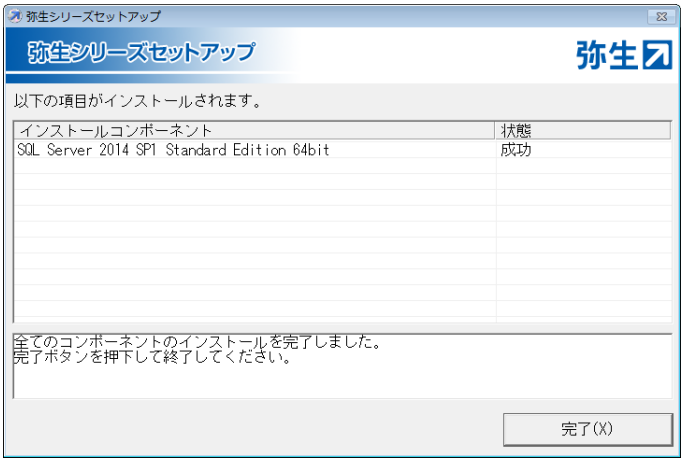
インストール中は次の画面が表示されます。表示される項目は、異なることがあります。



8. セットアップの完了メッセージが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。



9. [弥生シリーズセットアップ]の[完了](または[再起動])ボタンをクリックします。



メモ

再起動の確認メッセージが表示された場合

メッセージの指示に従ってコンピューターを再起動します。

YAYOI インスタンスの起動の確認

データベースのインストールが終わったら、YAYOI インスタンスが起動していることを確認します。

→YAYOI インスタンスの確認と実行方法(P75)

3-3　sa パスワードの変更

データベースのインストール時に指定した sa パスワードは SQL Server Management Studio で変更することができます。

メモ

SQL Server Management Studio のインストール

sa パスワードの変更は、SQL Server Management Studio で行います。弥生製品ネットワーク with SQL では DVD-ROM からインストールできます。

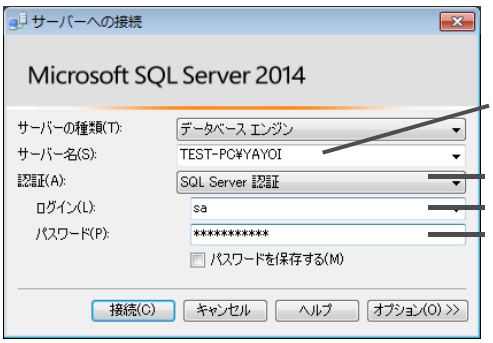
→SQL Server Management Studio のインストール(P36)

SQL Server Management Studio については 日本マイクロソフト株式会社のホームページを参照してください。

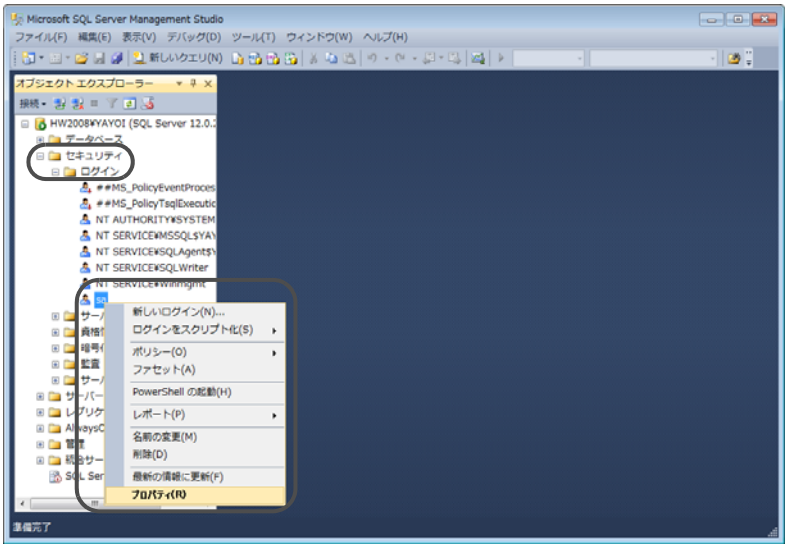
sa パスワードを変更する

1. **[Microsoft SQL Server Management Studio]を起動します。**
   - Windows Server 2012 R2/2012 の場合
     スタート画面からすべてのアプリを表示して、[Microsoft SQL Server 2014]－[SQL Server Management Studio]をクリックします。
   - Windows Server 2008 R2/2008 の場合
     [スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Microsoft SQL Server 2014]－[SQL Server Management Studio]をクリックします。

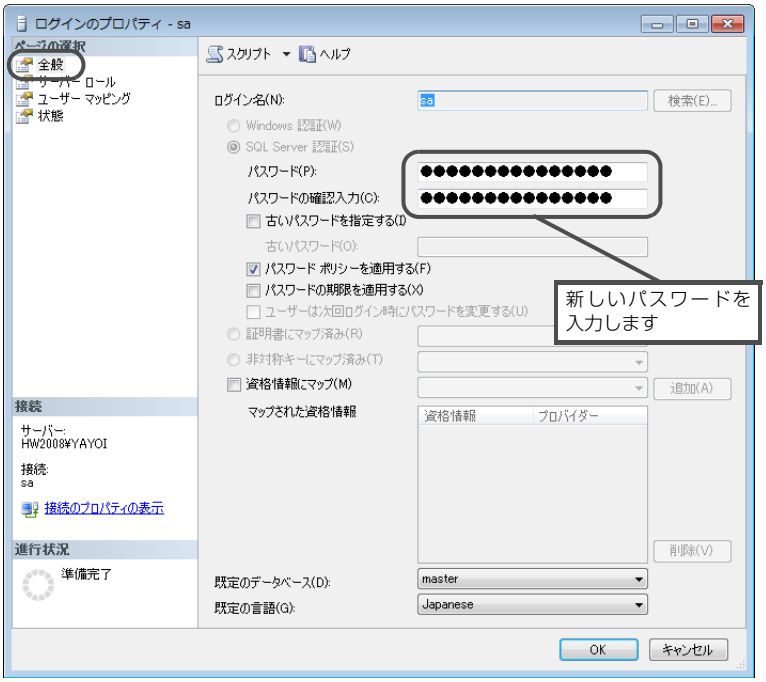
2. **[サーバーへの接続]ダイアログが表示された場合は次のように設定して[接続]ボタンをクリックします。**
   [Microsoft SQL Server Management Studio]が起動します。



3. **[セキュリティ]の[ログイン]を開き、[sa]で右クリックして、表示されたメニューから[プロパティ]を選択します。**
   [ログインのプロパティ]ダイアログが表示されます。



4. **[ページの選択]で[全般]を選択し、[パスワード]と[パスワードの確認入力]に新しいパスワードを入力します。**



5. **[OK]ボタンをクリックします。**
   sa のパスワードが変更されます。

弥生製品でも sa パスワードの設定が必要です

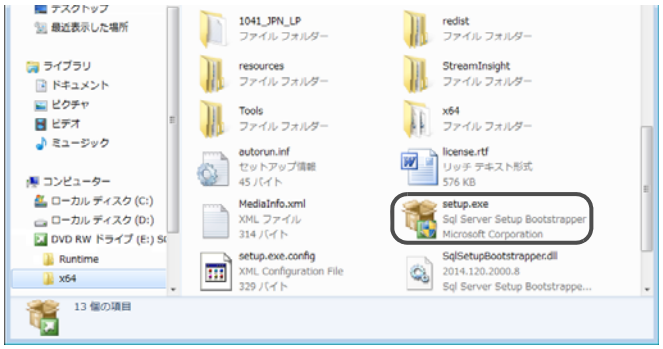
SQL Server のインストール時に設定した sa パスワードは、クライアント側の弥生製品でも設定する必要があります。弥生製品をインストールしたコンピューターが複数ある場合は、コンピューターごとにそれぞれ設定します。詳細については、『インストール・コンバートマニュアル』－「データベースへの接続設定」を参照してください。

3-4　SQL Server Management Studio のインストール

弥生製品 ネットワーク with SQL では、DVD-ROM の [setup.exe] からインストールできます。SQL Server Management Studio については、日本マイクロソフト株式会社のホームページを参照してください。

☞ SQL Server Management Studio をインストールする

1. DVD-ROM ドライブに SQL Server 2014 Standard の DVD-ROM をセットします。
2. エクスプローラーを表示します。
   - Windows Server 2012 R2/2012 の場合
     デスクトップを表示して、タスクバーの[エクスプローラー]ボタンをクリックします。
   - Windows Server 2008 R2/2008 の場合
     [スタート]ボタンをクリックして、[コンピューター]（または[マイコンピュータ]）をクリックします。
3. [コンピューター]（または[マイコンピュータ]）の DVD-ROM ドライブを選択し、「x86」フォルダーまたは「x64」フォルダーを開きます。
4. [Setup.exe]をダブルクリックします。



5. 画面左側の[インストール]ボタンをクリックした後、画面右側の[SQL Server の新規スタンドアロン インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します]をクリックします。

[グローバル ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。

6. [グローバル　ルール]画面ですべての項目が成功したら、[OK]ボタンをクリックします。

[製品の更新プログラム]画面が表示されます。

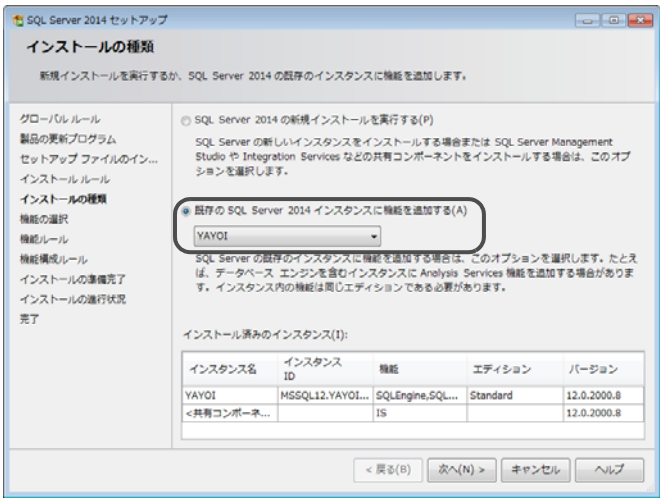
7. [製品の更新プログラム]画面で画面の指示に従い、[次へ]ボタンをクリックします。

[インストール ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。

8. [インストール　ルール]画面ですべての項目が成功したら、[次へ]ボタンをクリックします。

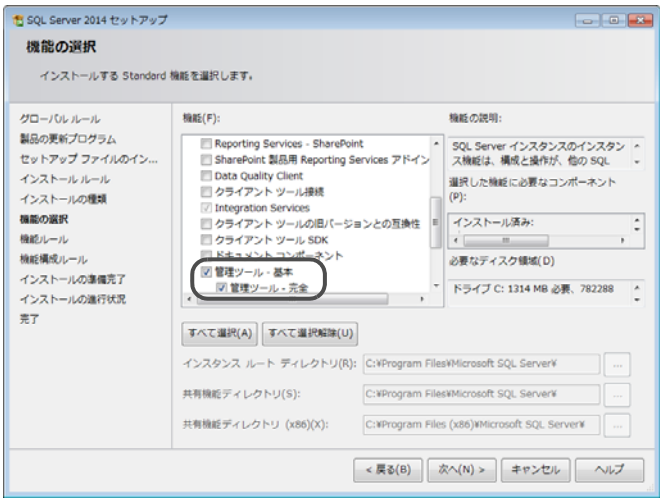
[インストールの種類]画面が表示されます。

9. [既存の SQL Server 2014 インスタンスに機能を追加する]を選択した後、[YAYOI]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



[機能の選択]画面が表示されます。

10.[管理ツール - 基本]と[管理ツール - 完全]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



[機能構成 ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。

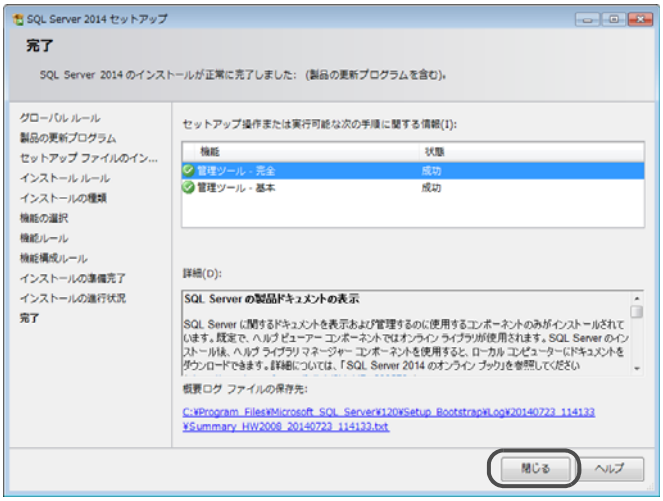
11.[機能構成 ルール]画面ですべての項目が成功したら、[次へ]ボタンをクリックします。

[インストールの準備完了]画面が表示されます。

12.[インストール]ボタンをクリックします。

インストールが開始され、完了すると[完了]画面が表示されます。

13.[閉じる]ボタンをクリックします。



4　弥生製品ネットワーク for SQL の場合

弥生製品 for SQL を使用する場合は、お持ちの SQL Server 2016、2014、2012、2008 R2/2008 をサーバーにインストールします。

弥生用のインスタンスの作成

弥生製品で運用するためには、お持ちの SQL Server のメディアを使って、YAYOI インスタンスという弥生製品用のデータベースを作成します。

● **SQL Server 2016 をご使用の場合**

SQL Server 2016 を利用するには、Microsoft .NET Framework 4.6 が必要です。

● **SQL Server 2014 をご使用の場合**

SQL Server 2014 を利用するには、PowerShell 2.0 、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 および Microsoft .NET Framework 4.0 が必要です。

● **SQL Server 2012 をご使用の場合**

弥生 17 シリーズを使用するには、SQL Server 2012 SP1 が必要です。
SQL Server 2012 をご使用の場合には、SQL Server 2012 SP1 の更新プログラムをインストールしてください。
SQL Server 2012 SP1 については、日本マイクロソフト株式会社のホームページを参照してください。
また、SQL Server 2012 を利用するには、PowerShell 2.0 が必要です。

● **SQL Server 2008 R2 をご使用の場合**

弥生 17 シリーズを使用するには、SQL Server 2008 R2 SP2 が必要です。SQL Server 2008 R2/R2 SP1 をご使用の場合には、SQL Server 2008 R2 SP2 の更新プログラムをインストールしてください。
SQL Server 2008 R2 SP2 については、日本マイクロソフト株式会社のホームページを参照してください。

● **Windows Server 2012 R2/2012 をご使用の場合**

SQL Server 2012/2008 R2 を使用するには、コンピューターに .NET Framework 3.5 SP1 がインストールされている必要があります。.NET Framework 3.5 SP1 については、日本マイクロソフト株式会社のホームページを参照してください。
Windows Server 2012 R2/2012 をご使用の場合、.NET Framework 3.5 SP1 は Windows Update を通じて提供されるため、インストール時にインターネットに接続している必要があります。

● **Windows Server 2008 R2/2008 をご使用の場合**

Windows Server 2008 R2/2008 の環境では、「.NET Framework 3.5.1 機能」が有効でなければ SQL Server 2012/2008 R2 をインストールすることはできません。インストール前に必ず有効にしてください。
有効にする手順は、「はじめにお読みください」を参照してください。「はじめにお読みください」は、弥生製品の DVD-ROM を DVD-ROM ドライブに入れて表示されるインストールランチャーで、[はじめにお読みください]をクリックすると表示できます。

● **再起動を促す画面が表示された場合**

インストールの途中で再起動を促す画面が表示された場合は、メッセージの指示に従ってコンピューターを再起動してください。

4-1　YAYOI インスタンスの作成(SQL Server 2016)

SQL Server 2016 の YAYOI インスタンスを作成する手順を説明します。
SQL Server 2014、SQL Server 2012、SQL Server 2008 R2 の手順は、以下を参照してください。

→YAYOI インスタンスの作成(SQL Server 2014)(P48)
→YAYOI インスタンスの作成(SQL Server 2012)(P56)
→YAYOI インスタンスの作成(SQL Server 2008 R2)(P65)

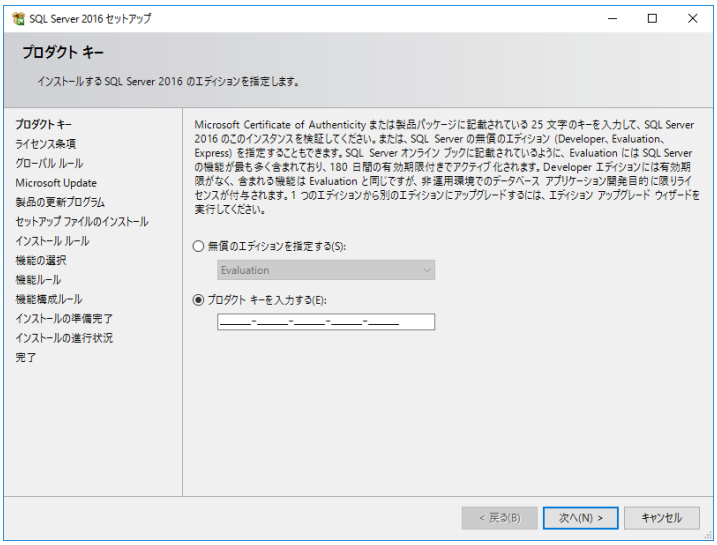
☞ YAYOI インスタンスを作成する

作業を始める前に、すべてのプログラムを終了してください。

1. **お持ちの SQL Server 2016 の DVD-ROM を、サーバーのドライブにセットします。**
   [インストールセンター]が表示されない場合は、[コンピューター](または[マイコンピュータ])を開いて DVD-ROM ドライブをダブルクリックし、「setup.exe」をダブルクリックしてください。

2. **画面左側の[インストール]をクリックした後、画面右側の[SQL Server の新規スタンドアロン インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加]をクリックします。**

3. DVD-ROM のケースに記載されているプロダクトキーを入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

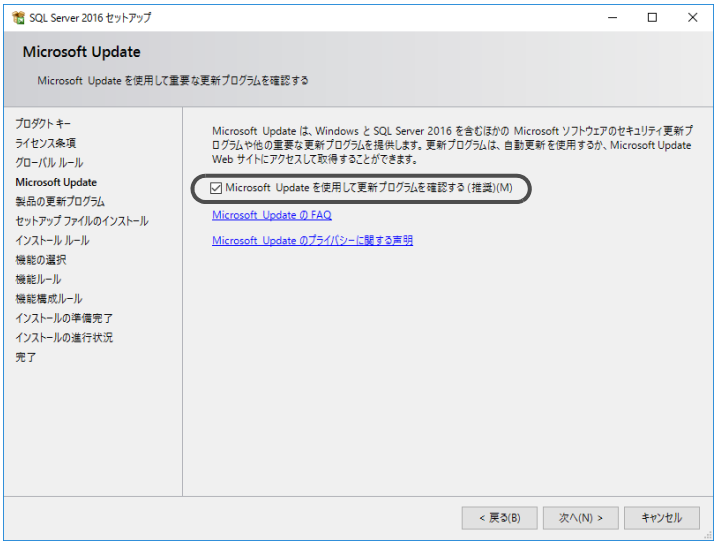


[ライセンス条項]画面が表示されます。

4. ライセンス条項に同意する場合は、[ライセンス条項に同意します。]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

[Microsoft Update]画面が表示されます。

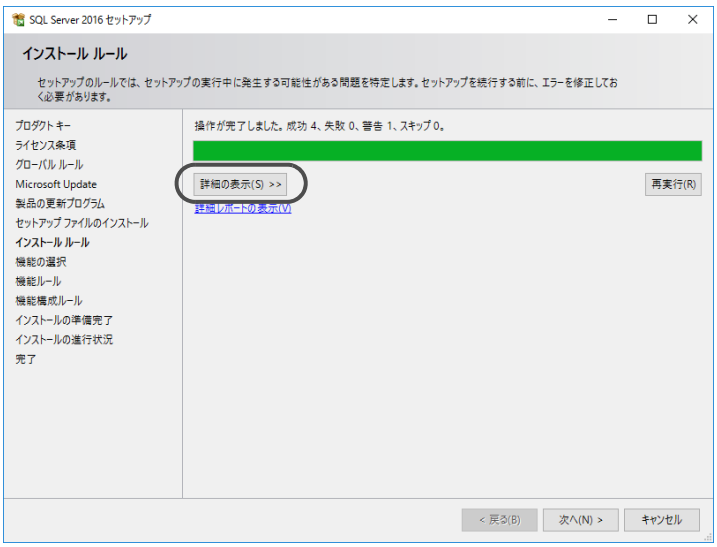
5. Microsoft Update を使用して更新プログラムを確認する場合は、[Microsoft Update を使用して更新プログラムを確認する]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。



[セットアップ ファイルのインストール]が自動で開始され、[インストール ルール]画面が表示されます。

6. [失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。

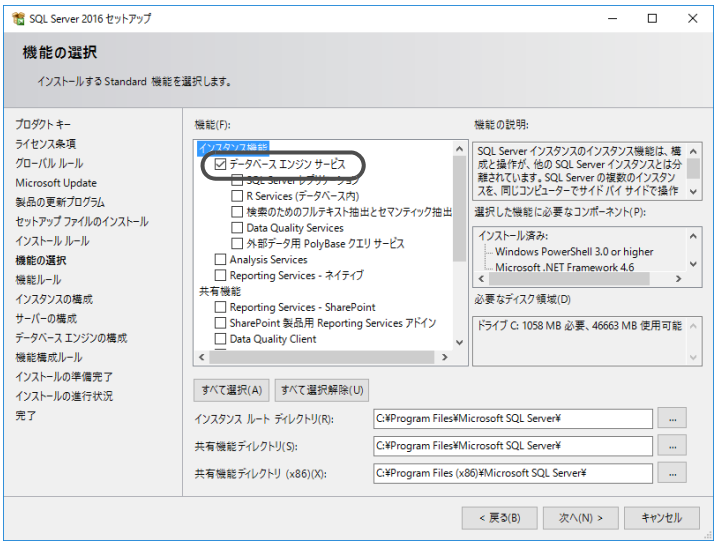


[機能の選択]画面が表示されます。

7. [データベース エンジン サービス]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

この画面ではオプション機能をインストールできます。[管理ツール 完全]にチェックを付けると、sa パスワードの変更などを行うためのツールなどがインストールされます。

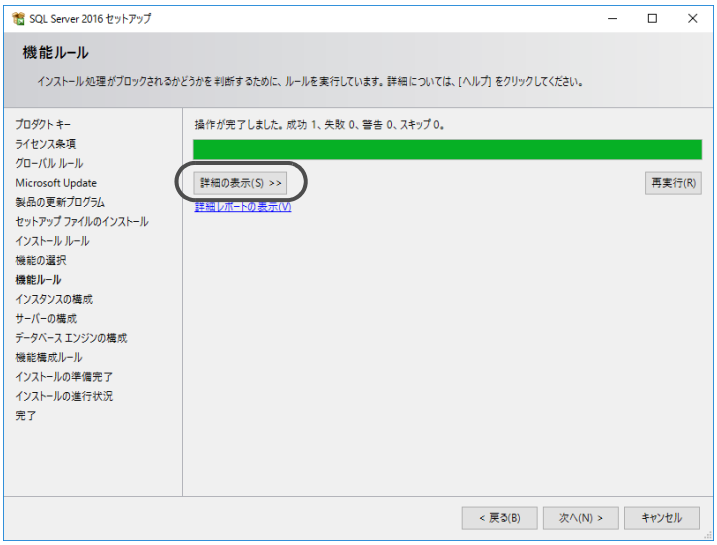
インストールオプションについては、ネットワーク管理者に確認してください。



[機能 ルール]が自動で開始され、[機能 ルール]画面が表示されます。

8. [失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

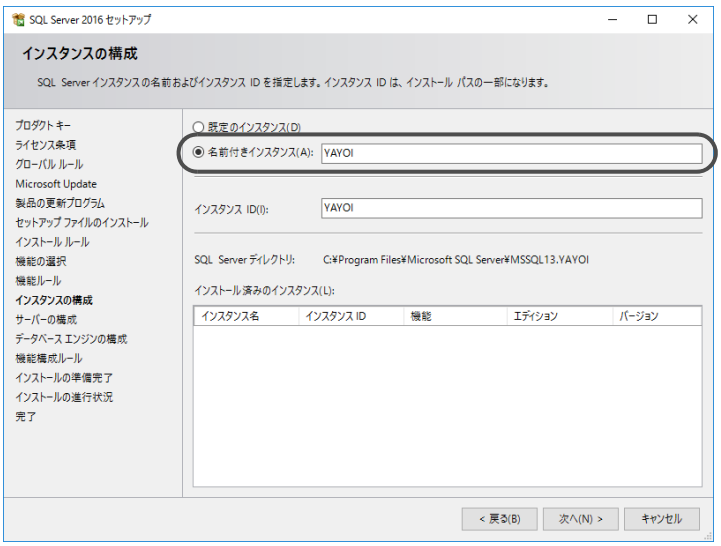
[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



[インスタンスの構成]画面が表示されます。

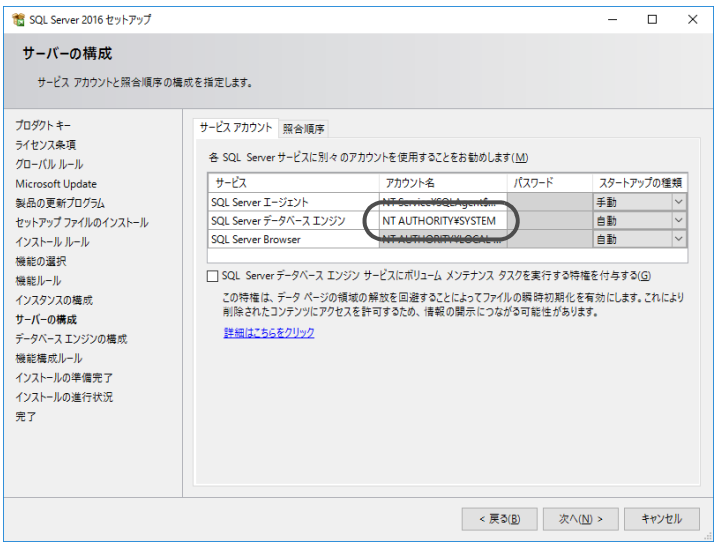
9. [名前付きインスタンス]を選択した後、半角大文字で「YAYOI」と入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

弥生製品で使用するには、インスタンス名を「YAYOI」にする必要があります。



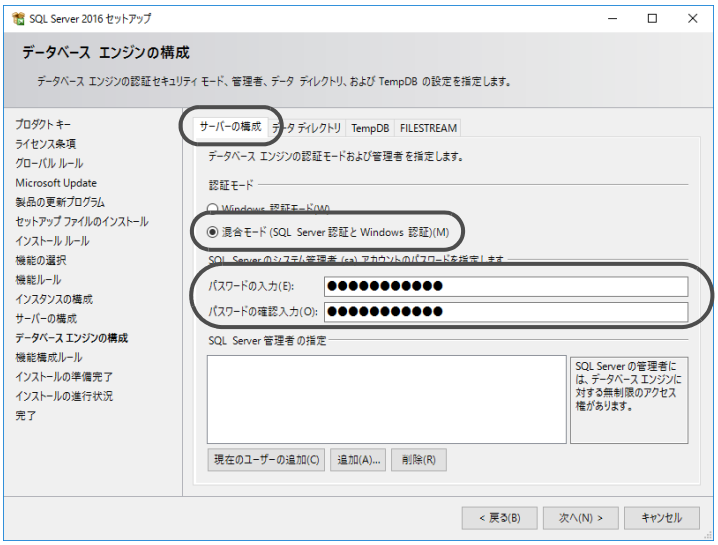
[サーバーの構成]画面が表示されます。

10. [SQL Server データベース エンジン]で[アカウント名]に「NT AUTHORITY￥SYSTEM」と入力して、[次へ]ボタンをクリックします。



[データベース エンジンの構成]画面が表示されます。

11.[サーバーの構成]タブで「混合モード」を選択します。
弥生製品は「混合モード」で動作します。



12.[SQL Server のシステム管理者（sa）アカウントのパスワードを指定します。]にパスワードを入力し、確認用のパスワードを再度入力します。
ここで入力したパスワードが「sa パスワード」になります。sa パスワードは、弥生製品の各種設定で必要になります。大切に保管してください。

パスワードの指定については、次の注意を参照してください。

注意

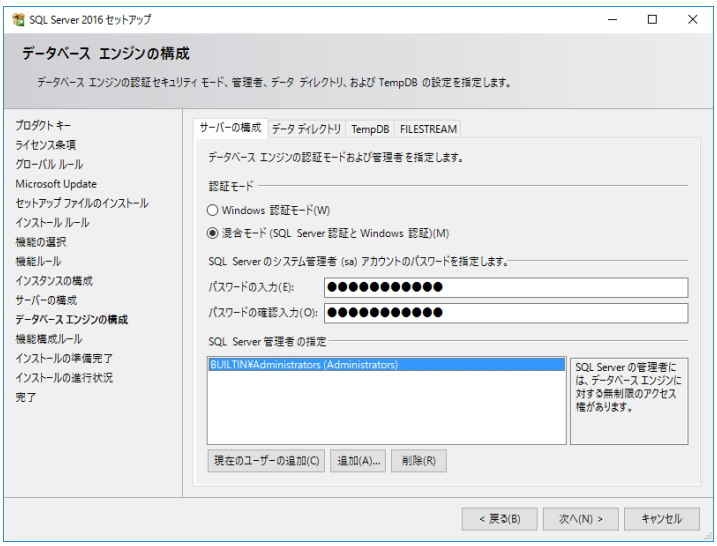
パスワードの指定について

- 指定するパスワードについて
  sa パスワードには、以下の「入力規則」を満たす 8 文字以上の文字列を指定する必要があります。
  ＜入力規則＞
  次の 4 種類の文字種のうち 3 種類の文字を含むこと
  - 英大文字（A ～ Z）
  - 英小文字（a ～ z）
  - 算用数字（0 ～ 9）
  - 感嘆符（!）、ドル記号（$）、番号記号（#）、パーセント記号（%）などの英数字以外の文字

  ここで指定するパスワードは弥生製品でも設定が必要になります。設定したパスワードを忘れないようにしてください。忘れた場合は、SQL Server 2016 の再インストールが必要な場合があります。
  →『インストール・コンバートマニュアル』－「データベースへの接続設定」
- パスワードの指定要件が異なる場合
  Windows の環境によっては、パスワードの指定要件が異なる場合があります。
  →sa パスワードの指定要件が異なる場合（P107）
- パスワード指定後に必要な設定
  パスワードの指定後に弥生製品での設定が必要になります。
  →sa パスワードの指定後に必要な設定（P107）

13.SQL Server の管理者を追加して、[次へ]ボタンをクリックします。

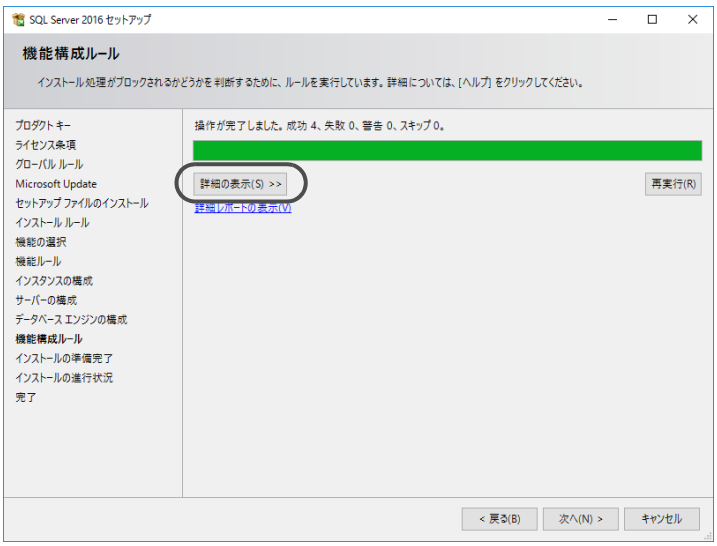
SQL Server の管理者には、必ずビルトイングループの Administrators を追加してください。Administrators の追加は[追加]ボタンをクリックして行います。



[機能構成ルール]が自動で開始され、[機能構成ルール]画面が表示されます。

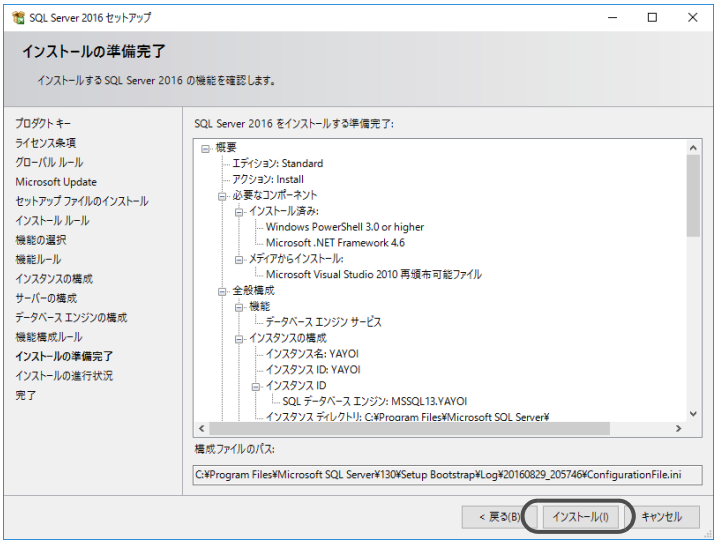
14.[失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



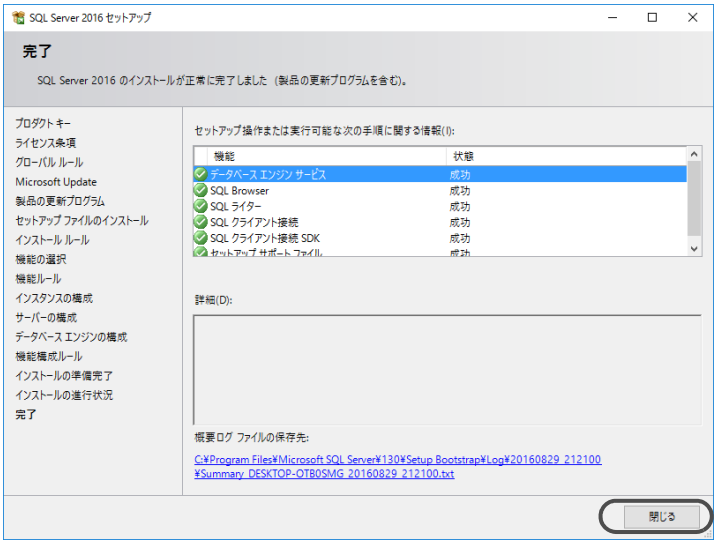
[インストールの準備完了]画面が表示されます。

15.[インストール]ボタンをクリックします。



インストールが開始され、完了すると[完了]画面が表示されます。

16.[閉じる]ボタンをクリックします。



[SQL Server 2016 セットアップ]画面が閉じます。

メモ

YAYOI インスタンスの起動の確認

データベースのインストールが終わったら、YAYOI インスタンスが開始されていることを確認します。

→YAYOI インスタンスの確認と実行方法(P75)

4-2　YAYOI インスタンスの作成(SQL Server 2014)

SQL Server 2014 の YAYOI インスタンスを作成する手順を説明します。

☞ YAYOI インスタンスを作成する

作業を始める前に、すべてのプログラムを終了してください。

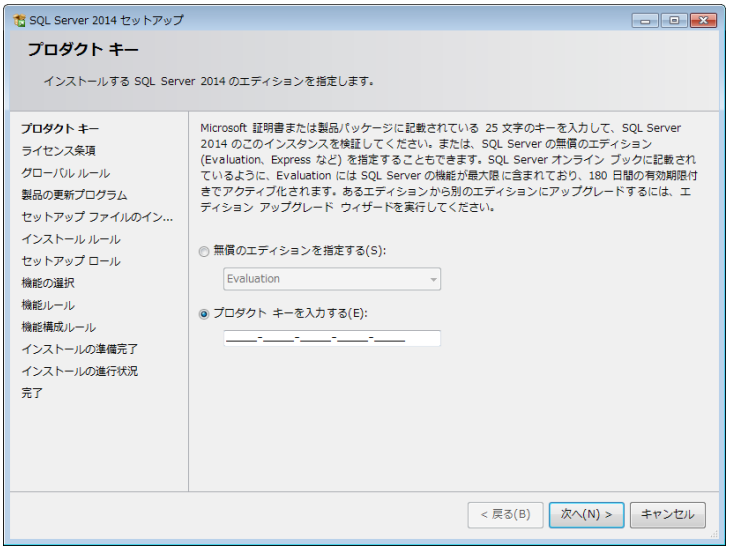
1. **お持ちの SQL Server 2014 の DVD-ROM を、サーバーのドライブにセットします。**
   [インストールセンター]が表示されない場合は、[コンピューター](または[マイコンピュータ])を開いて DVD-ROM ドライブをダブルクリックし、「setup.exe」をダブルクリックしてください。

2. **画面左側の[インストール]をクリックした後、画面右側の[SQL Server の新規スタンドアロン インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します]をクリックします。**

   [セットアップ サポート ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。

3. **[セットアップ サポート ルール]画面ですべての項目が成功したら、[OK]ボタンをクリックします。**
   プロダクトキーの入力画面が表示されます。

4. DVD-ROM のケースに記載されているプロダクトキーを入力して、[次へ]ボタンをクリックします。



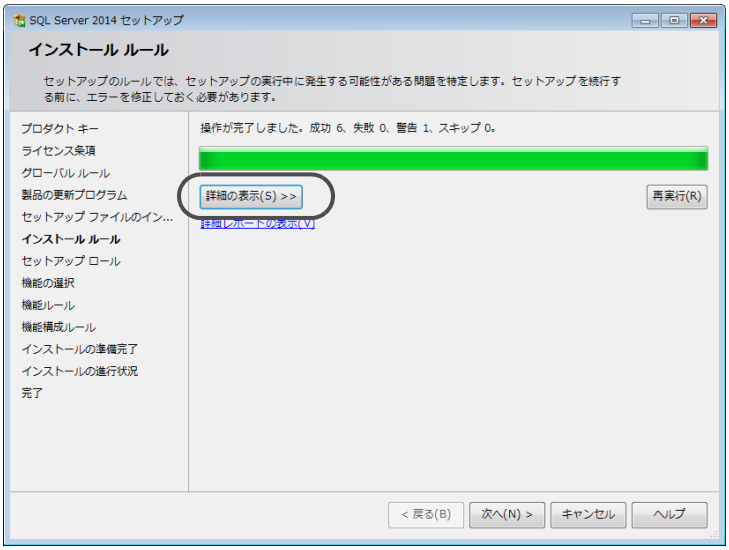
[ライセンス条項]画面が表示されます。

5. ライセンス条項に同意する場合は、[ライセンス条項に同意します。]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

[セットアップ ファイルのインストール]が自動で開始され、[インストールルール]画面が表示されます。

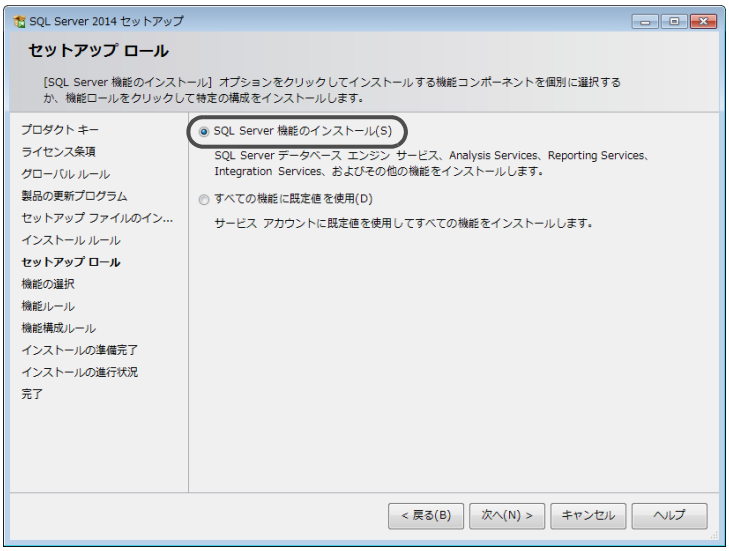
6. [失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



[セットアップ ロール]画面が表示されます。

7. [SQL Server 機能のインストール]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

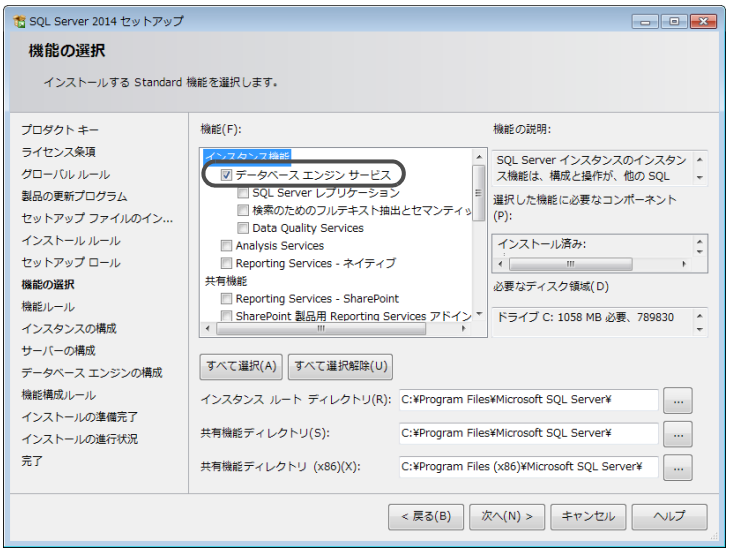


[機能の選択]画面が表示されます。

8. [データベース エンジン サービス]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

この画面ではオプション機能をインストールできます。[管理ツール 完全]にチェックを付けると、sa パスワードの変更などを行うためのツールなどがインストールされます。

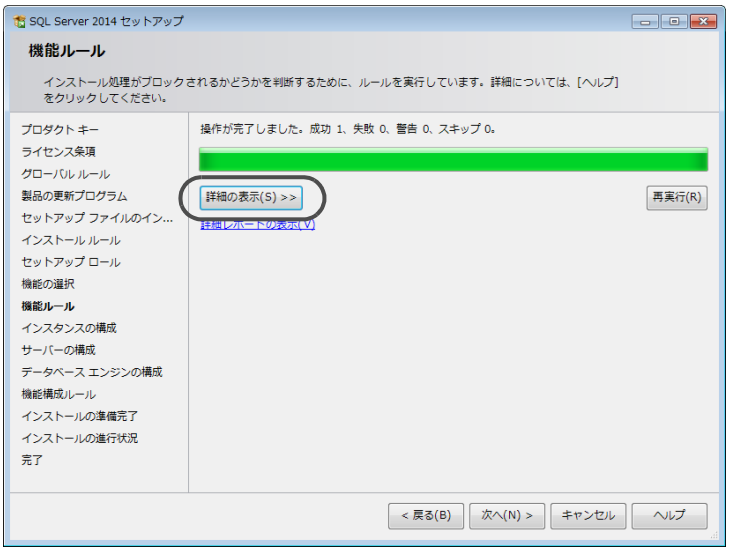
インストールオプションについては、ネットワーク管理者に確認してください。



[機能 ルール]が自動で開始され、[機能 ルール]画面が表示されます。

9. [失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

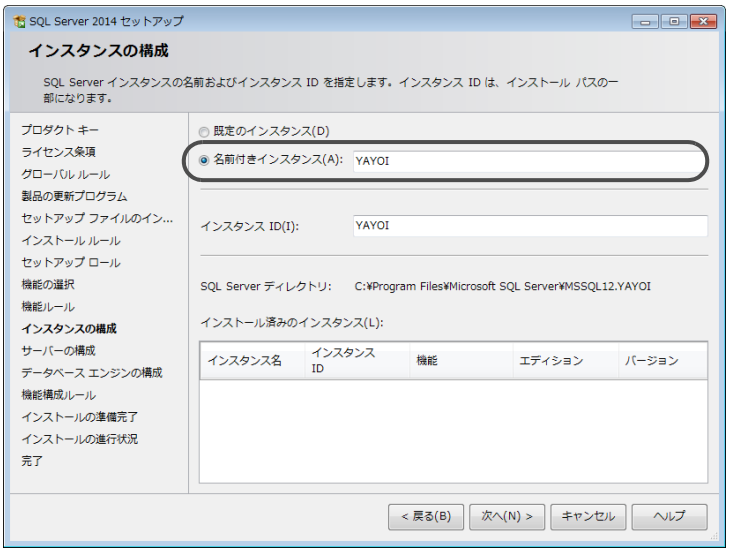
[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



[インスタンスの構成]画面が表示されます。

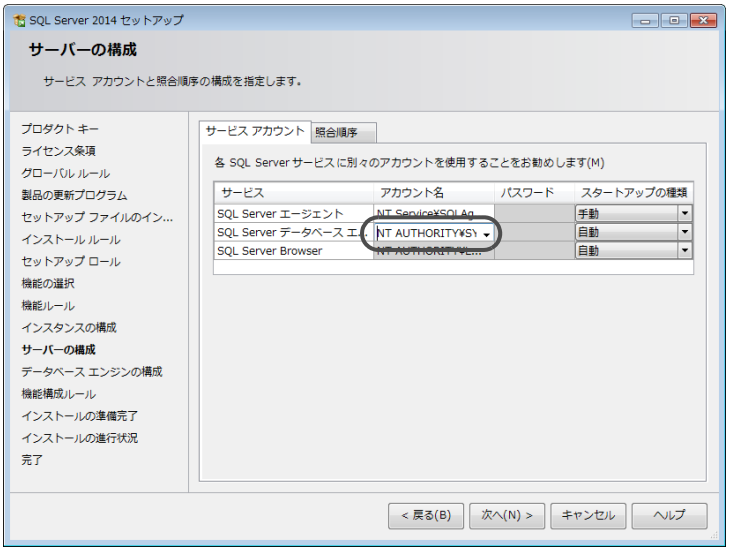
10.[名前付きインスタンス]を選択した後、半角大文字で「YAYOI」と入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

弥生製品で使用するには、インスタンス名を「YAYOI」にする必要があります。



[サーバーの構成]画面が表示されます。

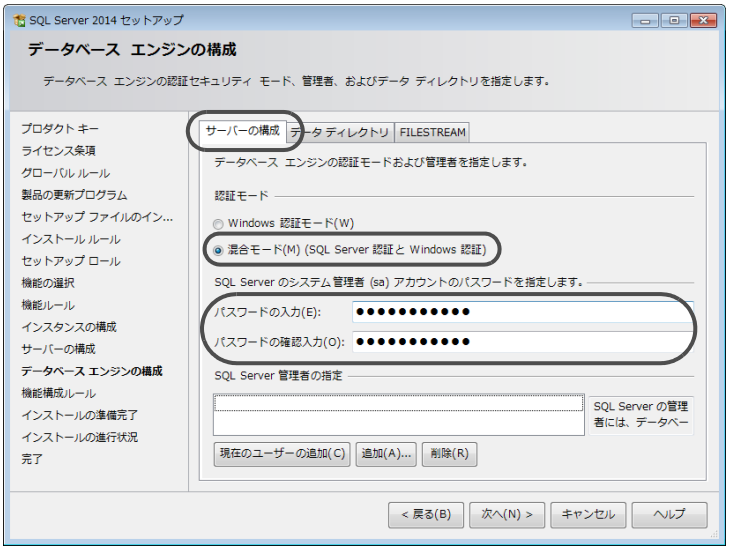
11.[SQL Server データベース エンジン]で[アカウント名]に「NT AUTHORITY¥SYSTEM」と入力して、[次へ]ボタンをクリックします。



[データベース エンジンの構成]画面が表示されます。

12.[サーバーの構成]タブで[混合モード]を選択します。

弥生製品は「混合モード」で動作します。



13.[SQL Server のシステム管理者 (sa) アカウントのパスワードを指定します。]にパスワードを入力し、確認用のパスワードを再度入力します。

ここで入力したパスワードが「sa パスワード」になります。sa パスワードは、弥生製品の各種設定で必要になります。大切に保管してください。

パスワードの指定については、次の注意を参照してください。

注意

パスワードの指定について

- 指定するパスワードについて
  sa パスワードには、以下の「入力規則」を満たす 8 文字以上の文字列を指定する必要があります。
  ＜入力規則＞
  次の 4 種類の文字種のうち 3 種類の文字を含むこと
  - 英大文字(A ～ Z)
  - 英小文字(a ～ z)
  - 算用数字(0 ～ 9)
  - 感嘆符(!)、ドル記号($)、番号記号(#)、パーセント記号(%)などの英数字以外の文字

  ここで指定するパスワードは弥生製品でも設定が必要になります。設定したパスワードを忘れないようにしてください。忘れた場合は、SQL Server 2014 の再インストールが必要な場合があります。

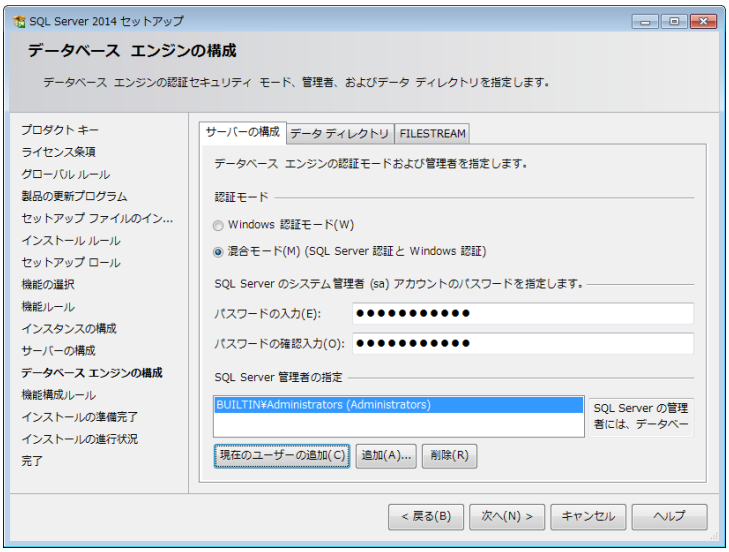
  →『インストール・コンバートマニュアル』－「データベースへの接続設定」
- パスワードの指定要件が異なる場合
  Windows の環境によっては、パスワードの指定要件が異なる場合があります。

  →sa パスワードの指定要件が異なる場合(P107)
- パスワード指定後に必要な設定
  パスワードの指定後に弥生製品での設定が必要になります。

  →sa パスワードの指定後に必要な設定(P107)

14.SQL Server の管理者を追加して、[次へ]ボタンをクリックします。

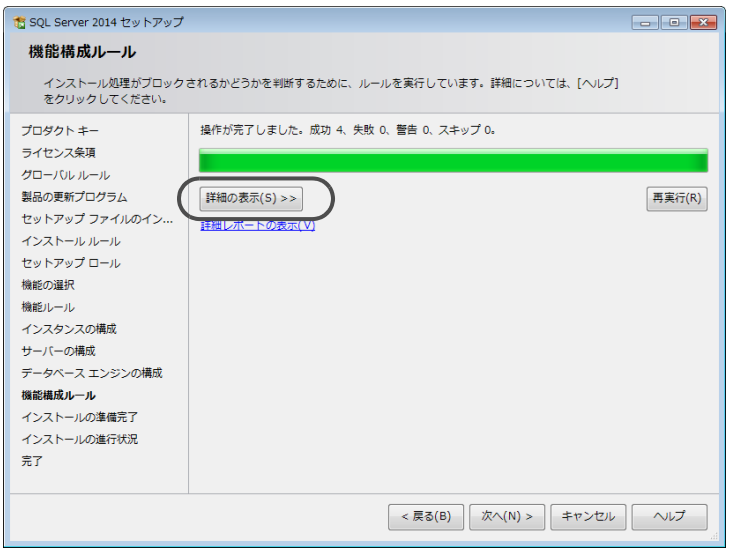
SQL Server の管理者には、必ずビルトイングループの Administrators を追加してください。Administrators の追加は[追加]ボタンをクリックして行います。



[機能構成ルール]が自動で開始され、[機能構成ルール]画面が表示されます。

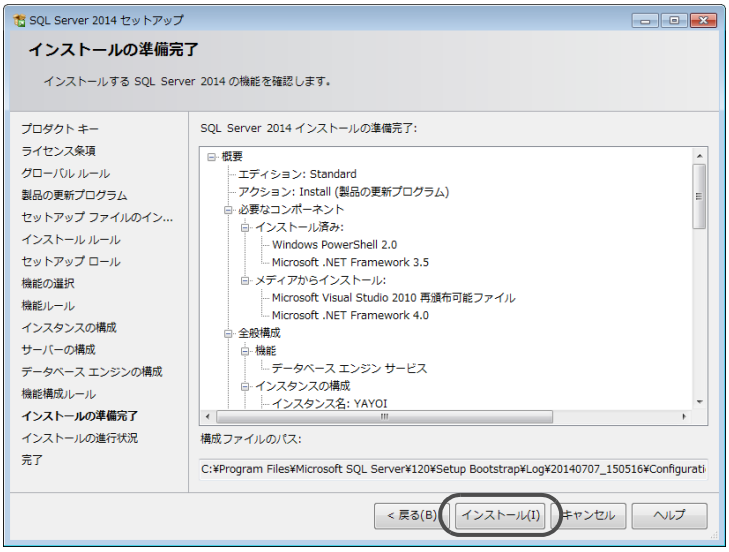
15.[失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



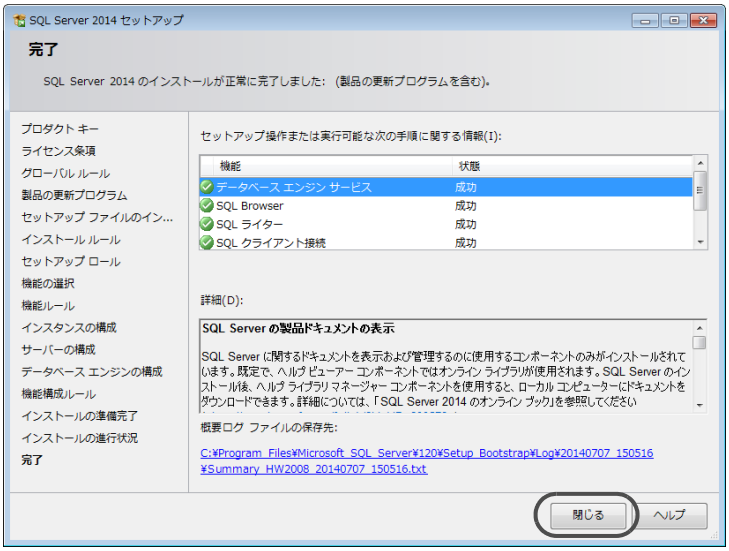
[インストールの準備完了]画面が表示されます。

16.[インストール]ボタンをクリックします。



インストールが開始され、完了すると[完了]画面が表示されます。

17.[閉じる]ボタンをクリックします。



[SQL Server 2014 セットアップ]画面が閉じます。

メモ

YAYOI インスタンスの起動の確認

データベースのインストールが終わったら、YAYOI インスタンスが開始されていることを確認します。

→YAYOI インスタンスの確認と実行方法(P75)

4-3　YAYOI インスタンスの作成(SQL Server 2012)

SQL Server 2012 の YAYOI インスタンスを作成する手順を説明します。

☞ YAYOI インスタンスを作成する

作業を始める前に、すべてのプログラムを終了してください。

1. **お持ちの SQL Server 2012 の DVD-ROM を、サーバーのドライブにセットします。**
   [インストールセンター]が表示されない場合は、[コンピューター](または[マイコンピュータ])を開いて DVD-ROM ドライブをダブルクリックし、「setup.exe」をダブルクリックしてください。

2. **画面左側の[インストール]をクリックした後、画面右側の[SQL Server の新規スタンドアロン インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します]をクリックします。**

[セットアップ サポート ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。

3. **[セットアップ サポート ルール]画面ですべての項目が成功したら、[OK]ボタンをクリックします。**
   プロダクトキーの入力画面が表示されます。

4. DVD-ROM のケースに記載されているプロダクトキーを入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

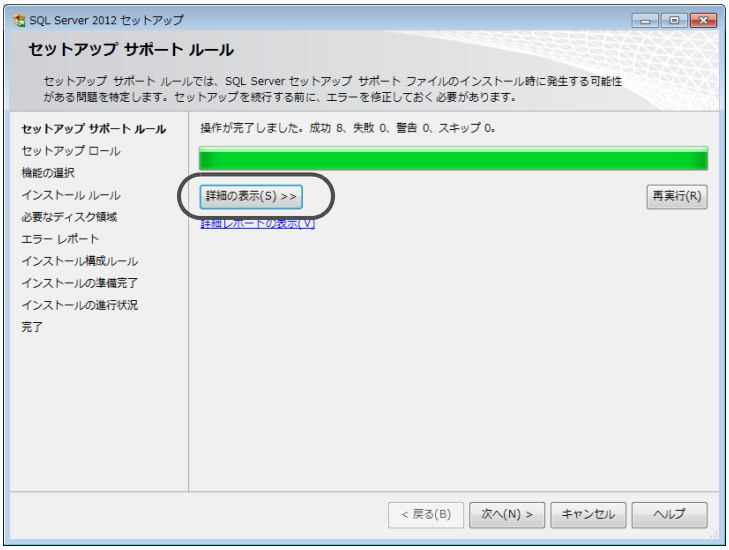
[ライセンス条項]画面が表示されます。

5. ライセンス条項に同意する場合は、[ライセンス条項に同意します。]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

[セットアップ ファイルのインストール]が自動で開始され、[セットアップ サポート ルール]画面が表示されます。

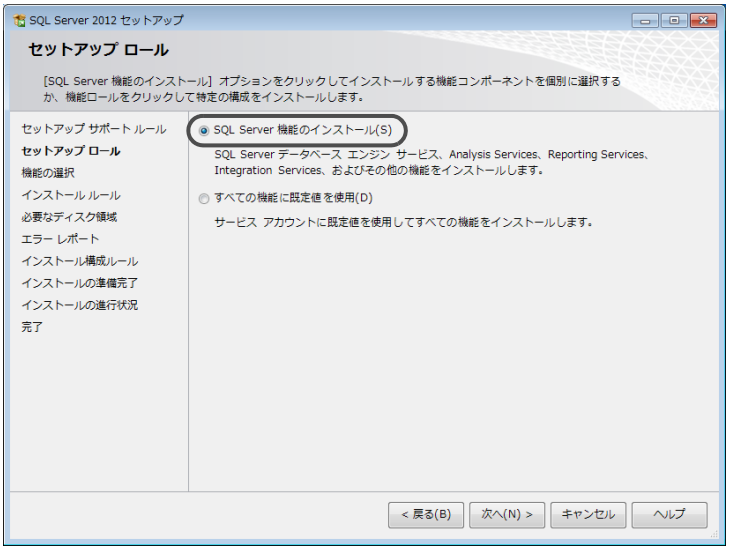
6. [失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



[セットアップ ロール]画面が表示されます。

7. [SQL Server 機能のインストール]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

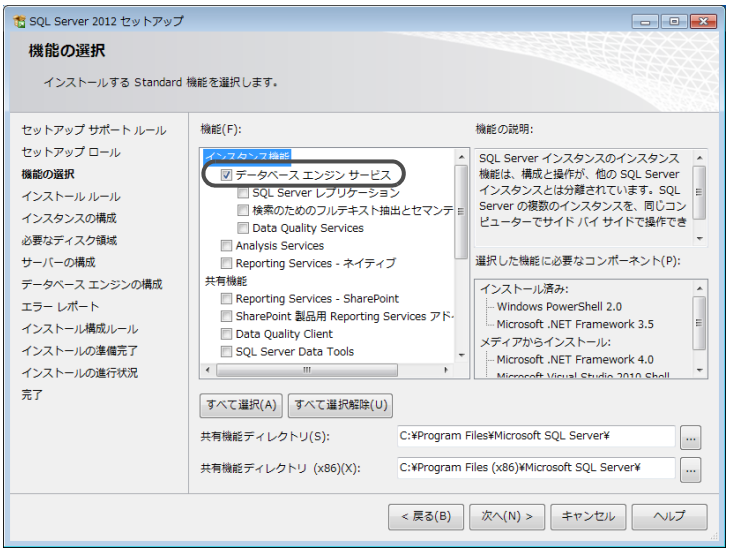


[機能の選択]画面が表示されます。

8. [データベース エンジン サービス]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

この画面ではオプション機能をインストールできます。[管理ツール 完全]にチェックを付けると、sa パスワードの変更などを行うためのツールなどがインストールされます。

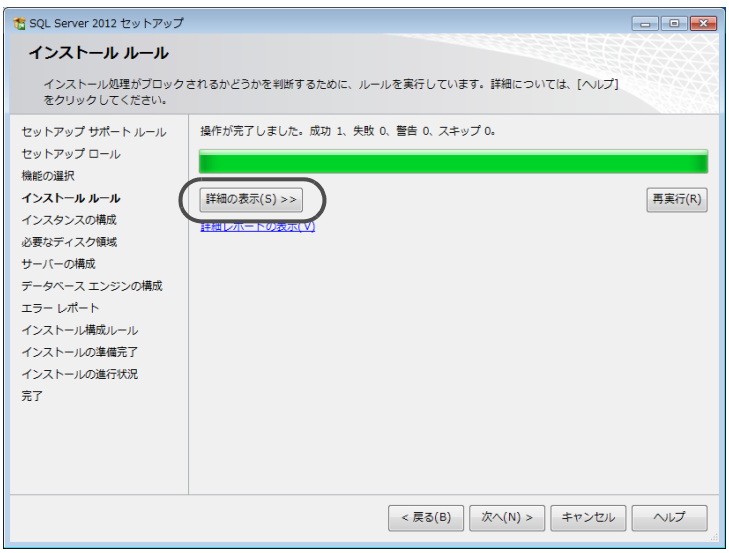
インストールオプションについては、ネットワーク管理者に確認してください。



[インストール ルール]が自動で開始され、[インストール ルール]画面が表示されます。

9. [失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

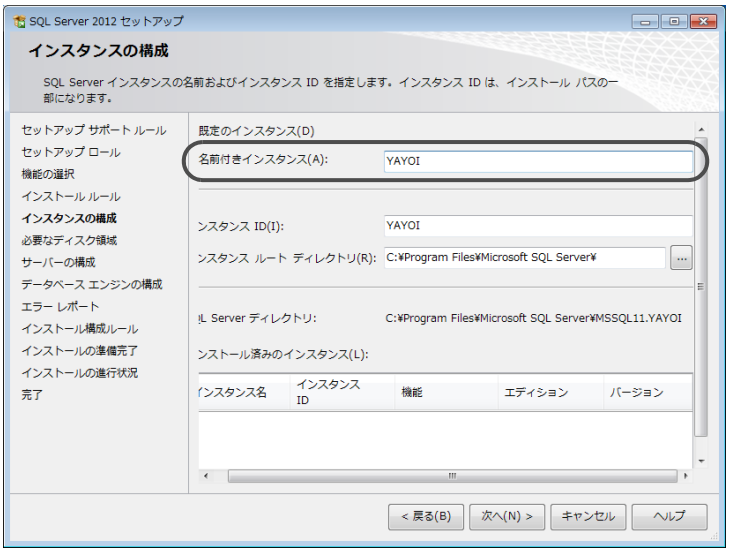
[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



[インスタンスの構成]画面が表示されます。

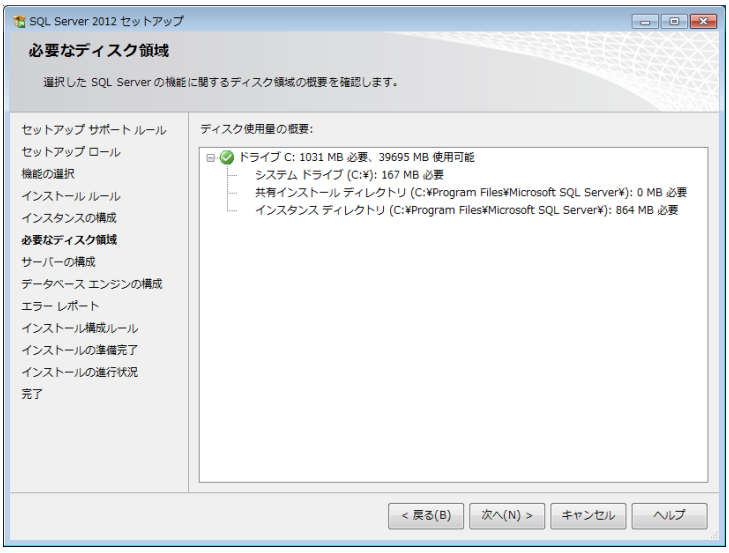
10.[名前付きインスタンス]を選択した後、半角大文字で「YAYOI」と入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

弥生製品で使用するには、インスタンス名を「YAYOI」にする必要があります。



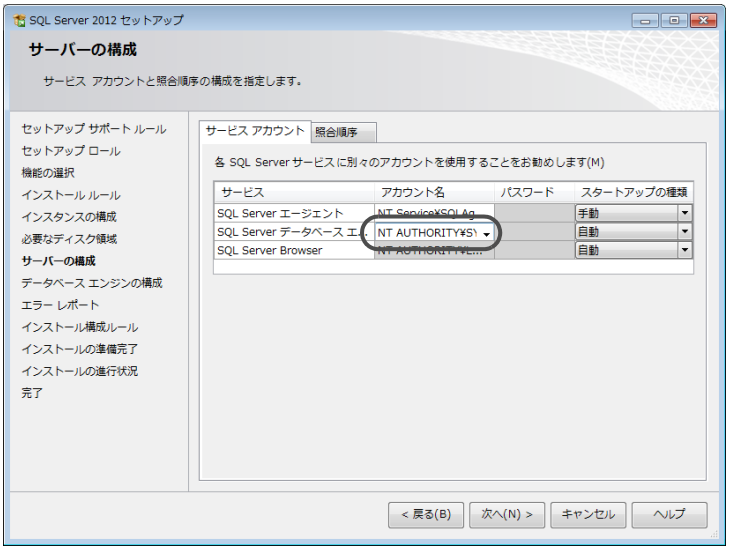
[必要なディスク領域]画面が表示されます。

11.インストール先のディスク領域を確認し、[次へ]ボタンをクリックします。



[サーバーの構成]画面が表示されます。

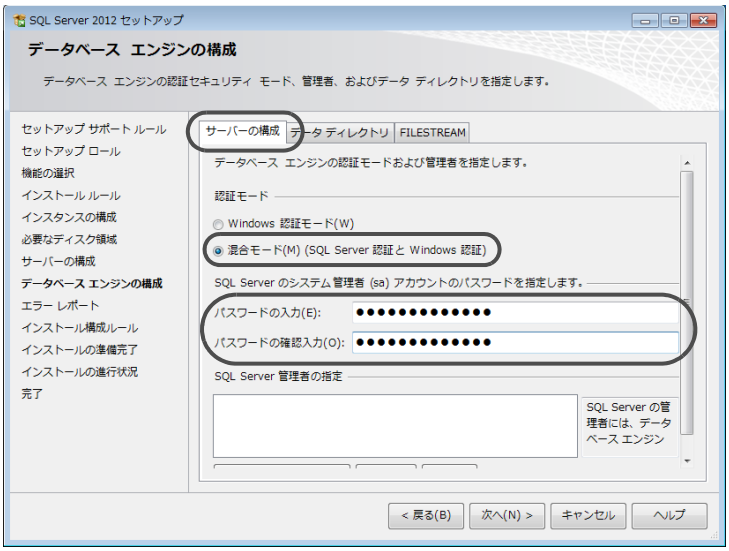
12.[SQL Server データベース エンジン]で[アカウント名]に「NT AUTHORITY￥SYSTEM」と入力して、[次へ]ボタンをクリックします。



[データベース エンジンの構成]画面が表示されます。

13.[サーバーの構成]タブで[混合モード]を選択します。

弥生製品は「混合モード」で動作します。



14.[SQL Server のシステム管理者 (sa) アカウントのパスワードを指定します。]にパスワードを入力し、確認用のパスワードを再度入力します。

ここで入力したパスワードが「sa パスワード」になります。sa パスワードは、弥生製品の各種設定で必要になります。大切に保管してください。

パスワードの指定については、次の注意を参照してください。

注意

パスワードの指定について

- 指定するパスワードについて
  sa パスワードには、以下の「入力規則」を満たす 8 文字以上の文字列を指定する必要があります。
  ＜入力規則＞
  次の 4 種類の文字種のうち 3 種類の文字を含むこと
  - 英大文字(A ～ Z)
  - 英小文字(a ～ z)
  - 算用数字(0 ～ 9)
  - 感嘆符(!)、ドル記号($)、番号記号(#)、パーセント記号(%)などの英数字以外の文字

  ここで指定するパスワードは弥生製品でも設定が必要になります。設定したパスワードを忘れないようにしてください。忘れた場合は、SQL Server 2012 の再インストールが必要な場合があります。

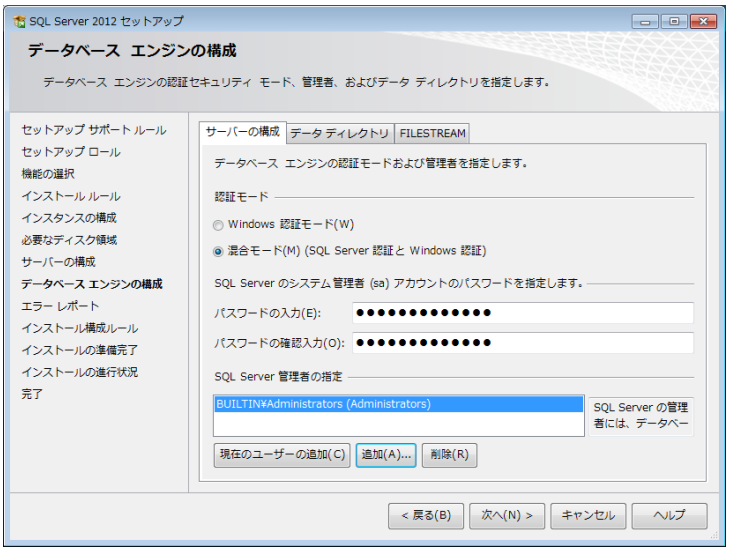
  →『インストール・コンバートマニュアル』－「データベースへの接続設定」
- パスワードの指定要件が異なる場合
  Windows の環境によっては、パスワードの指定要件が異なる場合があります。

  →sa パスワードの指定要件が異なる場合(P107)
- パスワード指定後に必要な設定
  パスワードの指定後に弥生製品での設定が必要になります。

  →sa パスワードの指定後に必要な設定(P107)

15.SQL Server の管理者を追加して、[次へ]ボタンをクリックします。

SQL Server の管理者には、必ずビルトイングループの Administrators を追加してください。Administrators の追加は[追加]ボタンをクリックして行います。



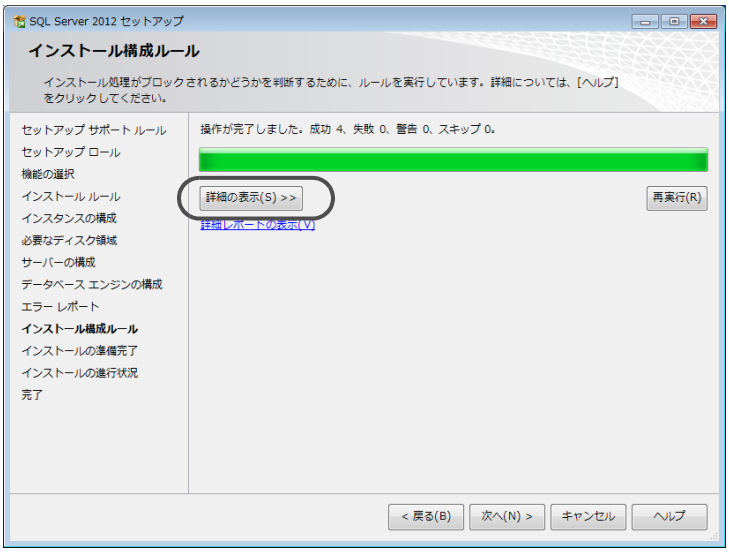
[エラー レポート]画面が表示されます。

16.設定を変更せずに[次へ]ボタンをクリックします。

[インストール構成ルール]が自動で開始され、[インストール構成ルール]画面が表示されます。

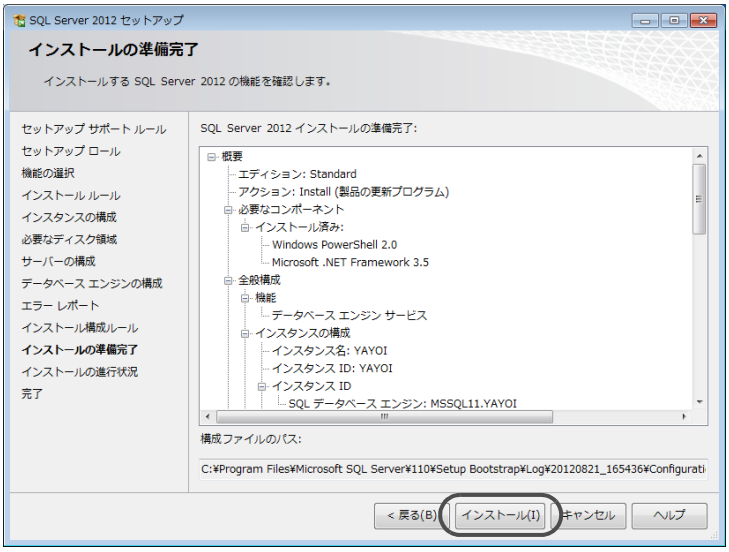
17.[失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



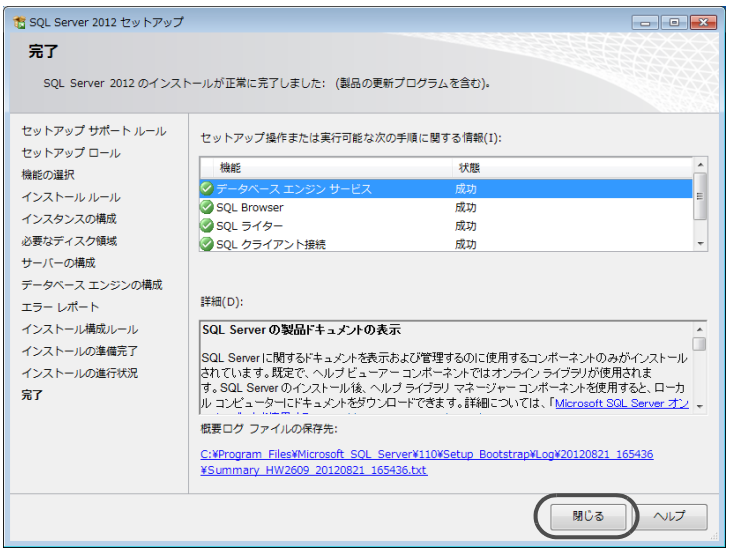
[インストールの準備完了]画面が表示されます。

18.[インストール]ボタンをクリックします。



インストールが開始され、完了すると[完了]画面が表示されます。

19.[閉じる]ボタンをクリックします。



[SQL Server 2012 セットアップ]画面が閉じます。

メモ

YAYOI インスタンスの起動の確認

データベースのインストールが終わったら、YAYOI インスタンスが開始されていることを確認します。

→YAYOI インスタンスの確認と実行方法(P75)

4-4　YAYOI インスタンスの作成(SQL Server 2008 R2)

SQL Server 2008 R2 の YAYOI インスタンスを作成する手順を説明します。

☞ YAYOI インスタンスを作成する

作業を始める前に、すべてのプログラムを終了してください。

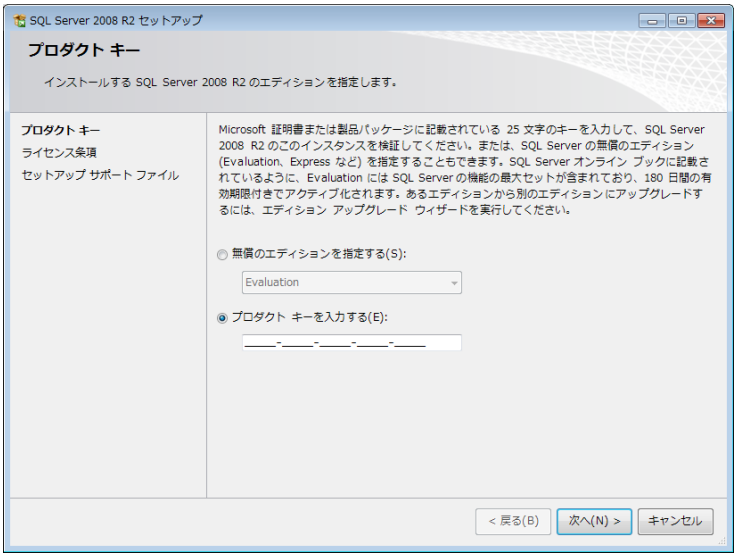
1. **お持ちの SQL Server 2008 R2 の DVD-ROM を、サーバーのドライブにセットします。**
   [インストールセンター]が表示されない場合は、[コンピューター](または[マイコンピュータ])を開いて DVD-ROM ドライブをダブルクリックし、[setup.exe]をダブルクリックしてください。

2. **画面左側の[インストール]をクリックした後、画面右側の[新規インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します。]をクリックします。**

[セットアップ サポート ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。

3. **[セットアップ サポート ルール]画面ですべての項目が成功したら、[OK]ボタンをクリックします。**
   プロダクトキーの入力画面が表示されます。

4. DVD-ROM のケースに記載されているプロダクトキーを入力して、[次へ]ボタンをクリックします。

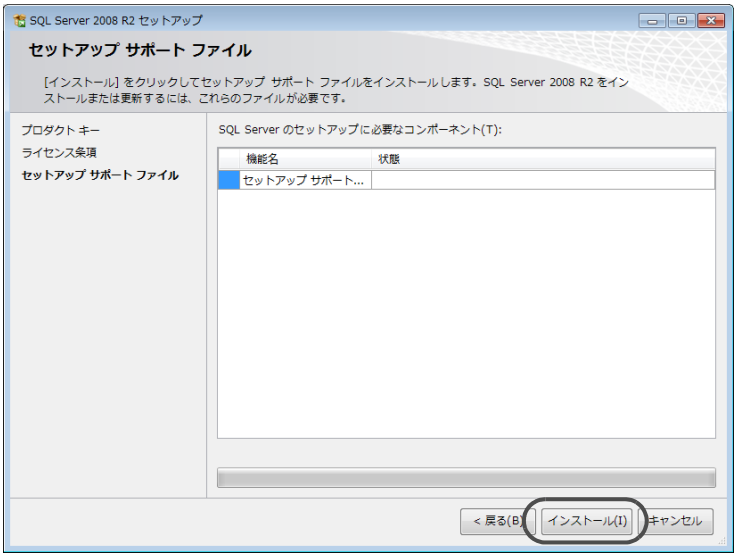


[ライセンス条項]画面が表示されます。

5. ライセンス条項に同意する場合は、[使用許諾契約書に同意する]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

[セットアップ サポート ファイル]画面が表示されます。

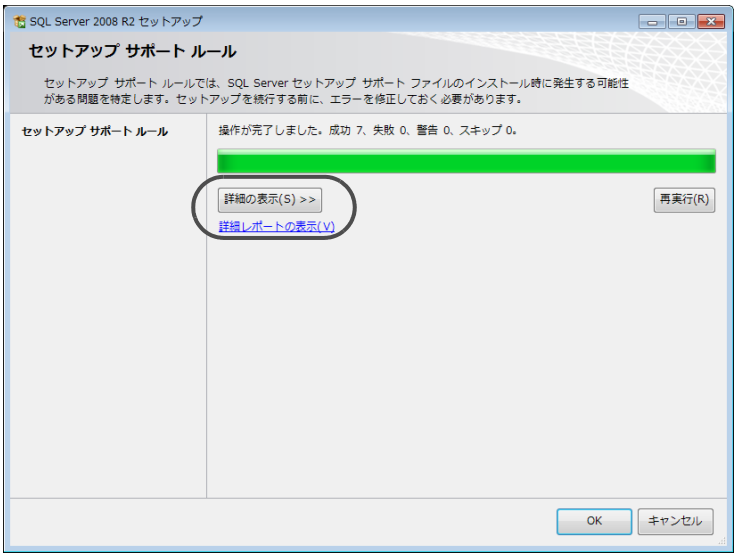
6. [インストール]ボタンをクリックします。



[セットアップ サポート ルール]が自動で開始され、[セットアップ サポート ルール]画面が表示されます。

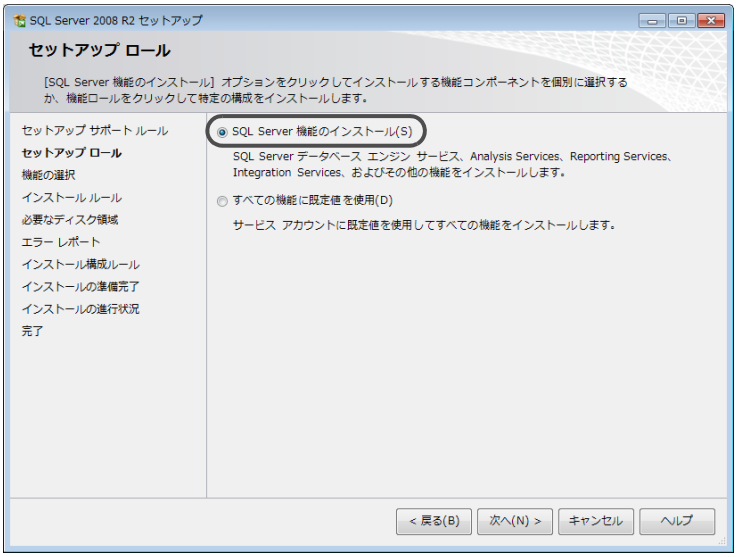
7. [失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



[セットアップ ロール]画面が表示されます。

8. [SQL Server 機能のインストール]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

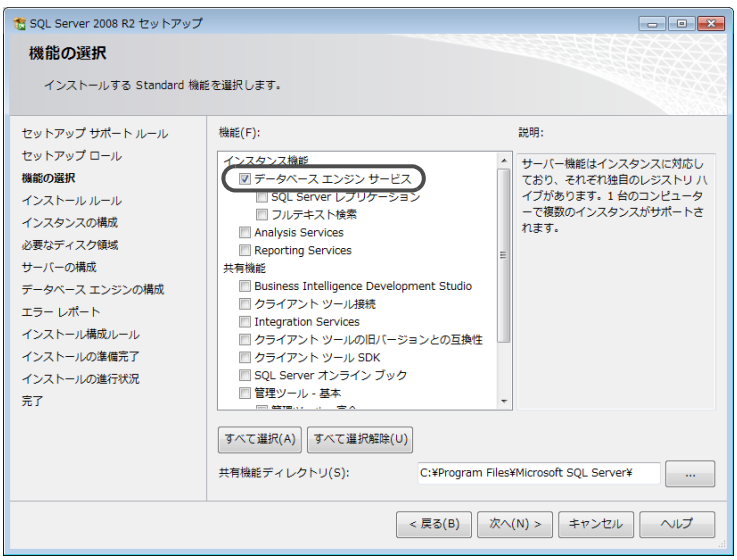


[機能の選択]画面が表示されます。

9. [データベース エンジン サービス]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。

この画面ではオプション機能をインストールできます。[管理ツール 完全]にチェックを付けると、sa パスワードの変更などを行うためのツールなどがインストールされます。

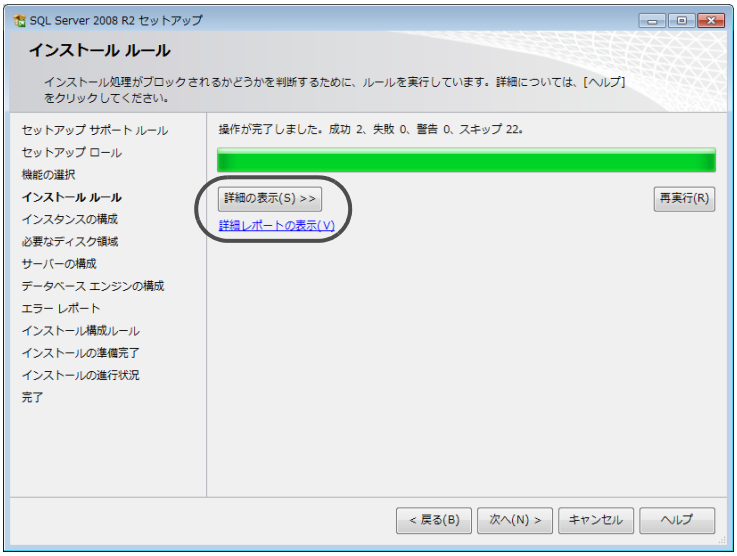
インストールオプションについては、ネットワーク管理者に確認してください。



[インストール ルール]が自動で開始され、[インストール ルール]画面が表示されます。

10.[失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

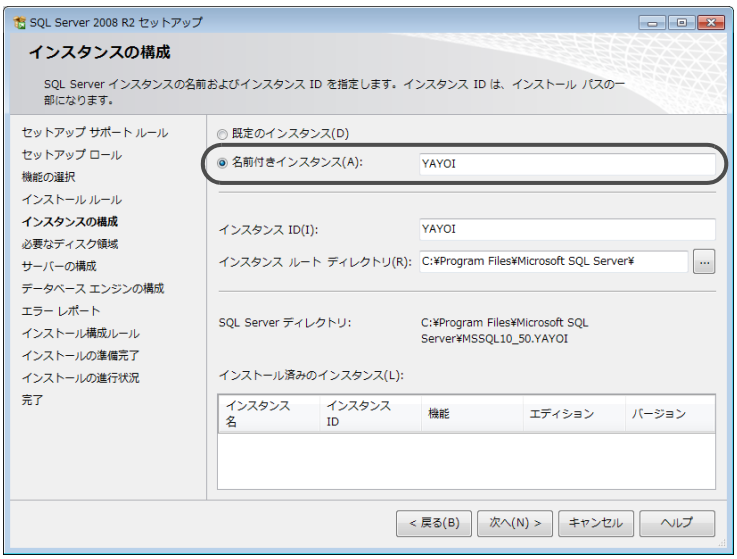
[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



[インスタンスの構成]画面が表示されます。

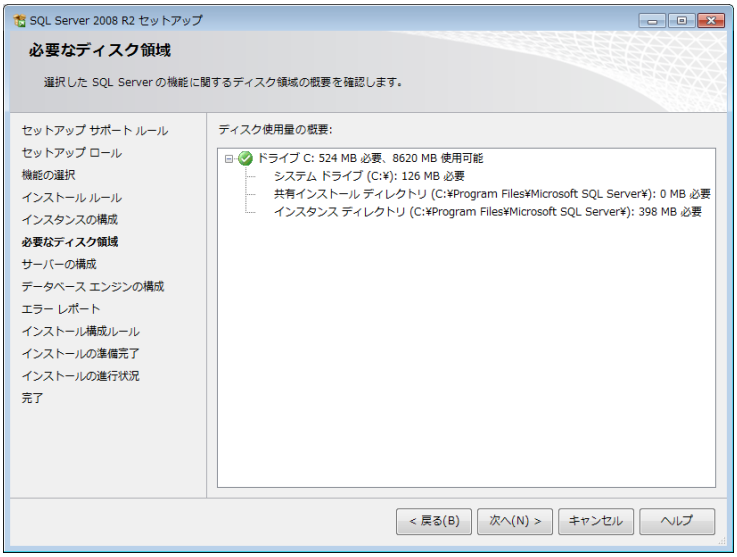
11.[名前付きインスタンス]を選択した後、半角大文字で「YAYOI」と入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

弥生製品で使用するには、インスタンス名を「YAYOI」にする必要があります。



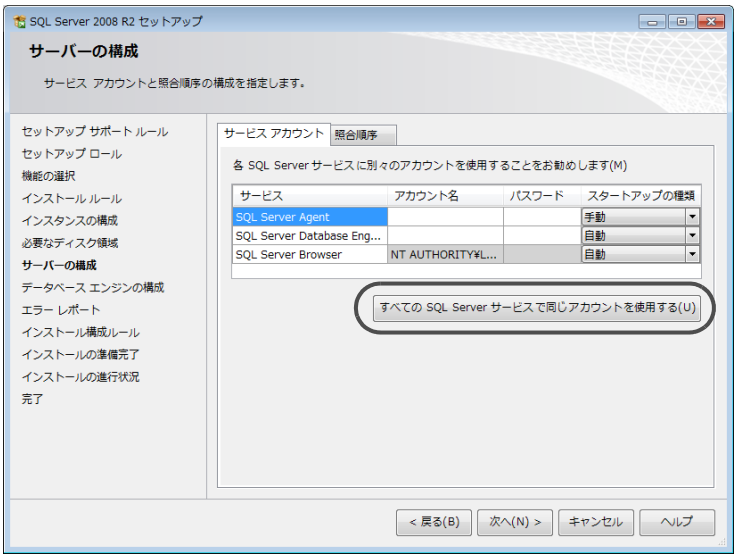
[必要なディスク領域]画面が表示されます。

12.インストール先のディスク領域を確認し、[次へ]ボタンをクリックします。



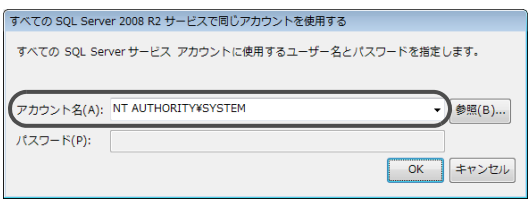
[サーバーの構成]画面が表示されます。

13.[すべての SQL Server サービスで同じアカウントを使用する]ボタンをクリックします。



アカウントを指定するダイアログが表示されます。

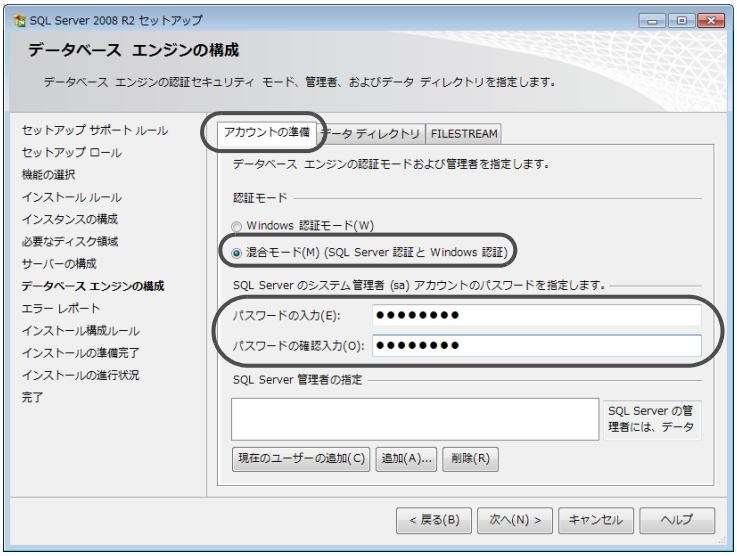
14.[アカウント名]の▼をクリックして[NT　AUTHORITY￥SYSTEM]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



[サーバーの構成]画面に戻ります。

15.[次へ]ボタンをクリックします。
[データベース エンジンの構成]画面が表示されます。

16.[アカウントの準備]タブで[混合モード]を選択します。
弥生製品は「混合モード」で動作します。



17.[SQL Server のシステム管理者（sa）アカウントのパスワードを指定します。]にパスワードを入力し、確認用のパスワードを再度入力します。
ここで入力したパスワードが「sa パスワード」になります。sa パスワードは、弥生製品の各種設定で必要になります。大切に保管してください。

パスワードの指定については、次の注意を参照してください。

注意

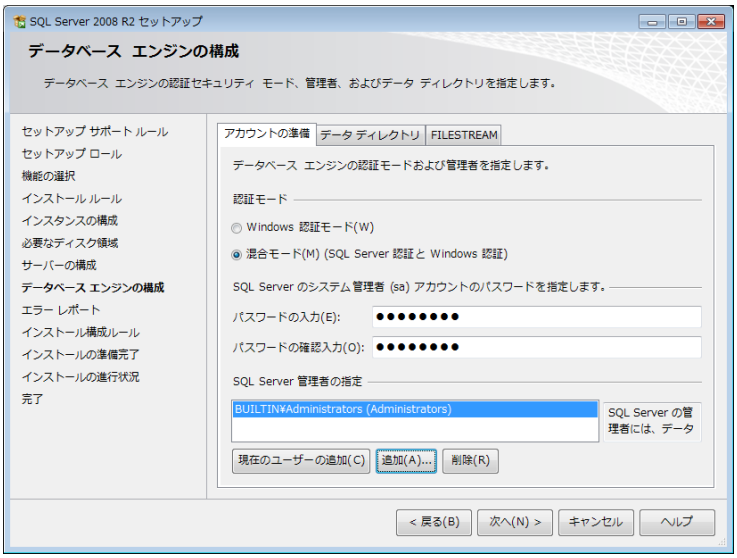
パスワードの指定について

- 指定するパスワードについて
  sa パスワードには、以下の「入力規則」を満たす 8 文字以上の文字列を指定する必要があります。
  ＜入力規則＞
  次の 4 種類の文字種のうち 3 種類の文字を含むこと
  - 英大文字(A ～ Z)
  - 英小文字(a ～ z)
  - 算用数字(0 ～ 9)
  - 感嘆符(!)、ドル記号($)、番号記号(#)、パーセント記号(%)などの英数字以外の文字

  ここで指定するパスワードは弥生製品でも設定が必要になります。設定したパスワードを忘れないようにしてください。忘れた場合は、SQL Server 2008 R2 の再インストールが必要な場合があります。
  →『インストール・コンバートマニュアル』−「データベースへの接続設定」
- パスワードの指定要件が異なる場合
  Windows の環境によっては、パスワードの指定要件が異なる場合があります。
  →sa パスワードの指定要件が異なる場合(P107)
- パスワード指定後に必要な設定
  パスワードの指定後に弥生製品での設定が必要になります。
  →sa パスワードの指定後に必要な設定(P107)

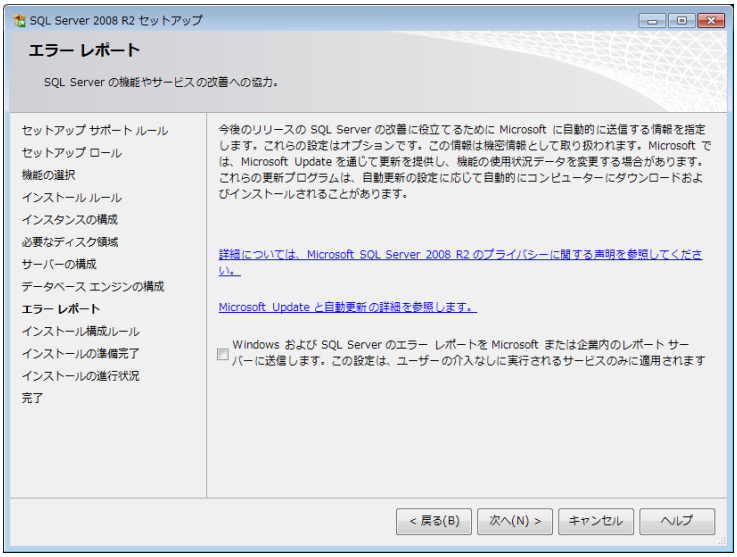
18.SQL Server の管理者を追加して、[次へ]ボタンをクリックします。

SQL Server の管理者には、必ずビルトイングループの Administrators を追加してください。Administrators の追加は[追加]ボタンをクリックして行います。



[エラー レポート]画面が表示されます。

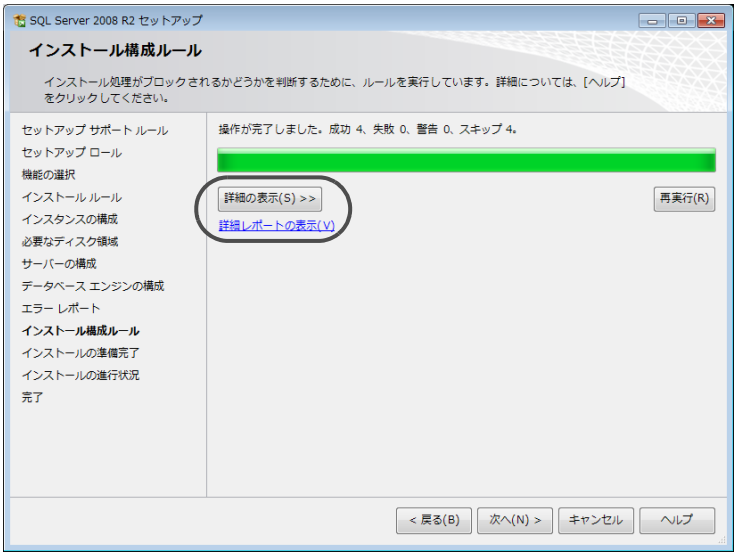
19.設定を変更せずに[次へ]ボタンをクリックします。



[インストール構成ルール]が自動で開始され、[インストール構成ルール]画面が表示されます。

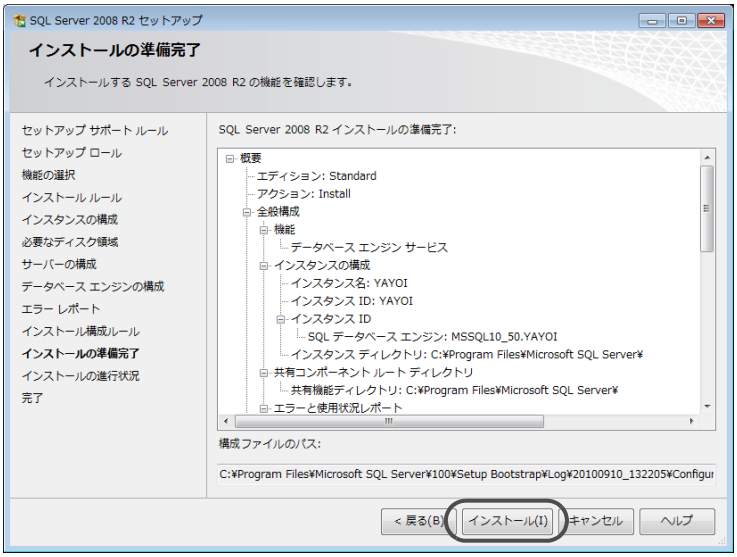
20.[失敗]、[警告]がないことを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。

[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認し、エラーを解決してください。



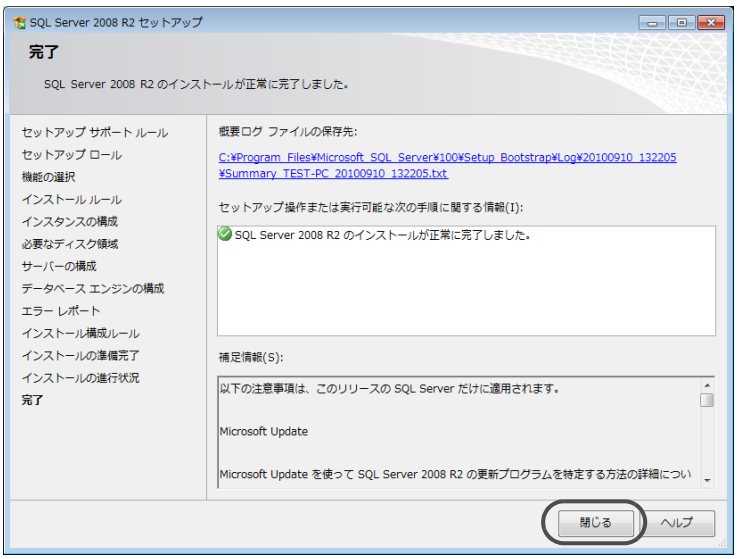
[インストールの準備完了]画面が表示されます。

21.[インストール]ボタンをクリックします。



インストールが開始され、完了すると[完了]画面が表示されます。

22.[閉じる]ボタンをクリックします。



[SQL Server 2008 R2 セットアップ]画面が閉じます。
[インストールセンター]の画面右上の閉じるボタンをクリックして、SQL Server 2008 R2 のインストールは終了です。

メモ

YAYOI インスタンスの起動の確認

データベースのインストールが終わったら、YAYOI インスタンスが開始されていることを確認します。

→YAYOI インスタンスの確認と実行方法(P75)

5　YAYOI インスタンスの確認と実行方法

インストールした YAYOI インスタンスが起動していることを確認します。通常は、コンピューターの起動時に実行されます。

☞ YAYOI インスタンスを実行する

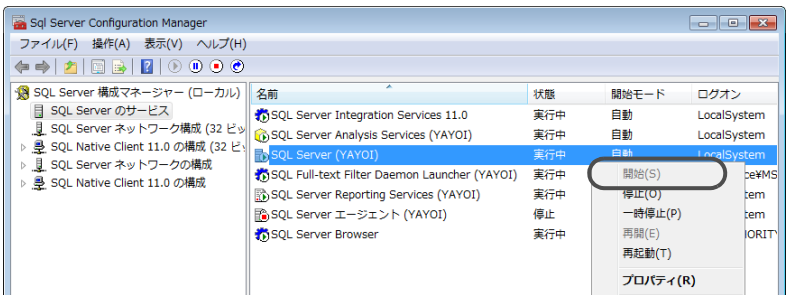
1. [SQL Server Configuration Manager]を表示します。

- Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
  [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Microsoft SQL Server XXXX]－[SQL Server 構成マネージャー](または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。
- Windows 7/Vista/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
  [スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Microsoft SQL Server XXXX]－[構成ツール]－[SQL Server 構成マネージャー](または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。

※「Microsoft SQL Server XXXX」は、「Microsoft SQL Server 2016 (または 2014、2012、2008 R2、2008)」に読み替えてください。

2.「SQL Server のサービス」を選択し、右側で「SQL Server (YAYOI)」の[状態]が「実行中」であることを確認します。

「停止」になっている場合は、「SQL Server (YAYOI)」で右クリックし、表示されたメニューから[開始]をクリックします。



6　一括バックアップツールのインストール

一括バックアップツールは、サーバーのデータベース（YAYOI インスタンス）のデータをまとめてバックアップするためのツールです。
一括バックアップツールの操作方法については、ヘルプを参照してください。

注意

一括バックアップツールがインストール済みの場合

旧バージョンの一括バックアップツールを使用している場合は、新しいプログラムへ更新する必要があります。弥生 17 シリーズで一括バックアップツールを再度インストールして、最新のプログラムへバージョンアップしてください。

サーバー（データを保存するコンピューター）にインストールします

一括バックアップツールは、サーバー（データを保存するコンピューター）にのみインストールします。クライアントコンピューターにインストールしても、バックアップを行うことはできません。
また、一括バックアップツールをインストールするには、サーバーコンピューターに Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 がインストールされている必要があります。

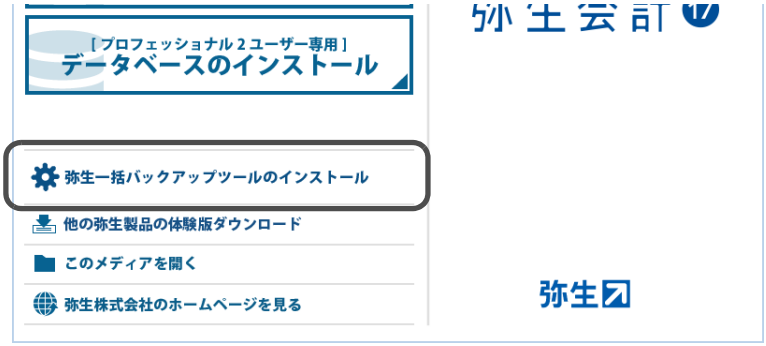
☞ 一括バックアップツールをインストールする

一括バックアップツールをインストールするには、ハードディスクの空き容量が 20MB 以上必要です。一括バックアップツールは、データベースをインストールしたコンピューターにインストールします。

1. **起動しているすべてのプログラムを終了します。**
   インストールを始める前に、すべてのプログラムを終了してください。特に、常駐プログラムが動作していると、正しくインストールできない場合があります。

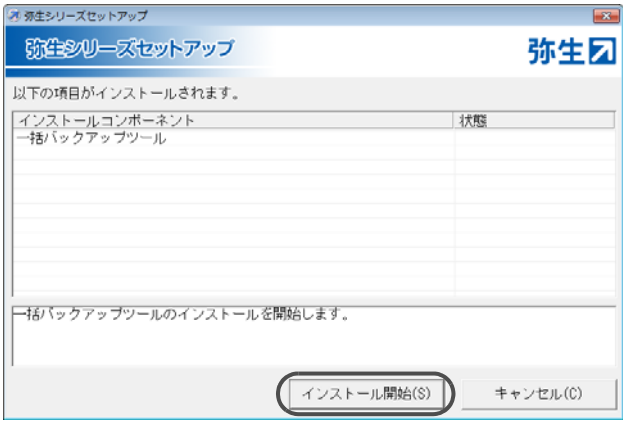
2. **サーバー（データを保存するコンピューター）の DVD-ROM ドライブに弥生 17 製品の DVD-ROM をセットします。**
   弥生製品のインストールランチャーが表示されます。

3. **［弥生一括バックアップツールのインストール］をクリックします。**
   ［弥生シリーズセットアップ］画面が表示されます。

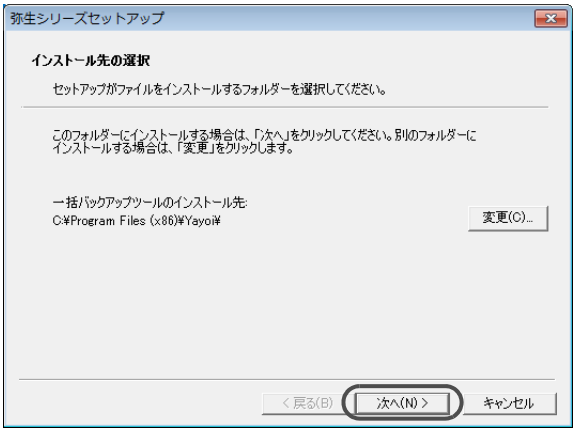


※ ご使用の製品によっては、表示される項目が異なることがあります。

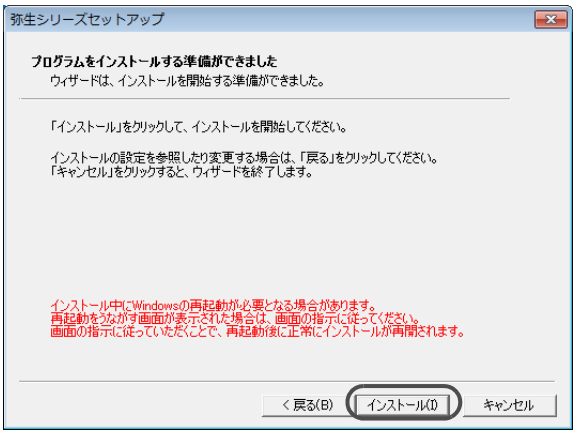
4. 表示された[弥生シリーズセットアップ]画面で、[インストール開始]ボタンをクリックします。



5. 一括バックアップツールをインストールする場所(フォルダー)を確認して、[次へ]ボタンをクリックします。
インストール先を変更する場合は、[変更]ボタンをクリックしてインストールする場所を選択します。



6. [インストール]ボタンをクリックしてインストールを開始します。



7. [弥生シリーズセットアップ]画面が表示されるので、[完了]ボタンをクリックします。
再起動を促す画面が表示された場合は、必ず再起動してください。

8. DVD-ROM ドライブから DVD-ROM を取り出します。
DVD-ROM を取り出す前に、[完了]ボタンをクリックして[弥生シリーズセットアップ]画面を必ず閉じてください。

3

プログラムの修復と削除

データベースの削除とデータベースのデータを一括バックアップするツールの修復と削除について説明します。

1 データベースの削除 …… 80
2 一括バックアップツールの修復と削除 …… 92

1　データベースの削除

データベース(YAYOI インスタンス)の削除について説明します。
SQL Server 2014、SQL Server 2012 と 2008/2008 R2/2005 では、YAYOI インスタンスの削除方法が異なります。

1-1　データベース(YAYOI インスタンス)の削除

YAYOI インスタンスを削除すると、YAYOI インスタンスに保存されているすべてのデータが削除され、元に戻すことはできません。
YAYOI インスタンスを削除する前に、一括バックアップツールまたは弥生製品のバックアップを使用し、YAYOI インスタンスのすべての事業所データをバックアップしてください。バックアップ後、バックアップファイルが正常に復元できることを確認してから YAYOI インスタンスを削除してください。

複数の弥生製品を使用している場合
YAYOI インスタンスは、弥生製品共通で使用しているデータベースです。他のコンピューターに移動するなどで YAYOI インスタンスを削除する場合は、削除前に、各弥生製品ですべての事業所データのバックアップを行ってください。

YAYOI インスタンスの削除は次の流れにそって行います。SQL Server 2014、SQL Server 2012 と 2008/2008 R2/2005 では操作方法が異なります。それぞれの手順をご覧ください。

1. **YAYOI インスタンスを使用しているすべての弥生製品が終了していることを確認する**
2. **YAYOI インスタンスを停止する**
3. **YAYOI インスタンスを削除する**

1-2　SQL Server 2014(2016)の場合

☞ データベースを削除する

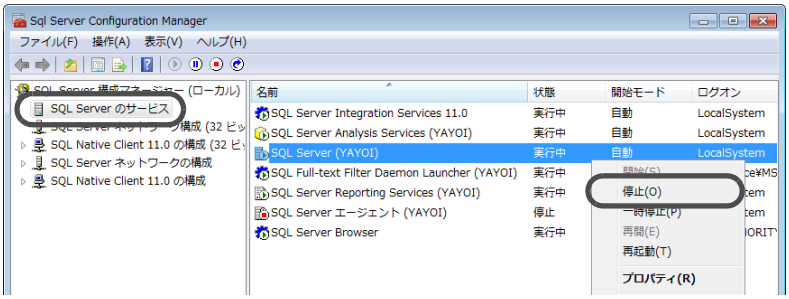
YAYOI インスタンスを使用しているすべての弥生製品が終了していることを確認してください。

<YAYOI インスタンスを停止する>

1. **[SQL Server Configuration Manager]を表示します。**
   - Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
     [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Microsoft SQL Server 2014(2016)]－[SQL Server 構成マネージャー](または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。

- Windows 7/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
  [スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Microsoft SQL Server 2014(2016)]－[構成ツール]－[SQL Server 構成マネージャー](または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。

2. 右側に表示されているサービスすべて(「SQL Server」や「SQL Server Browser」など)の状態を確認し、[実行中]または[一時停止]になっているものは、右クリックして[停止]を選択します。



注意

サービスを停止する前に確認すること

[SQL Server(YAYOI)]以外のインスタンスが存在する場合は、必ず該当のアプリケーションで必要なデータのバックアップを行ってください。
バックアップ後、管理者に確認のうえインスタンスを停止してください。
インスタンスを停止している間は、そのプログラムは使用できなくなります。

<YAYOI インスタンスを削除する>

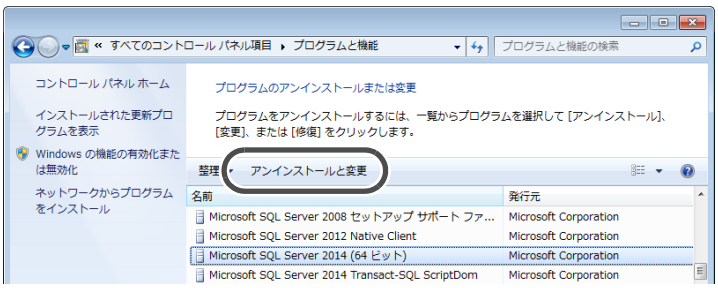
1. コントロールパネルを表示します。

- Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
  [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Windows システムツール]－[コントロールパネル]をクリックします。
- Windows 7/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
  [スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。

2. [プログラムのアンインストール]をクリックします。

3. 表示されるプログラムの一覧から[Microsoft SQL Server 2014(2016)]を選択します。

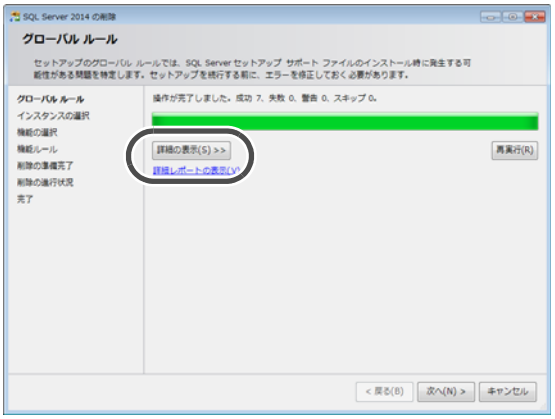
4. [アンインストールと変更]ボタンをクリックします。



選択画面が表示されます。

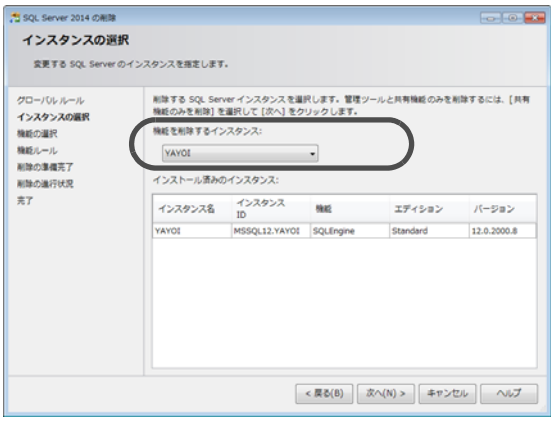
5. [削除]をクリックします。

[グローバル ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。



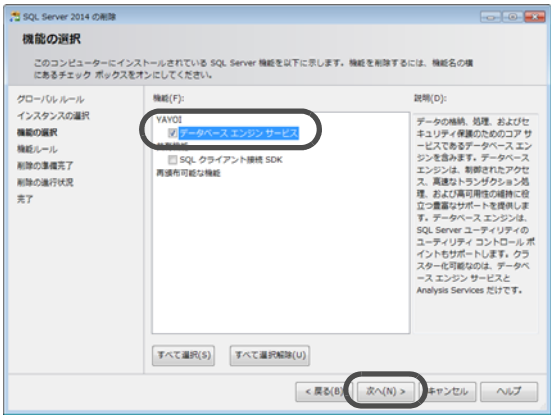
6. [OK]ボタンをクリックします。
[インスタンスの選択]画面が表示されます。

7. [機能を削除するインスタンス]の▼をクリックして[YAYOI]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



[機能の選択]画面が表示されます。

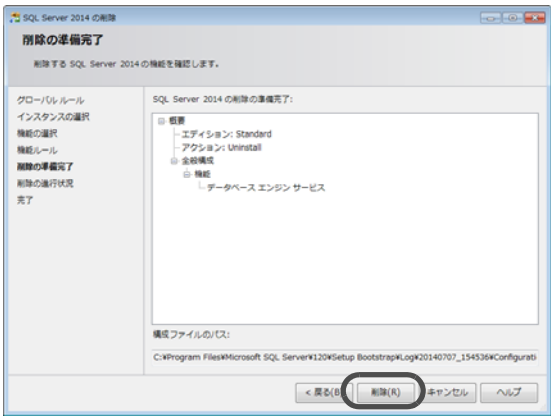
8. **機能の一覧から[YAYOI:データベースエンジンサービス]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。**



[機能ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。

9. **[次へ]ボタンをクリックします。**
[削除の準備完了]画面が表示されます。

10. **[削除]ボタンをクリックします。**



削除が開始され、完了すると「完了しました」と表示されます。

11. **[閉じる]ボタンをクリックします。**

1-3　SQL Server 2012 の場合

☞ データベースを削除する

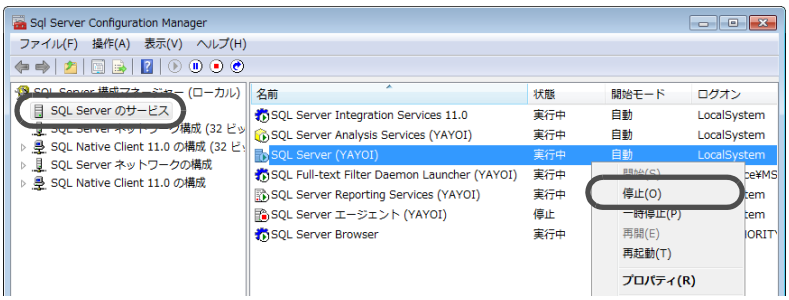
YAYOI インスタンスを使用しているすべての弥生製品が終了していることを確認してください。

<YAYOI インスタンスを停止する>

1. [SQL Server Configuration Manager]を表示します。

- Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
  [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Microsoft SQL Server 2012]－[SQL Server 構成マネージャー](または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。
- Windows 7/Vista/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
  [スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Microsoft SQL Server 2012]－[構成ツール]－[SQL Server 構成マネージャー](または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。

2. 右側に表示されているサービスすべて(「SQL Server」や「SQL Server Browser」など)の状態を確認し、[実行中]または[一時停止]になっているものは、右クリックして[停止]を選択します。



注意

サービスを停止する前に確認すること

[SQL Server(YAYOI)]以外のインスタンスが存在する場合は、必ず該当のアプリケーションで必要なデータのバックアップを行ってください。バックアップ後、管理者に確認のうえインスタンスを停止してください。インスタンスを停止している間は、そのプログラムは使用できなくなります。

<YAYOI インスタンスを削除する>

1. コントロールパネルを表示します。

- Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
  [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Windows システムツール]－[コントロールパネル]をクリックします。
- Windows 7/Vista/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
  [スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。

2. [プログラムのアンインストール]をクリックします。

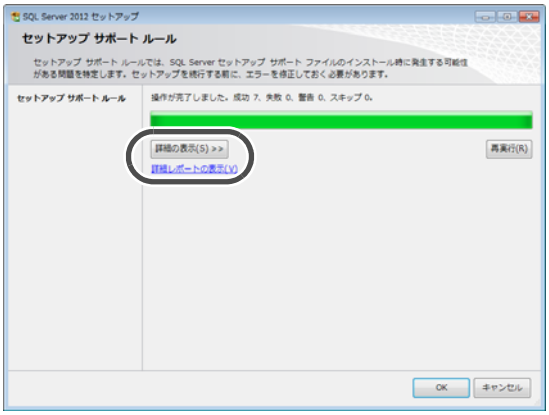
3. 表示されるプログラムの一覧から[Microsoft SQL Server 2012]を選択します。

4. [アンインストールと変更]ボタンをクリックします。

選択画面が表示されます。

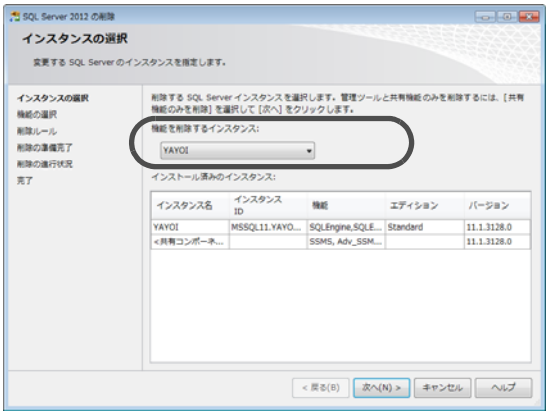
5. [削除]をクリックします。

[セットアップ サポートルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。



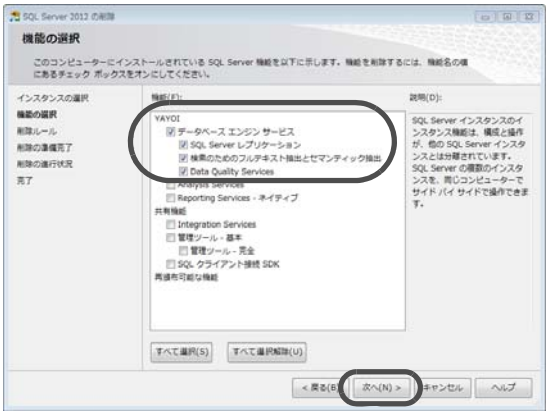
6. [OK]ボタンをクリックします。
[インスタンスの選択]画面が表示されます。

7. **[機能を削除するインスタンス]の▼をクリックして[YAYOI]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。**



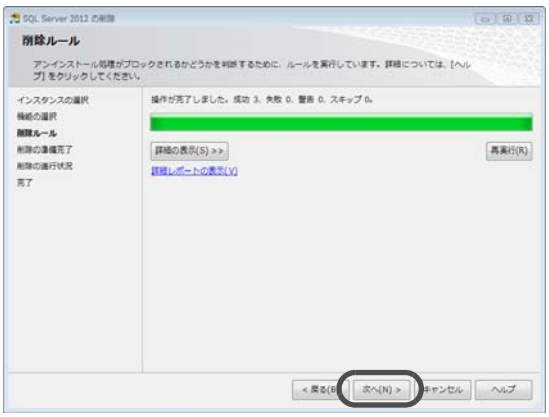
[機能の選択]画面が表示されます。

8. **機能の一覧から[YAYOI:データベースエンジンサービス]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。**



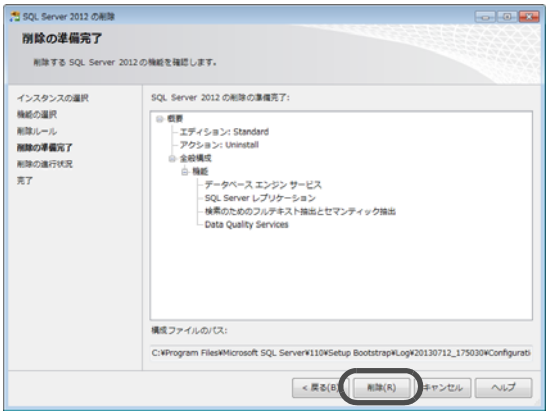
[削除ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。

9. **[次へ]ボタンをクリックします。**



[削除の準備完了]画面が表示されます。

10.[削除]ボタンをクリックします。



削除が開始され、完了すると「完了しました」と表示されます。

11.[閉じる]ボタンをクリックします。

1-4　SQL Server 2008 R2(2008)の場合

☞ データベースを削除する

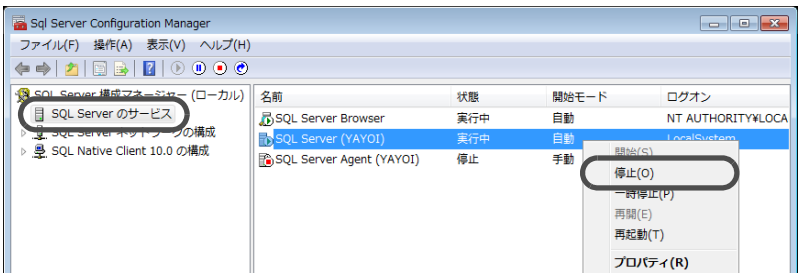
YAYOI インスタンスを使用しているすべての弥生製品が終了していることを確認してください。

<YAYOI インスタンスを停止する>

1. [SQL Server Configuration Manager]を表示します。

- Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
  [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Microsoft SQL Server 2008 R2(または 2008)]－[SQL Server 構成マネージャー](または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。
- Windows 7/Vista/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
  [スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Microsoft SQL Server 2008 R2(または2008)]－[構成ツール]－[SQL Server 構成マネージャー](または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。

2. 右側に表示されているサービスすべて(「SQL Server」や「SQL Server Browser」など)の状態を確認し、[実行中]または[一時停止]になっているものは、右クリックして[停止]を選択します。



注意

サービスを停止する前に確認すること

[SQL Server(YAYOI)]以外のインスタンスが存在する場合は、必ず該当のアプリケーションで必要なデータのバックアップを行ってください。
バックアップ後、管理者に確認のうえインスタンスを停止してください。
インスタンスを停止している間は、そのプログラムは使用できなくなります。

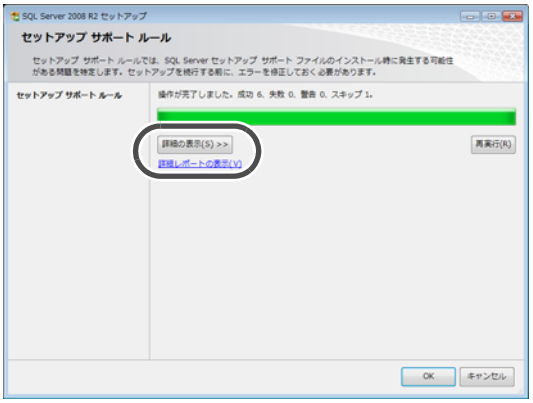
<YAYOI インスタンスを削除する>

1. **コントロールパネルを表示します。**
   - Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
     [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール]－[コントロール パネル]をクリックします。
   - Windows 7/Vista/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
     [スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。
2. **[プログラムのアンインストール]をクリックします。**
3. **表示されるプログラムの一覧から[Microsoft SQL Server 2008 R2 (2008)]を選択します。**
4. **[アンインストールと変更]ボタンをクリックします。**

選択画面が表示されます。

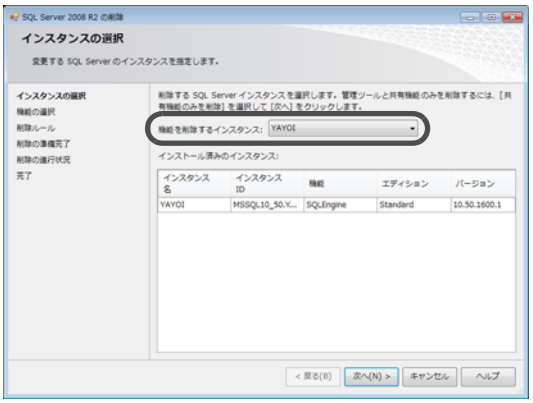
5. [削除]をクリックします。

[セットアップ サポートルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。



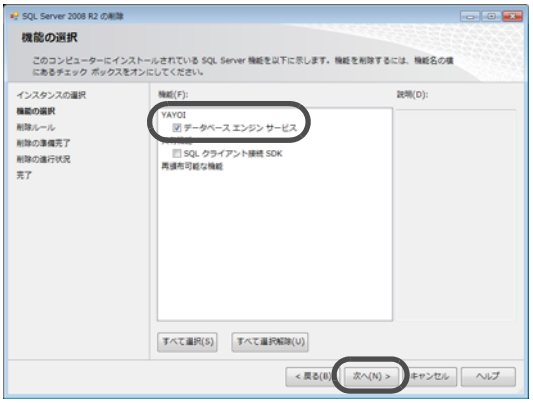
6. [OK]ボタンをクリックします。
[インスタンスの選択]画面が表示されます。

7. [機能を削除するインスタンス]の▼をクリックして[YAYOI]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



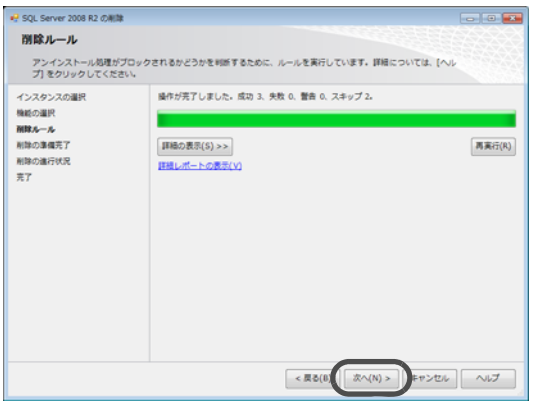
[機能の選択]画面が表示されます。

8. 機能の一覧から[YAYOI:データベースエンジンサービス]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。



[削除ルール]が自動で開始されます。[失敗]、[警告]が表示された場合は、[詳細の表示]ボタンをクリックして原因を確認してください。

9. [次へ]ボタンをクリックします。



[削除の準備完了]画面が表示されます。

10. [削除]ボタンをクリックします。

削除が開始され、完了すると「完了しました」と表示されます。

11.[閉じる]ボタンをクリックします。
SQL Server 2008 の場合は、[次へ]ボタンをクリックして完了画面が表示されたら、[閉じる]ボタンをクリックします。

1-5　SQL Server 2005 の場合

☞ データベースを削除する

YAYOI インスタンスを使用しているすべての弥生製品が終了していることを確認してください。

1. [スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Microsoft　SQL Server 2005]－[構成ツール]－[SQL Server 構成マネージャ](または[SQL Configuration Manager])をクリックします。

2. [SQL Server Configuration Manager]で右側に表示されているサービスすべて(「SQL Server」や「SQL Server Browser」など)の状態を確認し、[実行中]または[一時停止]になっているものは、右クリックして[停止]を選択します。

注意

サービスを停止する前に確認すること

[SQL Server(YAYOI)]以外のインスタンスが存在する場合は、必ず該当のアプリケーションで必要なデータのバックアップを行ってください。バックアップ後、管理者に確認のうえインスタンスを停止してください。インスタンスを停止している間は、そのプログラムは使用できなくなります。

3. [コントロール パネル]の[プログラムのアンインストール(プログラムの追加と削除)]をクリックし、[Microsoft SQL Server 2005]を選択して[アンインストール (変更と削除)]ボタンをクリックします。

4. [インスタンスの選択]で「YAYOI　データベースエンジン」を選択して[次へ]ボタンをクリックし、削除内容に「データベースエンジン:YAYOI」が表示されていることを確認して[完了]ボタンをクリックします。

2　一括バックアップツールの修復と削除

一括バックアップツールの修復と削除について説明します。

☞ 一括バックアップツールを修復または削除する

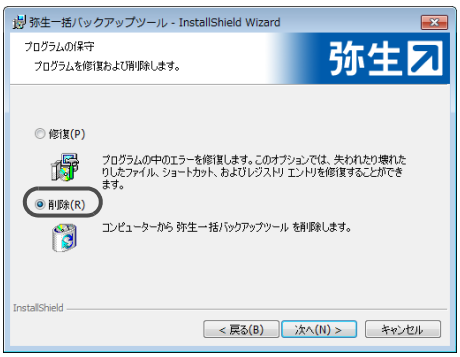
1. 起動しているすべてのプログラムを終了します。
2. コントロールパネルを表示します。
   - Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
     [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール]－[コントロール パネル]をクリックします。
   - Windows 7/Vista/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
     [スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。
3. [プログラムのアンインストール]をクリックします。
4. 表示されるプログラムの一覧から[弥生一括バックアップツール]を選択します。
5. [変更]ボタンをクリックします。

＜一括バックアップツールを修復する場合＞

1. [修復]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。
2. 完了画面が表示されたら、[完了]ボタンをクリックします。

＜一括バックアップツールを削除する場合＞

1. [削除]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



2. 削除の確認メッセージが表示されるので、[削除]ボタンをクリックします。

4

困ったときは

設定などの詳細な内容やエラーメッセージなどについて説明します。

1 設定の詳細 …… 94
2 エラーが表示された場合の対処方法 …… 108

1　設定の詳細

設定などの詳細な内容について説明します。

1-1　環境の設定の詳細

インストールされているデータベースのバージョンの確認方法

下記のいずれかの方法で、インストールされているデータベースのバージョンを確認することができます。

※ 下記の方法で[Microsoft SQL Server]が表示されない場合は、データベースがインストールされていません。

● **[スタート]メニューで確認する**

Windows のスタート画面([スタート]メニュー)の[すべてのアプリ(すべてのプログラム)]から[Microsoft SQL Server]の表示名を確認してください。

● **コントロールパネルで確認する**

1. **コントロールパネルを表示します。**
   - Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
     [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール]－[コントロール パネル]をクリックします。
   - Windows 7/Vista/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
     [スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。
2. **[プログラム]をクリックし、表示された画面で[プログラムと機能]をクリックします。**
3. **プログラムの一覧に表示される[Microsoft SQL Server]の表示名を確認してください。**

ファイアウォールの設定

「SQL Server」の通信を許可するためには、「SQL Server」のプログラム「sqlservr.exe」と「sqlbrowser.exe」に、ファイアウォールのブロックで例外許可を与える必要があります。

ここでは、Windows ファイアウォールの設定方法について説明します。

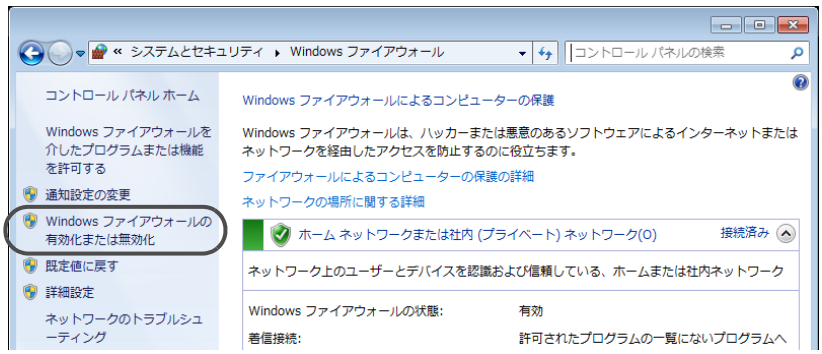
→別途ファイアウォールソフトをインストールしている場合(P105)

最初に、この設定が必要かどうかを確認します。必要な場合は、これらのプログラムの場所を確認します。その後、ファイアウォールで通信許可の設定を行います。

＜設定が必要かどうかを確認する＞

● Windows 10/8.1/7/Windows Server 2012 R2/2012/2008 R2 の場合

1. コントロールパネルを表示します。
   - Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
     [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール]－[コントロール パネル]をクリックします。
   - Windows 7/Windows Server 2008 R2 の場合
     [スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。
2. [システムとセキュリティ]をクリックします。
3. [Windows ファイアウォール]をクリックします。
4. [Windows ファイアウォールの有効化または無効化]をクリックします。

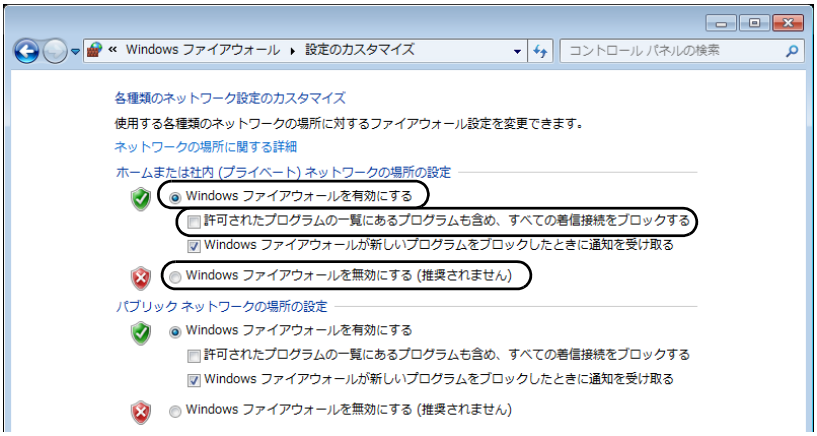


[設定のカスタマイズ]が表示されます。

5. [ホームまたは社内(プライベート)ネットワークの場所の設定]グループの設定を確認し、必要な操作を行います。
   設定を変更する前に、ネットワーク管理者に設定の変更について確認するようにしてください。

   ＜「無効」に設定してある場合＞
   「＜プログラムの場所を確認する＞」(P97)以降のファイアウォールに関する設定は必要ありません。

   ＜「有効」に設定してある場合＞
   - [許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての着信接続をブロックする]にチェックがある場合
     チェックを外し、「＜プログラムの場所を確認する＞」(P97)以降のファイアウォールに関する設定を行います。
   - [許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての着信接続をブロックする]にチェックがない場合
     「＜ プログラムの場所を確認する＞」(P97)以降のファイアウォールに関する設定を行います。



[パブリックネットワークの場所の設定]グループにある、[許可されたプログラムの一覧にあるプログラムも含め、すべての着信接続をブロックする]にチェックがある場合、ネットワーク環境によっては設定を変更する必要があります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

● **Windows Vista/Windows Server 2008 の場合**

1. **[スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。**
2. **[セキュリティ]をクリックします。**
3. **[Windows ファイアウォール]をクリックします。Windows Vista/Windows Server 2008 の場合は、表示された画面で[設定の変更]をクリックします。**

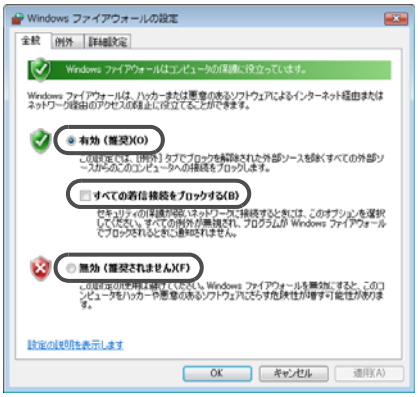
[Windows ファイアウォールの設定]([Windows ファイアウォール])が表示されます。

4. **[全般]タブの設定内容を確認し、必要な操作を行います。**
設定を変更する前に、ネットワーク管理者に設定の変更について確認するようにしてください。

<「無効」に設定してある場合>
「< プログラムの場所を確認する >」(P97)以降のファイアウォールに関する設定は必要ありません。

＜「有効」に設定してある場合＞

- [すべての着信接続をブロックする](または[例外を許可しない])にチェックがある場合
  チェックを外し、「＜プログラムの場所を確認する＞」(P97)以降のファイアウォールに関する設定を行います。
- [すべての着信接続をブロックする](または[例外を許可しない])にチェックがない場合
  「＜ プログラムの場所を確認する＞」(P97)以降のファイアウォールに関する設定を行います。

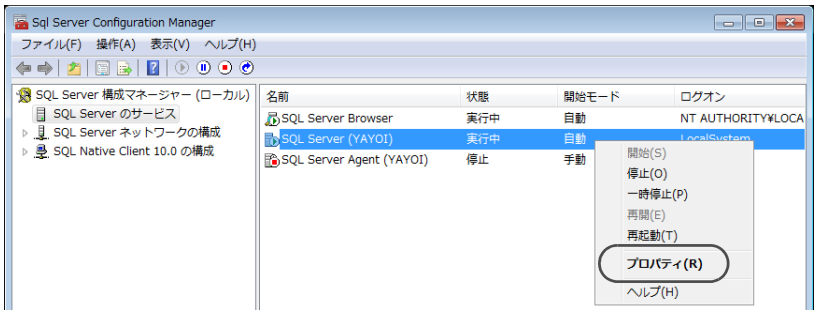


＜プログラムの場所を確認する＞

ここで確認したプログラムの場所は、「＜ファイアウォールで通信許可の設定をする＞」(P99)で使用します。

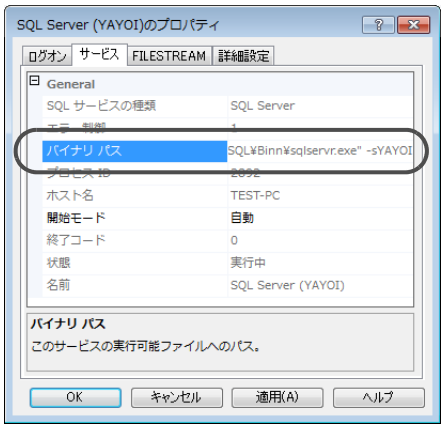
1. [SQL Server Configuration Manager]を表示します。
   - Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
     [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Microsoft SQL Server 2014(または 2012、2008 R2、2008)]－[SQL Server 構成マネージャー](または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。
   - Windows 7/Vista/Windows Server 2008 R2/2008 の場合
     [スタート]ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]－[Microsoft SQL Server 2014(または 2012、2008 R2、2008)]－[構成ツール]－[SQL Server 構成マネージャー](または[SQL Server Configuration Manager])をクリックします。
2. [SQL Server のサービス]をクリックします。
   画面右側の表示が変わるので、「SQL Server (YAYOI)」、「SQL Server Browser」があることを確認してください。

3. **初めに、「sqlservr.exe」の場所を確認します。**
   「SQL Server (YAYOI)」を右クリックし、表示されたメニューから[プロパティ]をクリックします。



[SQL Server (YAYOI)のプロパティ]が表示されます。

4. **[サービス]タブをクリックし、[バイナリ パス]を確認して、この場所をメモしておきます。**
   この表示内容の"」で囲まれた部分が「sqlservr.exe」の場所です。パスが長い場合は、クリックしてキーボードの「→」キーを押すと右端まで見ることができます。C ドライブにデータベースをインストールした場合、パスの表示例は次のとおりです。
   (SQL Server 2016)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL13.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe
   (SQL Server 2014)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL12.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe
   (SQL Server 2012)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL11.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe
   (SQL Server 2008 R2)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10_50.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe
   (SQL Server 2008)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe



5. **画面をキャンセルして、次に「sqlbrowser.exe」の場所を確認します。「SQL Server Browser」を右クリックし、表示されたメニューから[プロパティ]をクリックします。**
   [SQL Server Browser のプロパティ]が表示されます。

6. [サービス]タブをクリックし、[バイナリ パス]を確認して、この場所をメモしておきます。

この表示内容の"|"で囲まれた部分が「sqlbrowser.exe」の場所です。パスが長い場合は、クリックしてキーボードの「→」キーを押すと右端まで見ることができます。

例えば、SQL Server 2014 を C ドライブにインストールした場合は、「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥90¥Shared¥sqlbrowser.exe」(SQL Server 2016/2012/2008 R2/2008 の場合も同じ場所)となります。

＜ファイアウォールで通信許可の設定をする＞

● Windows 10/8.1/7/Windows Server 2012 R2/2012/2008 R2 の場合

1. コントロールパネルを表示します。

- Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合
  [スタート]ボタン(またはスタート画面)からすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール]－[コントロール パネル]をクリックします。
- Windows 7/Vista/Windows Server 2008 R2 の場合
  [スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。

2. [システムとセキュリティ]をクリックします。

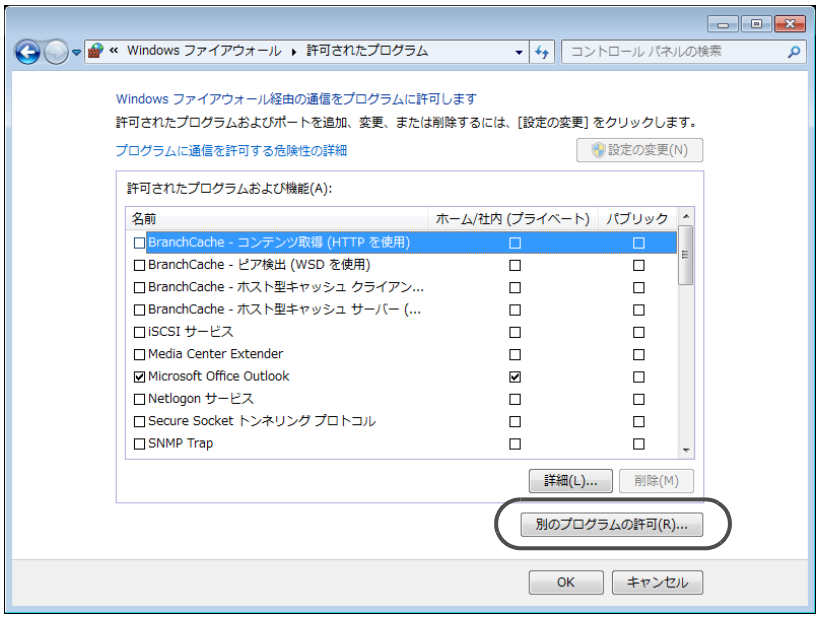
3. [Windows ファイアウォール]をクリックします。

4. [Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する]をクリックします。

[許可されたプログラム]が表示されます。

5. [設定の変更]をクリックします。

[別のプログラムの許可]ボタンが有効になるので、このボタンをクリックします。



[プログラムの追加]が表示されます。

6. 最初に、「SQL Server」のプログラム「sqlservr.exe」の例外設定をします。[プログラムの追加]ダイアログで[参照]ボタンをクリックします。

7.「sqlservr.exe」を選択して［開く］ボタンをクリックします。

「sqlservr.exe」の場所は、< プログラムの場所を確認する>の手順 4（P98）で確認した場所にあります。C ドライブにデータベースをインストールした場合、パスの例は次のとおりです。

（SQL Server 2016）C:￥Program Files￥Microsoft SQL Server￥MSSQL13.YAYOI￥MSSQL￥Binn￥sqlservr.exe

（SQL Server 2014）C:￥Program Files￥Microsoft SQL Server￥MSSQL12.YAYOI￥MSSQL￥Binn￥sqlservr.exe

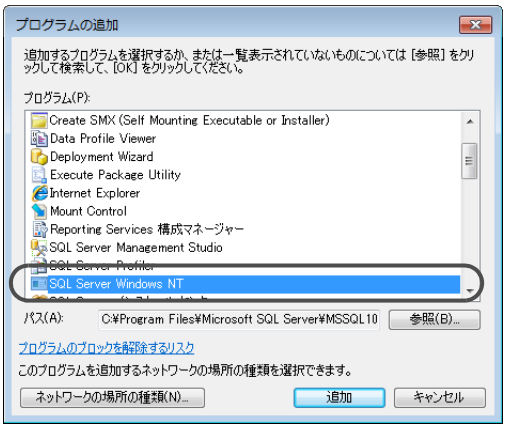
（SQL Server 2012）C:￥Program Files￥Microsoft SQL Server￥MSSQL11.YAYOI￥MSSQL￥Binn￥sqlservr.exe

（SQL Server 2008 R2）C:￥Program Files￥Microsoft SQL Server￥MSSQL10_50.YAYOI￥MSSQL￥Binn￥sqlservr.exe

（SQL Server 2008）C:￥Program Files￥Microsoft SQL Server￥MSSQL10.YAYOI￥MSSQL￥Binn￥sqlservr.exe

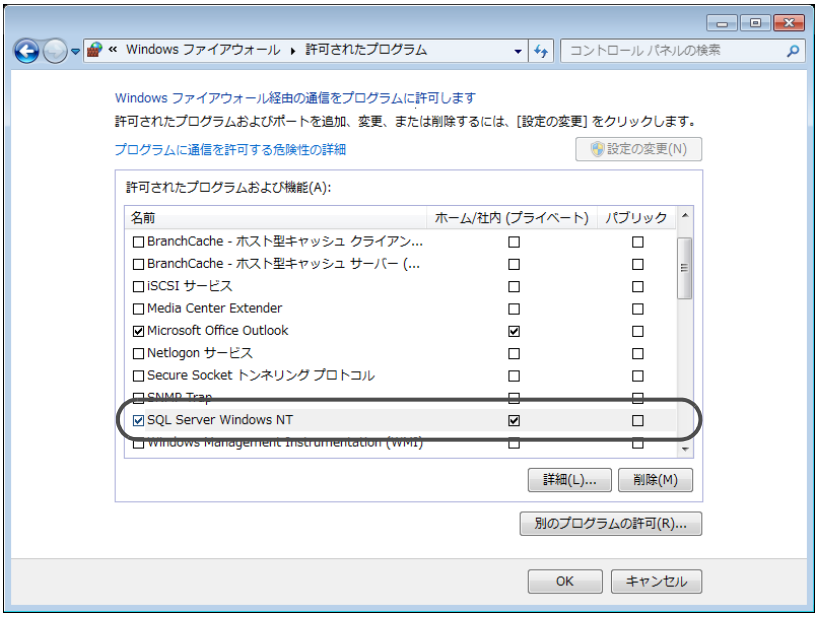
8.［プログラムの追加］ダイアログのプログラムの一覧に「SQL Server Windows NT」が追加されます。

「SQL Server Windows NT」を選択して［追加］ボタンをクリックします。



［許可されたプログラム］が表示されます。

9. [許可されたプログラムおよび機能]に「SQL Server Windows NT」が追加され、チェックが付いていることを確認します。

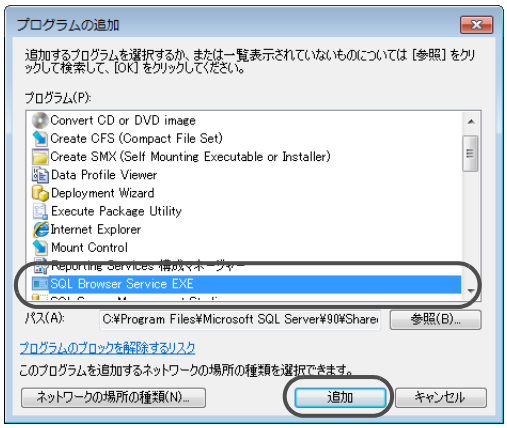


10.次に、「SQL Server」のプログラム「sqlbrowser.exe」の例外設定をします。[別のプログラムの許可]ボタンをクリックし、[プログラムの追加]ダイアログで[参照]ボタンをクリックします。

11.「sqlbrowser.exe」を選択して[開く]ボタンをクリックします。

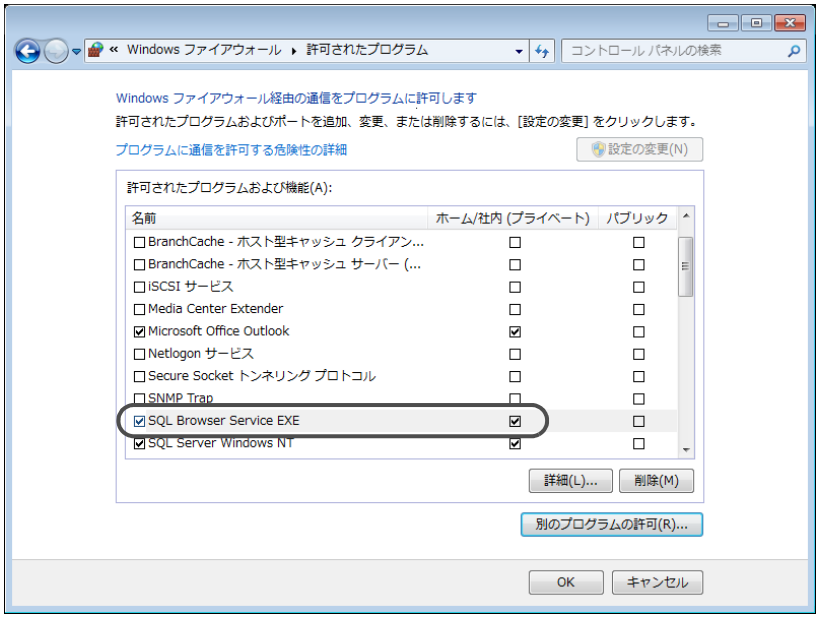
「sqlbrowser.exe」の場所は、< プログラムの場所を確認する>の手順 6 (P99)で確認した場所にあります。
例えば、SQL Server 2014 を C ドライブにインストールした場合は、
「C:￥Program Files￥Microsoft SQL Server￥90￥Shared￥sqlbrowser.exe」(SQL Server 2012/2008 R2/2008 の場合も同じ場所)となります。

12.[プログラムの追加]ダイアログのプログラムの一覧に「SQL Browser Service EXE」が追加されます。
「SQL Browser Service EXE」を選択して[追加]ボタンをクリックします。



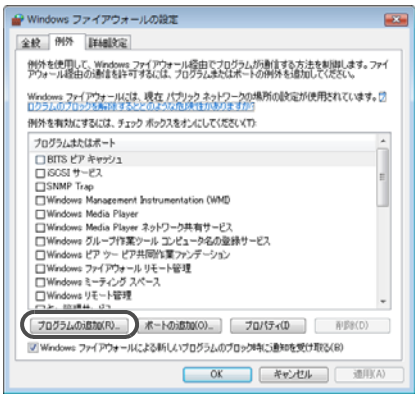
[許可されたプログラム]が表示されます。

13. [許可されたプログラムおよび機能]に「SQL Browser Service EXE」が追加され、チェックが付いていることを確認します。

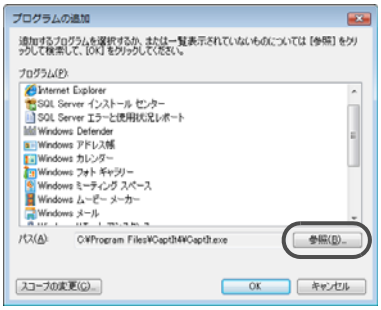


● Windows Vista/Windows Server 2008 の場合

1. [スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]をクリックします。
2. [セキュリティ]をクリックします。
3. [Windows ファイアウォール]をクリックします。Windows Vista/Windows 2008 Server の場合は、[設定の変更]をクリックします。
   [Windows ファイアウォールの設定](または[Windows ファイアウォール])が表示されます。
4. [例外]タブをクリックし、[プログラムの追加]ボタンをクリックします。



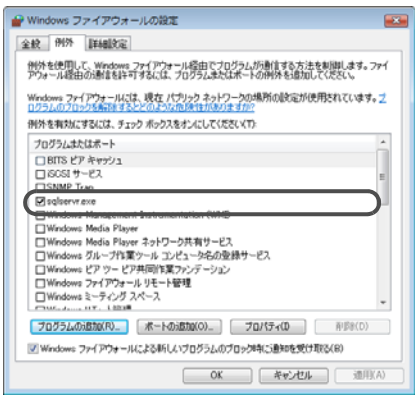
5. 最初に、「SQL Server」のプログラム「sqlservr.exe」の例外設定をします。
[プログラムの追加]ダイアログで[参照]ボタンをクリックします。



6. 「sqlservr.exe」を選択して[開く]ボタンをクリックします。
「sqlservr.exe」の場所は、< プログラムの場所を確認する>の手順 4(P98)で確認した場所にあります。C ドライブにデータベースをインストールした場合、パスの例は次のとおりです。
(SQL Server 2014)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL12.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe
(SQL Server 2012)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL11.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe
(SQL Server 2008 R2)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10_50.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe
(SQL Server 2008)C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10.YAYOI¥MSSQL¥Binn¥sqlservr.exe

7. [プログラムの追加]ダイアログのプログラムの一覧に「sqlservr.exe」が追加されます。
「sqlservr.exe」を選択して[OK]ボタンをクリックします。
[Windows ファイアウォールの設定](または[Windows ファイアウォール])が表示されます。

8. [例外]タブの[プログラムまたはポート](または[プログラムおよびサービス])に「sqlservr.exe」が追加され、チェックが付いていることを確認します。



9. 次に、「SQL Server」のプログラム「sqlbrowser.exe」の例外設定をします。
[プログラムの追加]ボタンをクリックし、[プログラムの追加]ダイアログで[参照]ボタンをクリックします。

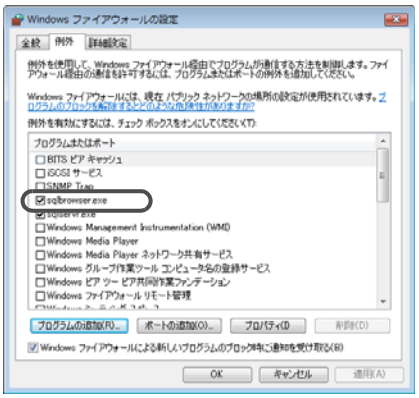
10.「sqlbrowser.exe」を選択して[開く]ボタンをクリックします。

「sqlbrowser.exe」の場所は、< プログラムの場所を確認する >の手順 6（P99）で確認した場所にあります。
例えば、SQL Server 2014 を C ドライブにインストールした場合は、「C:￥Program Files￥Microsoft SQL Server￥90￥Shared￥sqlbrowser.exe」（SQL Server 2012/2008 R2/2008 の場合も同じ場所）となります。

11.[プログラムの追加]ダイアログのプログラムの一覧に「sqlbrowser.exe」が追加されます。
「sqlbrowser.exe」を選択して[OK]ボタンをクリックします。

[Windows ファイアウォールの設定]（または[Windows ファイアウォール]）が表示されます。

12.[例外]タブの[プログラムまたはポート]（または[プログラムおよびサービス]）に「sqlbrowser.exe」が追加され、チェックが付いていることを確認して、[OK]ボタンをクリックします。



別途ファイアウォールソフトをインストールしている場合

サーバーに Windows のファイアウォール機能以外に別途ファイアウォールソフトをインストールしている場合も同様に、「SQL Server」のプログラム「sqlservr.exe」と「sqlbrowser.exe」に例外許可を設定する必要があります。
方法については、ファイアウォールソフトの提供会社へご確認ください。

バックアップ用共有フォルダーの設定

バックアップファイルの作成と復元では、サーバーの次の共有フォルダー(「Backup」フォルダー)を一時的に使用しています。このフォルダーに共有名を設定し、バックアップを行うログインユーザーに共有フォルダーの「書き込み」「読み取り」「変更」ができるアクセス権限を設定する必要があります。

システムドライブが C ドライブの場合

- 共有フォルダー「C:￥ProgramData￥Yayoi￥Backup」
- 共有名「YAccBackup$」

バックアップを行うログインユーザーにこのフォルダーへのアクセス権限がない場合はバックアップ処理がエラーになります。この場合は、このフォルダーのアクセス権限を確認してください。

なお、Windows のエクスプローラーで、共有フォルダーのパスを直接入力するとエラーが発生することがあります。その場合は、エクスプローラーで、上位のフォルダーから順番にたどって共有フォルダーにアクセスしてください。

＜弥生製品ネットワーク for SQL の場合＞

弥生製品ネットワーク for SQL の場合、バックアップファイル用の共有フォルダーは自動で作成されません。任意のフォルダーをバックアップ用の共有フォルダーとして設定してください。

バックアップ用共有フォルダーは、必ず作成してください。

＜任意のフォルダーを共有フォルダーに設定する＞

サーバーの設定を変更できず、上記の初期設定の「Backup」フォルダーのアクセス権限を許可できない場合は、サーバーの他の共有フォルダーをバックアップ先の共有フォルダーとして設定できます。

バックアップ用共有フォルダーの共有名を変更したときは

バックアップ用共有フォルダーの共有名を「YAccBackup$」以外の名称に設定した場合、弥生製品でも共有名を設定する必要があります。
設定の詳細は弥生製品のヘルプを参照してください。

→ヘルプ「バックアップ先の共有フォルダーの設定」

1-2　インストール中の設定の詳細

sa パスワードの指定後に必要な設定

データベースのインストール中に指定した sa パスワードは、ご利用いただいているすべての弥生製品（弥生会計、弥生販売、弥生一括バックアップツール）でも設定する必要があります。各弥生製品の「サーバーの詳細設定」で設定することにより、データベースにアクセスすることが可能になります。

→『インストール・コンバートマニュアル』－「データベースへの接続設定」

sa パスワードの指定要件が異なる場合

データベースをインストールするコンピューターの環境によっては、sa パスワードを指定する要件が異なる場合があります。使用している環境でのパスワード指定要件は、ローカルセキュリティポリシーを確認してください。

＜ローカルセキュリティポリシーの確認方法＞

1. **［ローカル セキュリティ ポリシー］ウィンドウを表示します。**

   ＜ Windows 10/8.1/Windows Server 2012 R2/2012 の場合＞
   ［スタート］ボタン（またはスタート画面）からすべてのアプリを表示して、［Windows システム ツール］－［ファイル名を指定して実行］をクリックします。［名前］に「mmc.exe secpol.msc」と入力して［OK］ボタンをクリックします。

   ＜ Windows 7/ Vista の場合＞
   ［スタート］ボタンをクリックし、［プログラムとファイルの検索］に「mmc.exe secpol.msc」と入力して［Enter］キーを押します。

   <Windows Server 2008 R2/2008 の場合 >
   ［スタート］ボタンをクリックし、［すべてのプログラム］－［管理ツール］－［ローカル セキュリティ ポリシー］を右クリックし、表示されるメニューの［管理者として実行］を選択します。

2. **画面左側の［セキュリティの設定］から、［アカウント ポリシー］－［パスワードのポリシー］を選択します。**

3. **画面右側でセキュリティ設定を確認します。**
   - Windows 10/8.1/7/Windows Server 2012 R2/2012/2008 R2
     ［複雑さの要件を満たす必要があるパスワード］
   - Windows Vista/Windows Server 2008
     ［パスワードは、複雑さの要件を満たす必要がある］

2　エラーが表示された場合の対処方法

インストールや製品使用時に表示されるエラーメッセージについて説明します。
表示されるメッセージは製品やお客さまの環境により、若干異なる場合があります。

2-1　インストール

● **「インストールしようとしているコンピューターは 32 ビット版の OS を使用しています。」と表示された場合**

32 ビット版の OS に 64 ビット版 SQL Server の DVD-ROM を使用してインストールしようとしています。「32 ビット」と記載された DVD-ROM を使用してインストールしてください。

● **「インストールしようとしているコンピューターは 64 ビット版の OS を使用しています。」と表示された場合**

64 ビット版の OS に 32 ビット版 SQL Server の DVD-ROM を使用してインストールしようとしています。特段の事情がなければ「64 ビット」と記載された DVD-ROM を使用してください。

● **「インストールを行うには、管理者権限が必要です。」と表示された場合**

インストールには、ログオンしているユーザーに Windows の管理者権限が必要です。
管理者権限のあるユーザーでログオンをし、インストールを行ってください。

● **「SQL Server 2005 が既にインストールされているため、SQL Server 2014 Standard Edition はインストールできません。インストールを中断します。」と表示された場合**

SQL Server 2005 は、動作対応外です。SQL Server 2005 をご使用の場合は、SQL Server 2014 または SQL Server 2012 へ移行してください。
なお、SQL Server 2005 がインストールされている状態では、SQL Server 2014 はインストールできません。データベース（YAYOI インスタンス）のデータをバックアップしてから、SQL Server 2005 を削除し、SQL Server 2014 へ移行してください。

● **「SQL Server 7.0 が既にインストールされているため、SQL Server 2014 Standard Edition（SQL Server 2012 Express）はインストールできません。インストールを中断します。」と表示された場合**

インストールしようとしているコンピューターが動作要件を満たしていません。
製品の仕様により、SQL Server 7.0（または 6.5）がインストールされているコンピューターには、インストールを行うことができません。
動作要件を満たしているコンピューターでインストールを行ってください。

→既に SQL Server がインストールされている場合（P8）

● **「YAYOI インスタンスが既に存在しているため、SQL Server 2014 Standard Edition(SQL Server 2012 Express)のインストールは行いません。」と表示された場合**

YAYOI インスタンスは弥生製品共通で使用しますので、弥生会計、弥生販売を使用している場合には、既に YAYOI インスタンスが存在していることがあります。この場合は、既に存在する YAYOI インスタンスをそのまま使用します。データベースのインストールは中断されますので、引き続き、製品をインストールします。

→既に SQL Server がインストールされている場合(P8)

2-2　データの新規作成／コンバート／製品の起動／バックアップなど

● **「サーバーにアクセスできませんでした。」と表示された場合**

いくつかの原因が考えられます。次の項目を上から順に確認してください。
データベースをインストールしたコンピューターをサーバー、弥生製品をインストールしたコンピューターをクライアントとしています。
下記の表のサーバー欄、クライアント欄は、チェック欄としてご利用ください。
サーバーの設定はネットワーク管理者に確認してください。

確認項目	サーバー	クライアント
データベースがインストールされているか **→インストールされているデータベースのバージョンの確認方法(P94)**		−
コンピューター名が変更されていないか(旧製品からご利用の場合のみ) **→ネットワーク環境に関する注意(「コンピューター名の変更」(P12))**		−
YAYOI インスタンスが起動しているか **→YAYOI インスタンスの確認と実行方法(P75)**		−
sa パスワードの設定が適切に行われているか **→『インストール・コンバートマニュアル』−「データベースへの接続設定」** **→『インストール・コンバートマニュアル』−「ログインパスワード(sa パスワード)の設定」** **→『インストール・コンバートマニュアル』−「クライアントからサーバーに接続する」(弥生販売のみ)**		
ファイアウォールの設定が適切に行われているか **→ファイアウォールの設定(P12)**		−
データを保存しているコンピューター(サーバー)へのアクセス権限が設定されているか **→サーバーへのアクセス権限の確認(P12)**		−
SQL の設定が適切に行われているか **→SQL Server ネットワークユーティリティの設定(P11)** **→SQL クライアント設定ユーティリティ(P13)**		

● **「SQL Server 2005 以前のバージョンです。」と表示された場合**

SQL Server 2005 は動作対応外です。SQL Server 2005 をご使用の場合は、SQL Server 2014 または SQL Server 2012 へ移行してください。
なお、SQL Server 2005 がインストールされている状態では、SQL Server 2014 はインストールできません。データベース(YAYOI インスタンス)のデータをバックアップしてから、SQL Server 2005 を削除し、SQL Server 2014 へ移行してください。

→SQL Server 2005 からの移行(P115)

● **「既に同じ名前の事業所データが存在します。」と表示された場合**

事業所データ名を同じ名前で作成することはできません。事業所データ名を変更してデータの作成またはコンバートを行ってください。

● **「既に同名のユーザーがログインしているため、処理を実行できません。」と表示された場合**

事業所データへは、同じユーザーで同時にログインすることはできません。
複数のユーザーを登録することで、同時に複数のコンピューターから事業所データへ接続して、作業をすることができます。別のユーザーでログインするか、ユーザーの追加登録を行ってください。

→ヘルプ「ユーザーの登録」

● **「事業所データとの接続が失われました。」と表示された場合**

データを保存しているコンピューター（サーバー）との接続が失われた場合に発生する現象です。次のような場合に、データを保存しているコンピューター（サーバー）との接続が失われます。

- データを保存しているコンピューター（サーバー）を再起動、またはシャットダウンした
- データを保存しているコンピューター（サーバー）が、スリープやスタンバイなどの状態になった

→省電力の設定（P11）

- 何らかの原因により、ネットワークの接続が切れた

この場合は、弥生製品を一度終了し、サーバーが起動していること、ネットワーク上でサーバーとの接続ができていることを確認し、再度、弥生製品を起動してください。

● **「事業所データのバックアップ中にエラーが発生しました。」と表示された場合**

事業所データをバックアップする際に使用しているフォルダーへのアクセス権限が必要です。データを保存しているコンピューター（サーバー）で共有フォルダーの設定をします。

→バックアップ用共有フォルダーの設定（P106）

● **「バックアップファイルの復元中にエラーが発生しました。」と表示された場合**

事業所データのバックアップファイルを復元する際に使用しているフォルダーへのアクセス権限が必要です。データを保存しているコンピューター（サーバー）で共有フォルダーの設定をします。

→バックアップ用共有フォルダーの設定（P106）

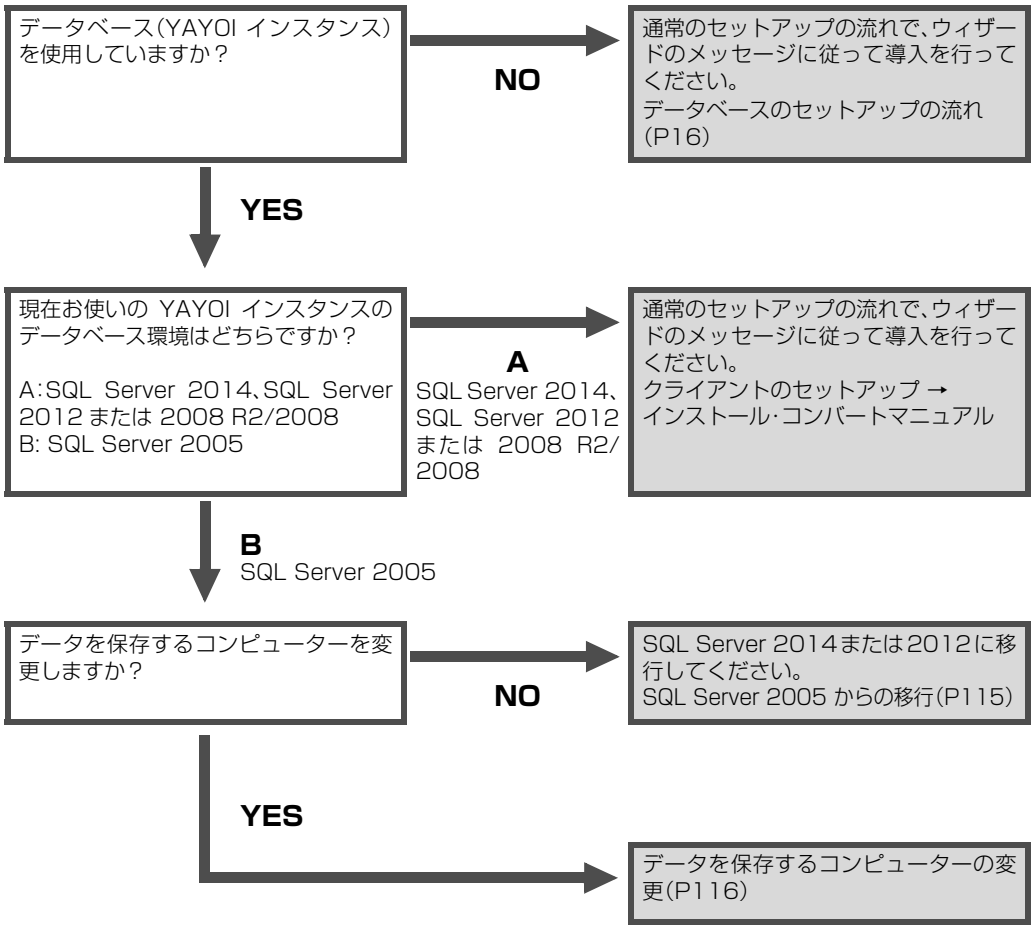
5

付録

1 既に弥生製品をお使いの場合 …… 114
2 SQL Server 2005 からの移行 …… 115
3 データを保存するコンピューターの変更 …… 116

1　既に弥生製品をお使いの場合

現在、弥生製品をお使いの場合は、使用している弥生製品のデータベース環境によってセットアップの手順が異なります。現在お使いの弥生製品とデータベース環境を確認して、フローチャートに沿ってセットアップ手順を確認します。



2 SQL Server 2005 からの移行

SQL Server 2005 は、動作対応外です。SQL Server 2005 をご使用の場合は、下記手順に従って SQL Server 2014 または SQL Server 2012 への移行を行ってください。
なお、SQL Server 2005 がインストールされている状態では、SQL Server 2014 はインストールできません。データベース（YAYOI インスタンス）のデータをバックアップしてから、SQL Server 2005 を削除し、SQL Server 2014 へ移行してください。

1. データベース（YAYOI インスタンス）のデータをバックアップします。
YAYOI インスタンスにある弥生製品（弥生会計、弥生販売）の全データをバックアップします。一括バックアップツールを使用すると、YAYOI インスタンスにある弥生製品の全データを一括でバックアップすることができます。
一括バックアップツールの操作方法については、弥生製品（弥生会計、弥生販売）を起動して、弥生製品（弥生会計、弥生販売）のヘルプを参照してください。

2. データベース（YAYOI インスタンス）を削除します。
以前のバージョンの YAYOI インスタンスを削除します。
YAYOI インスタンスを削除すると、データベースに保存されているすべてのデータが削除され元に戻すことはできません。

→SQL Server 2005 の場合（P91）

他の弥生製品をご使用の場合

YAYOI インスタンスは、弥生販売、弥生会計プロフェッショナル 2 ユーザー、ネットワーク、AE で使用します。バックアップの際に一括バックアップツールを使用しなかった場合は、他の弥生製品でもバックアップを必ず行ってください。
また、SQL Server 2014 または SQL Server 2012 への移行を行う前に、YAYOI インスタンスを使用する他の弥生製品が移行する SQL Server に対応していること、移行に際してライセンスなどに問題がないことをご確認ください。
対応していない製品がある場合や問題がある場合は、対応製品へのバージョンアップや、データを保存するコンピューターの変更を検討してください。

→データを保存するコンピューターの変更（P116）

---

3. 弥生 17 製品の DVD-ROM から、データベースをインストールします。

→データベースのセットアップの流れ（P16）

4. YAYOI インスタンスにデータを復元します。
手順 1 で作成したバックアップファイルを復元します。バックアップに一括バックアップツールを使用した場合は、弥生製品の全データを一括で復元することができます。
一括バックアップツールの操作方法については、弥生製品（弥生会計、弥生販売）を起動して、弥生製品（弥生会計、弥生販売）のヘルプを参照してください。

3　データを保存するコンピューターの変更

YAYOI インスタンスを使用する他の弥生製品が SQL Server 2014 または SQL Server 2012 に対応していないなどの理由で、弥生 17 製品へのバージョンアップ時に、データを保存するコンピューター(サーバー)を変更する場合は、下記の手順に従って、移行を行ってください。

1. **データベース(YAYOI インスタンス)のデータをバックアップします。**
   YAYOI インスタンスにある弥生製品(弥生会計、弥生販売)の全データをバックアップします。一括バックアップツールを使用すると、YAYOI インスタンスにある弥生製品の全データを一括でバックアップすることができます。
   一括バックアップツールの操作方法については、ヘルプを参照してください。

2. **変更先のコンピューターにデータベースと一括バックアップツールをインストールします。**
   弥生 17 製品の DVD-ROM から、変更先のコンピューターにデータベースと一括バックアップツールをインストールします。
   →データベースのセットアップの流れ(P16)

3. **クライアントコンピューターの弥生製品で、手順 1 のバックアップデータを復元します。**
   バックアップデータの復元方法は、ヘルプを参照してください。一括バックアップのバックアップデータを復元する場合は、手順 2 のコンピューターにインストールした一括バックアップツールからバックアップデータを復元します。

4. **クライアントコンピューターの弥生製品を弥生 17 製品にバージョンアップします。**
   →『インストール・コンバートマニュアル』－「弥生販売(弥生会計)のインストール」

5. **クライアントコンピューターの弥生 17 製品で、旧製品の事業所データをコンバートします。**
   →『インストール・コンバートマニュアル』－「旧製品からの移行」

6. **クライアントコンピューターの弥生 17 製品で、データベースがインストールされたサーバーへ接続設定を変更します。**
   クライアントコンピューターから事業所データの接続先を、手順 2 でデータベースをインストールしたサーバーへ接続先を変更します。クライアントコンピューターが複数ある場合は、すべてのコンピューターで設定をし直します。
   →『インストール・コンバートマニュアル』－「データベースへの接続設定」

MEMO

MEMO

MEMO

弥生 17 シリーズ
データベースインストールマニュアル

・初　版　2016 年 8 月 25 日
・発行所　弥生株式会社
〒 101-0021
東京都千代田区外神田 4 丁目 14 番 1 号
秋葉原 UDX21 階
www.yayoi-kk.co.jp

・ご注意　① 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。

② 本書の内容に関しては訂正・改善のため、将来予告なしに変更することがあります。

③ 落丁、乱丁はお取り替えいたします。

Copyright © 2016 Yayoi Co., Ltd. All rights reserved.